

服飾芸術科  
専門教育科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：必修
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
Subject Code：F21A01			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	2年間の短期大学生活で修得する知識や思考力、コミュニケーション能力を通して、前半は自身の学修成果と学生生活を振り返る。後半では港区Kissポート財団との産学連携により、各モデルに適したプログラムでプレゼンテーションに取り組む。産学連携の活動は、地域貢献をすることを目標としている。 (授業目標) ◎B：産学連携プログラムでグループワークや地域連携でコミュニケーション能力を身につける。 ○C：プレゼンテーションのテーマにふさわしい内容を構成することで思考力・判断力を修得する。		
授業計画	1	ガイダンス（服飾芸術科専任教員） 2年間の学びの振り返り、eポートフォリオ制作に向けての概要	
	2	TOITA Fes準備、避難訓練（服飾芸術科専任教員） TOITA Fes準備、避難訓練	
	3	履修登録の確認、個別指導（1）（服飾芸術科専任教員） 卒業要件に対する履修状況の確認、個別指導（1）	
	4	eポートフォリオ制作（1）、個別指導（2）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、eポートフォリオの内容確認、調査方法、制作方法をまとめた研究計画書の提出 制作（1）、個別指導（2）	
	5	eポートフォリオ制作（2）、個別指導（3）（服飾芸術科専任教員） eポートフォリオ計画書の確認、制作の手法指導、制作（2）、個別指導（3）	
	6	eポートフォリオ制作（3）、個別指導（4）（服飾芸術科専任教員） 制作（3）、個別指導（4）	
	7	各アドバイザーによるeポートフォリオの確認 産学連携（1）（服飾芸術科専任教員） 港区Kissポート財団との産学連携に向けて～ガイダンス	
	8	産学連携（2）（服飾芸術科専任教員） 港区Kissポート財団との産学連携に向けて～グループ分け、プレゼンテーション・テーマの研究及び決定	
	9	産学連携（3）（グループワーク）（服飾芸術科専任教員） プレゼンテーション制作	
	10	「生涯の学び」（菊池桃子客員教授） キャリア形成に必要な考え方について	
	11	産学連携（4）（グループワーク）（服飾芸術科専任教員） プレゼンテーション制作	
	12	「民法講座」 ゲスト講師による「民法講座」	
	13	産学連携（5）（服飾芸術科専任教員） プレゼンテーションの完成、指導教員による内容確認及びプレゼンテーション指導	
	14	PROGテスト PROGテスト	
	15	産学連携（6）（プレゼンテーション）（服飾芸術科専任教員） まとめとして港区Kissポート財団に対してプレゼンテーション、意見交換及び評価	
到達目標・基準	◎B：自分の役割を明確にし、周囲の人々とコミュニケーションを図りながら参加できる。 ○C：プレゼンテーションのテーマに沿った構成を思考し説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：設定したテーマを表現するにあたり、どのような手法がふさわしいかを考えること（20分）。 事後学習：進捗過程に合わせて教員に指導を仰ぎ、友人と意見交換を行いながら修正を行うこと（25分）。		
指導方法	2年間の学習成果のまとめ方を指導する。産学連携のプレゼンテーションにおいて、研究内容やプレゼンテーション方法について個別もしくはグループでの指導を行う。		
成績評価の方法・基準	B：受講態度やワークに対する貢献度を評価する。 C：プレゼンテーションの資料や作品、発表方法を評価する。 課題 70%、授業態度・貢献度 30%		
テキスト	なし		
参考書	適宜、指示する		

履修上の注意	2年間における学修成果の達成状況を確認するゼミである。また、産学連携に於いては地域で行われている活動を精査し、関係者と意見交換をしながらプレゼンテーションに臨むこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F12A02			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッション造形（服飾造形）は、アート（芸術）、建築、デザイン、音楽、カルチャー（文化）などと、さまざまな関わりをもって創造される。ファッションデザイナー達は、アートをデザインソース（源泉）として、インスパイア（創作意欲を刺激）され、あるいはオマージュ（賛辞）を捧げるためにシーズンコレクションを発表することに力を注いでいる。本講義は、プロダクトデザイン（服飾製品）が生まれた源泉（芸術）を捉えつつ、デザイナーの個性はもちろんのこと、社会構造や時代背景との関わりについて解説をしていく。</p> <p>（授業目標） 服飾造形が生まれた源泉について、芸術領域の観点から考察する。 ◎D：各時代における社会構造や時代背景をふまえ、服飾造形の特徴と芸術との関わりを理解する。</p>		
授業計画	1	ファッションとアートの関連性 サンローランとモンドリアン、ルイヴィトンと村上隆などの作品にみるファッションとアートの関わりについて	
	2	19世紀末の装飾芸術「アールヌーボー」 資生堂のロゴマーク、広告とパッケージデザインにみる芸術的造形について	
	3	1920年代の世界恐慌と退廃美「シュルレアリスム」 スキヤパレリとダリ、コクトーのコラボレーションについて	
	4	1930年代の低コストモダン「アールデコとミニマリズム」 シャネルとポールポワレ、ラルリックの香水瓶、バウハウスの合理主義・機能主義について	
	5	1960年代の大衆消費社会イメージ「ポップアート」 アンディウォーホル、キースヘリングによるコミック表現について	
	6	1970年代のカウンターカルチャー「サイケデリックムーブメント」 寺山修二、横尾忠則にみる舞台芸術、エミリオプッチの色彩柄について	
	7	1980年代前半の反美学「ポストモダン」 川久保玲、山本耀司による表現、三宅一生の一枚布について	
	8	1980年代後半の造形美「ボディコンシャス」 アズティンアライアの功績とその後の影響力について	
	9	1990年代初頭の最小限美学「ネオミニマリズム」 ヘルムートラング、ジルサンダーにみるリアルクローズファッションについて	
	10	1990年代後半のカルチャーファッション「グランジルック」 ヒップホップとファッション、マルジェラのモードとエレガンスについて	
	11	ファッション誌を演出した芸術家たち ハーバースパザーとヴォーグを彩った芸術家、フォトグラファーについて	
	12	エンタテインメント化するファッションショー シャネル、マックイーン、ヴィクター&ロルフにみる劇場化について	
	13	デザイナーのミューズ（女神）とそのライフスタイル イーディ、ナオミキャンベル、ケイトモスのファッションと生き方について	
	14	映画と衣装デザイナーの関係 映画に登場するサンローラン、ラルフローレン、アルマーニ、ゴルチェの衣装デザインについて	
	15	21世紀を代表するデザイナーのポジショニング エンタテイナーのカーララガーフェルドとエコロジカルなステラマッカートニーの文化的活動について	
到達目標・基準	◎D：各時代における服飾造形の特徴と芸術のテーマについて説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：講義内容のテーマについて、図書館等で調べておくこと（90分）。 事後学習：講義の事例以外の内容について、各時代の特徴を図書館や美術館等で確認すること（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心掛けることが大切である。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験70%、受講態度・貢献度20%、課題10%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	「ファッションの世紀 共振する20世紀のファッションとアート」著者：深井晃子 出版社：平凡社		
履修上の注意	受講生が本科目を理解するうえで大切な姿勢は、講義に関連する内容について、日頃から図書館で文献を調べたり、映画、舞台芸術、美術館で確認する習慣を身につけることである。		
アクティブ・ラーニング	特になし		

ICTの活用	特になし
--------	------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
Subject Code : F12A03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>衣服を考える時、自然環境や歴史、習慣や職業、着心地やファッションセンスなど、様々な条件が挙げられる。その基本は、個々の人体に対する快適な衣環境として、素材・デザイン・縫製等が不可欠であり、体型に適合した衣服を着用することは、快適な衣生活の条件と考えられる。本講義は、衣服の起源から始まり、既製衣料までを大きく「環境」「人体」「生産」「消費」の項目に分けて解説する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：人体構造および素材、デザイン、縫製等の知識にもとづいて、着心地を評価できる思考力を身につける。</p> <p>◎D：着衣基体である人体構造と素材、デザイン、パターン設計の関係について理解する。</p>		
授業計画	1	衣服の起源と推移 衣服着装の動機と諸説および衣服と気候、風土、生活様式の影響	
	2	衣服と環境 (1) 立体構成と平面構成	
	3	衣服と環境 (2) 日本の伝統衣裳、和服の形態的特徴と基礎知識	
	4	衣服と人体 (1) 人体構造と体型	
	5	衣服と人体 (2) 人体計測、体型情報と体型分類	
	6	衣服と人体 (3) 衣服圧、日常生活における動作	
	7	衣服と人体 (4) 衣服の美的因子と身体因子とデザイン	
	8	衣服と人体 (5) 衣服の形態表現、シルエットとディテール	
	9	衣服と生産 (1) 素材と造形性能、デザインに関わる素材と造形	
	10	衣服と生産 (2) 被服材料、種類と工程	
	11	衣服と生産 (3) 衣服の種類とサイズ	
	12	衣服と生産 (4) アパレル設計、パターン設計におけるゆとり	
	13	衣服と生産 (5) 既製服衣料の製造工程と生産	
	14	衣服と消費 (1) 既製服衣料の選択と購入、品質とサイズ表示	
	15	衣服と消費 (2) 衣生活と環境	
到達目標・基準	○C：着心地の良い衣服の条件や、着心地を評価する方法について説明できる。 ◎D：体型分類、寸法、布地の扱い方について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：授業計画のテーマについて検索し、知識を得ておくこと (90分)。 事後学習：人体と衣服の関係性を多面的に捉え、実証できるように、知識と技術の理解を深め復習をしておくこと (90分)。		
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、講義形式で行う。 衣服に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。		
成績評価の方法・基準	C：課題、定期試験を評価する。 D：定期試験を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布		
参考書	『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』：笠井フジノ, 他6名, 文化出版局 『アパレル構成学 着やすさと美しさを求めて』：富田明美, 株式会社朝倉書店		

履修上の注意	衣服製作を行うための基礎となる理論を学修する。日頃着用する衣服がどのような構造によってできているのか、また着心地に関して考えること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>価値ある作品には、色彩や形状が巧みに構成されているものが多い。衣服をはじめとする商品のデザインにも、芸術作品から着想を得て生まれたものが多く存在する。芸術作品が生まれた時代背景や、どのような発想をもとに生まれたのかを、作品映像等を用いて解説する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：広く知られる作品の必然性や意味を知り、自らの価値観と照らし合わせた上で作品の感想を述べることができる。</p> <p>◎D：それぞれの時代の特徴と、現代における影響力について説明することができる。</p>
授業計画	<p>1 デザイン、アートとは（グループワーク） デザインやアートの成り立ち、見方 ブレインストーミングにより、芸術（アート）という言葉から連想する言葉を提案し、発想することの重要性を学ぶ</p> <p>2 美術の起源、古代ローマ、ギリシャ、初期キリスト教美術 ラスコーの壁画から三大文明までの美術、日本における石器時代の生活におけるデザイン アルカイック美術、エトルリア美術、紀元前の地中海の文化 キリスト教誕生から、紀元5世紀頃までの美術の流れ</p> <p>3 中世ルネサンス 初期キリスト教美術に続きロマネスク美術、ゴシック美術を経てイタリアにおけるルネサンス文化</p> <p>4 17世紀、19世紀における西洋美術 ルネサンスから続くバロック、ロココ美術の流れや、フランス革命から生じた一連の美術、文化の流れ</p> <p>5 産業革命とデザイン、ファッション 産業革命をきっかけに生まれた、ウィリアム・モリス等に代表されるモダンデザインについて</p> <p>6 印象派、ジャポニズム、アールヌーヴォー 19世紀から始まる印象派の流れと、影響を与えた日本の美術</p> <p>7 旧石器時代から明治までの日本の美術の流れ 縄文時代から継がれる日本独自の文化と、朝鮮半島や西洋からの文化の影響を受けたことによる日本の文化の変化の流れ</p> <p>8 シュルレアリズム、抽象表現主義 ダリ、マックスエルンストなどのシュルレアリストからの抽象表現の流れ</p> <p>9 キュビズム、バウハウス ピカソ、ブラック、マチスらキュビズムの作家とバウハウスの講師、そこから生まれたデザインについて</p> <p>10 コンセプチュアルアート、ポップアートなどの戦前、戦後における芸術の変化 マルセルデュシャン、アンディウオーホルとその周辺の作家、ファッションの動きについて</p> <p>11 映像による表現について ビデオアートやプロモーションビデオなど、映像表現の発展について</p> <p>12 インスタレーションについて ギャラリーや美術館の外へ広がる表現と、舞台、劇場との関係性について</p> <p>13 テクノロジーの発展による制作の多様化 デジタル技術の発展がデザイン、アートに及ぼす影響</p> <p>14 仮想現実の表現の発展について 映画やエンタテインメント業界における仮想現実空間の表現の発展と、芸術との関係性について</p> <p>15 これからのデザイン、アート 今後のデザイン、アートの世界がどのように変化していくかについて</p>
到達目標・基準	<p>○C：広く知られている作品のテーマについて説明できる。</p> <p>◎D：基本的なデザイン、アートの歴史について説明することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：美術館、ギャラリーにて多くの作品を鑑賞する(120分)。 事後学習：講義でとりあげた作家や作品とその時代背景との関連性などを考察する(60分)。</p>
指導方法	<p>講義に関連するDVDやパワーポイント等の視覚媒体を使用しながら解説を行う。 小テスト：①小テスト実施、②採点后、返却、③授業で質疑対応 レポート提出：①事前課題を提示、②レポート提出(学生)、③採点后、返却、④授業で質疑対応 リアクションペーパー：①授業終了後に提出(学生)、②授業で質疑対応</p>
成績評価の方法・基準	<p>C：レポート課題、リアクションペーパー D：定期試験、小テスト</p>



	定期試験60%、小テスト10%、レポート課題10%、リアクションペーパー・授業態度および貢献度20%
テキスト	毎回プリントを配布する
参考書	適宜、授業で指示する
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code : F12C06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>色彩について物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面から基本知識を修得する。日常生活のなかにある実例をあげながら、色が見えるしくみ、色名、色の心理効果、配色方法、日本の伝統色、フランスの伝統色などについて順序立てて学ぶ。色彩検定受験者には、検定対策の参考となるように問題集も活用する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>色の3属性(色相・明度・彩度)のしくみについて確実に理解する。</p> <p>◎D：色のしくみを順序立てて理解し、色の3属性で説明することができる。</p> <p>○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図を描くことができる。</p>		
授業計画	1	色はなぜみえるか 電磁波と可視光 太陽光とスペクトル 照明と色の見え方	
	2	眼のしくみ 色をみる眼のしくみ 網膜における光の処理 分光反射率と色相、明度、彩度	
	3	混色(1) 混色とは何か 同時加法混色 併置加法混色、継時加法混色	
	4	混色(2) 減法混色 カラーモニターの色 カラー印刷の色	
	5	色の分類と三属性 色相、明度、彩度 色立体 純色、清色、中間色	
	6	PCCS、マンセル、JIS PCCSの色相、明度、彩度、トーン 等色相面と色立体 色の表示	
	7	言葉による色表示 基本色名 系統色名 慣用色名	
	8	色彩心理 色の心理的効果 感覚・感情と装い 色のイメージと使い方	
	9	色彩調和(1) 配色調和論の系譜 色相を手がかりにした配色	
	10	色彩調和(2) 明度・彩度を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色	
	11	色彩調和(3) アクセントカラー セパレーションカラー グラデーションカラー	
	12	色彩とファッション (ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明) :12~15回 ファッションにおける配色 ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー イエローベースとブルーベース 配色分析課題	
	13	色彩と生活 生活環境と色彩 インテリア 五感(音楽、香り、味、触感)と色彩	
	14	日本とフランスの伝統色 平安・江戸の色 フランス的慣用色・季節別配色	

	15 流行色 インターカラー 各時代の社会背景と流行色
到達目標・基準	色相、明度、彩度という色の3属性の意味を理解すること。色名を覚え、色彩心理を活かした配色調和を自由に行える基礎知識を身につける。 ◎D：色相、明度、彩度について説明ができる。 ◎E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図の基本を描くことができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキストを読み、項目ごとにレポートとしてまとめる（20分）。 事後学習：授業中に行った練習問題を見直し、相当するテキストと並行して理解を深める（25分）。
指導方法	色とはなにかという身近な疑問を明らかにするために、毎回配色カードを使用し視覚的な訓練を大切にする。順序立てて色のしくみが理解でき、色による心理作用を効果的に活用できる基盤を養うことをめざして指導する。 色彩検定受験者には、検定対策に直結するように問題集をテキストとして活用する。 パワーポイントを使用し、生活の中での実例を紹介するなどわかりやすい工夫を行う。 Webclassで課題を配信し、提出を求める。
成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：提出課題の完成度を評価する。 定期試験60%、提出課題20%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「カラーコーディネーター入門・色彩」 大井義雄・川崎秀昭著（日本色研事業株式会社） 「文部科学省後援 色彩検定2・3級問題集」A・F・T最新テキスト対応（新星出版） 「Work paper 配色演習台紙」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）
参考書	
履修上の注意	毎回、テキスト、新配色カード199a、はさみとのりを各自持参する。 新配色カードを常に持ち歩き、カラーサンプルと色名を対応させる習慣をつける。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心掛ける。 後期「カラーコーディネーター演習」は、本科目が履修済みであることが条件となる。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code : F22C07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「カラーコーディネート論」で学んだ色彩の基礎知識を生かし、身近なものを通して実践的に配色調和の方法を身につける。アーティフィシャルフラワーによるフラワーコーディネート制作を行い、めざすイメージやTPOをふまえた配色技法を体験する。さらに、アロマセラピー精油を用い、色と香りの関係を学び五感と色彩について理解を深める。</p> <p>(授業目標) 色彩調和の原則を理解し、目的や場面に合う魅力的な配色ができるようになる。 ○D：色彩調和の原則や心理効果を理解できる。 ◎E：目的や場面に応じ、主な配色技法を用いてフラワーコーディネート製作ができる。</p>		
授業計画	1	配色技法（１）（実習：配色カードを用いて色相差による配色のトレーニングをする） 色相差による配色	
	2	配色技法（２）（実習：配色カードを用いて色相とトーンによる配色のトレーニングをする） 色相とトーンによる配色	
	3	配色技法（３）（実習：配色カードを用いて基本的な配色技法のトレーニングをする） 配色における面積効果 ハーモニーカラー配色、コントラストカラー配色、アクセントカラー配色、セパレーションカラー配色	
	4	配色技法（４）（実習：配色カードを用いてイメージによる配色のトレーニングをする） イメージによる配色	
	5	配色技法（５）（実習：配色カードを用いて主な配色技法による配色のトレーニングをする） トーン・オン・トーン配色、トーン・イン・トーン配色 ドミナント配色、トータル配色、カマイユ配色、ピコロール配色、トリコロール配色 配色技法について的小テスト	
	6	ブーケA（１）（実習：ブーケ制作の基本を知り、準備を行う） 花の種類と色 フラワーコーディネートに生かす主な配色技法 花の下準備	
	7	ブーケA（２）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブーケA制作 配色説明パワーポイント作成	
	8	ブーケA（３）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） 色と関連するエッセンシャルオイルの選択 ブーケA提出	
	9	ブーケB（１）（実習：ブーケの配色方法を理解し、花の準備を行う） 花の下準備 ブーケB制作	
	10	ブーケB（２）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブーケB制作 配色説明パワーポイント作成	
	11	ブーケB（３）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） 色と関連するエッセンシャルオイルの選択 ブーケB提出	
	12	リース（１）（実習：リースの配色方法を理解し、花の準備を行う） リースの配色方法をふまえた花選び 花の下準備	
	13	リース（２）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） リース制作 配色説明パワーポイント作成	
	14	リース（３）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） リース制作 配色説明パワーポイント作成	
	15	リース（４）（プレゼンテーション） 完成したリースの色に関連する香りのエッセンシャルオイルをつける WebClassに各自が提出したパワーポイントのプレゼンテーションを行う リース提出	
到達目標・基準	○D：色彩調和の原則や心理効果の基本を理解できる。 ◎E：基本的な配色技法を用いてフラワーコーディネート製作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：テキストによる配色技法のトレーニング、課題の準備に取り組む（20分）。 事後学習：テキストの理解不足の部分を復習し、課題の不足を補う（25分）。		

指導方法	講義は、パワーポイント、テキスト、配布プリントを適宜使用する。 フラワーコーディネート制作は、パワーポイント資料を配布する。 フィードバックの方法：提出された課題に対して教員から項目ごとの評価を伝える。 Webclassで課題を配信し、提出を求める。
成績評価の方法・基準	D：配色調和についての理解度を小テストで評価する。 E：課題制作の完成度を評価する。 課題制作60%、小テスト20%、授業態度・授業貢献度20%
テキスト	「カラーコーディネーターのための配色入門」川崎秀昭（日本色研事業株式会社）
参考書	「はじめてのインテリアブーケ」渡辺俊治監修（株式会社KADOKAWA） 「アーティフィシャルフラワー基本テクニック2 イメージを伝える 花合わせ色合わせのコツ」渡辺俊治（六耀舎）
履修上の注意	前期「カラーコーディネート論」を履修済みであることが履修の条件である。 授業内容に応じて、テキスト、配布プリント、新配色カード199a、はさみとのかしこを各自持参すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 実習
I C T の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
Subject Code : F22C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の代表的な民族衣装である「きもの」について、現代のスタイルへと変化していった歴史を伝統的な模様、伝統色、家紋などと共に学ぶ。また、現代における行事や日常で着用されるきものについての知識を身に付け、主な伝統的な染織技術についても理解を深める。  (授業目標) ◎D：「きもの」の歴史について各時代の特徴を捉え、現代に至るまでの流れを理解し、現代の「きもの」についての知識を身に付ける。 ◎D：日本の伝統的な主な模様、家紋、染織技術を知る。		
授業計画	1	日本のきものとは 授業概要 きものとは	
	2	古代～中世のきもの歴史 きもの原形が成立する流れ・宮廷文化と武家文化における特徴	
	3	近世のきもの歴史 江戸町人文化から生まれたアイテムや流行	
	4	近代のきもの歴史 服飾の西洋化ときもの	
	5	きもの模様 伝統的な模様について	
	6	紋について きもの種類と紋との関係	
	7	日本の色 日本の伝統色について	
	8	きものが作られる工程 糸染めからきものまで	
	9	伝統工芸 (1) 主な染めの産地と特徴	
	10	伝統工芸 (2) 主な織りの産地と特徴	
	11	きものに関する基礎知識 主な名称・小物について	
	12	きものと帯 (1) きものと帯の格・行事に関わるきもの (子どもの晴れ着等)	
	13	きものと帯 (2) 行事に関わるきもの (成人式、卒業式、結婚式等)	
	14	きものと帯 (3) 衣替えについて	
	15	基本的なコーディネート きものと帯の組合せ	
到達目標・基準	◎D：「きもの」が、現代の形式に至るまでの特徴的な服装の流れと現代の行事に関する主なきものについて説明できる。 ◎D：染めの「きもの」と織りの「きもの」の違いが説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日頃から浴衣や振袖について、雑誌やインターネット等で、どのような色、模様、帯が用いられているかなど画像や解説などを読み多くの情報を得る。(90分程度) 事後学習：講義内容について、その都度ノートや配布資料をまとめ理解を深める。(90分程度)		
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントを使用し、画像や映像も用い講義を進める。 適宜小テスト(口述又は筆記)を行い理解度を深めていく。 レポート作成あり。		
成績評価の方法・基準	D：レポート、定期試験を評価する。 定期試験50% レポート30% 授業への貢献度20%		
テキスト	なし 必要に応じて、プリントを配布する。		
参考書	授業内で紹介する。		
履修上の注意	欠席した場合、配布プリントを確認すること。		

	レポートは、期限内に提出すること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code : F13C09			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形において素材選びはデザインの一部であり、素材は服飾を構成する要素として重要な役割を果たしている。繊維が糸になり、糸が布になり、さらに布を縫製することで服飾となる。本授業では服飾の素材としての観点から繊維、糸、布などの基礎的知識やその性質について学ぶ。 (授業目標) ○C：修得した知識を基に服飾造形の際には適した素材が選択できるようになる。また、実際の衣生活に役立てる応用力を身に付ける。 ◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質を理解する。繊維製品の正しい管理方法を学び、快適で衛生的な衣生活の知識を修得する。
授業計画	<p>1 ファッションと素材 概要説明、衣服の役割と機能、素材とデザインの関係</p> <p>2 繊維の分類と特徴（1）（天然繊維） 植物繊維、動物繊維</p> <p>3 繊維の分類と特徴（2）（化学繊維1） 再生繊維、半合成繊維、合成繊維</p> <p>4 繊維の分類と特徴（3）（化学繊維2） 再生繊維、半合成繊維、合成繊維</p> <p>5 糸 フィラメント糸と紡績糸 撚りと布地の関係 糸の太さの単位</p> <p>6 織物の分類と特徴 三原組織 主要織物の特徴及び用途</p> <p>7 織物の識別（グループワーク：数種類の織物を識別し、グループ代表者が発表する） 織物の種類と識別</p> <p>8 ニットの分類と特徴 緯編みと経編み ホールガーメント</p> <p>9 ファッション素材の染色加工、柄の種類 先染め、後染め、プリント ドット、チェック、ストライプ、ボーダー等</p> <p>10 和服の模様（ゲスト講師） 振袖の素材、模様</p> <p>11 仕上げ加工、その他の素材 繊維別仕上げ加工、目的別仕上げ加工 革、毛皮、裏地、芯地、副資材</p> <p>12 ファッション素材の管理（1） 品質管理 取り扱い絵表示</p> <p>13 ファッション素材の管理（2） 素材に合った手入れ、洗濯 衣服の保管</p> <p>14 ファッション素材のリサイクル アパレルと資源、環境問題</p> <p>15 新素材と今後の発展（グループワーク：グループごと衣服の性能測定を行う） 快適性、イージーケア、健康、ファッション性等、多様な機能を持つ繊維</p>
到達目標・基準	○C：実際の衣生活に役立てる繊維製品の扱い方を判断できる。 ◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の違いを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：授業時の指示に従い、翌週の授業で扱う素材について予め調べておくこと（30分）。 日頃から身のまわりのファッション素材に関心を持ち、自らの手で触れ、比較観察し、着用するよう心がけること（30分）。 事後学習：講義内容を復習し、理解を確かなものにする。さらに各自の理解度を確認する為の小テストに備える（120分）。
指導方法	パワーポイントを中心に講義する。補足資料としてプリントを配布する。 フィードバックの仕方：①小テスト実施、②採点（評価）返却、③授業後に解答について質疑対応
成績評価の方法・基準	C：繊維製品の扱い方に関する判断力を小テストによって評価する。 D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の知識を修得しているか定期試験によって評価する。



	定期試験60%、小テスト20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	文化ファッション体系 服飾関連専門講座①「アパレル素材論」文化服装学院編 文化出版局（2014）
履修上の注意	毎回プリントを配布するため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
原田弘美			
Subject Code : F13C10			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	西洋における服飾の変遷を時代背景とともに解説する。 衣服の起源と役割、及び古代から近代までの時代様式の特徴と服飾の関連性を解説する。20世紀以降は各年代の代表的なファッションデザイナーとその作品を紹介し、過去の装いと現代ファッションとの共通点・相違点を探る。毎回、講義のテーマに合わせた映画やコレクション映像、服飾のスライドを使用し視覚的にも理解を深める。 (授業目標) 各時代様式と服飾の特徴を関連づけ、服飾の観点から西洋の歴史を読み取る力を身に付ける。 ◎D：時代背景を考察し、服飾の特徴から各時代を読み取る力を身に付ける。		
授業計画	1	衣服の起源 衣服の起源と衣服の役割	
	2	古代の服飾（1） 古代エジプトの装飾モチーフと衣服	
	3	古代の服飾（2）（WebClassを使用した課題実施①） 古代ギリシャの服飾 古代ローマの服飾	
	4	中世の服飾 キリスト教文化とビザンティン、ゴシックの服飾の関連性	
	5	近世の服飾（1） ルネサンス芸術と服飾の関連性	
	6	近世の服飾（2）（WebClassを使用した課題実施②） 17世紀バロックのオランダモードとフランスモード	
	7	近世の服飾（3） 18世紀ロココの華やかなフランス宮廷モード	
	8	近代の服飾（1）（WebClassを使用した課題実施③） 19世紀初頭新古典主義とナポレオン1世時代の服飾	
	9	近代の服飾（2） 19世紀女性服のシルエットの変化 パリオートクチュールの誕生	
	10	近代の服飾（3） 19世紀末アール・ヌーボー様式の特徴と服飾	
	11	20世紀初頭のファッション（WebClassを使用した課題実施④） 女性のコルセットからの解放	
	12	1920年代のファッション アール・デコ様式の特徴と服飾 シャネルの活躍	
	13	1940年代～1950年代のファッション ディオールの登場と第二次世界大戦後のパリモード	
	14	1960年代のファッション（WebClassを使用した課題実施⑤） ロンドンファッションとミニスカートの流行	
	15	1970年代～2000年代のファッション オートクチュールからプレタポルテへ 多様化する現代ファッション	
到達目標・基準	◎D：近代以前の服飾と現代の服飾の特徴が識別できる。		
事前・事後学習	事前学習：シラバスを参考に次の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を読んでおくこと。（30分） 授業を理解しやすくするために、世界史、美術史など各時代の知識を得ておくこと。（60分） 事後学習：講義で学んだ内容をノートを見直しまとめておくこと。代表的な服飾はノートにイラストを描いて覚えるのもよい。特に課題プリント演習の前には課題範囲を自主学習しておくこと。（60分） 講義で紹介した画家やデザイナーについて調べ更に知識を増やす。（30分） 講義で使った映画をDVDやビデオ配信などで全編鑑賞し理解を深める。 講義で紹介した展覧会に出向き実物を鑑賞し知識を増やす。		
指導方法	毎回パワーポイントを使用し、画像と映像（DVD）を多用しながら視覚的に理解しやすいよう講義を進める。 時代区分ごとにWebClassを使用して課題を実施する。 フィードバックの方法：課題実施後、解答を解説。課題提出後、コメントを付けて返却。		
成績評価の方法・基準	各時代の時代背景と服飾との関連性が理解できているかを評価する。 D：定期試験と課題プリントを評価する。 定期試験50%、課題プリント30%、授業態度・貢献度20%		

テキスト	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩「改訂版・西洋服装史」文化出版局
参考書	
履修上の注意	課題やレポート提出が追加されることもある。 授業中の撮影は禁止。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子、高橋佐智子、平光くり子			
Subject Code : F13C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本授業は、衣服製作の経験が少ない学生を対象に、基礎的な製作技術の修得を目的としている。課題は「基礎縫い」と「スカート」とし、製作工程に沿った実習内容と使用器具の扱い方などの説明を行う。前半では手縫い、ミシン縫い、副資材(ファスナー等)に関する基礎的な縫製技術を修得する。さらに後半ではスカートを縫製し、作品を製作することで衣服の組み立て方を理解し、衣服に対する知識を深める。</p> <p>(授業目標) ○D：作品製作を通して、衣服の組み立て方を修得する。 ◎E：基礎的な製作技術を身に付け、作品製作によってそれを表現する力を修得する。</p>		
授業計画	1	基礎縫い・・・道具の説明、手縫い(実習) 課題製作に必要な生地や道具について説明 基礎縫い用の生地裁断 並縫い、まつり縫い、置きじつけなど手縫いの基礎を実習	
	2	基礎縫い・・・手縫い(実習) ボタンやかぎホック等、副資材の使用を実習	
	3	基礎縫い・・・ミシン縫い(実習) ミシンの使用方法、縫い方について説明 直線縫い、三つ折等の実習	
	4	基礎縫い・・・ミシン縫い(実習) ロックミシンの使用方法、縫い代の始末について説明	
	5	基礎縫い・・・ミシン縫い(実習) 明きと留め具の説明 ファスナー付けの実習	
	6	スカート・・・採寸・パターン作図(実習) 製作に必要な身体のサイズを計測 各自のスカート製作に使用するスカートのパターンを作図	
	7	スカート・・・生地の裁断・しるし付け(実習) 布地を裁断 裁断終了後、チャコペーパー等を使用し、しるしを付ける	
	8	スカート・・・芯の裁断と接着(実習) 見返しの芯を裁断 アイロンで生地に接着 縫い代に伸び止めテープを貼る	
	9	スカート・・・本縫い(布端の始末)(実習) 脇、後中心の布端をロックミシンで始末	
	10	スカート・・・本縫い(後中心縫い、ファスナー付け)(実習) 後中心を縫い、ファスナーを付ける	
	11	スカート・・・本縫い(ダーツ縫い、脇縫い)(実習) 前スカートと後スカートのダーツを縫い、プレスボールを使用してダーツにアイロンをかける 前スカートと後スカートを合わせ、脇線を縫う	
	12	スカート・・・本縫い(見返し付け)(実習) 見返しとウエスト部分を合わせてミシン縫い	
	13	スカート・・・本縫い(裾の始末)(実習) 裾をミシンまたは手縫いで始末	
	14	スカート・・・本縫い(かぎホック)(実習) かぎホックを付ける	
	15	スカート・・・仕上げ(実習) プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける	
到達目標・基準	○D：服作りをするための基礎的な知識を説明できる。 ◎E：ミシン・アイロン・縫製用具等を正しく使用できる。		
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方(手縫い、ミシン等)を練習する。または既製服の組み立てを観察する(20分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく(25分)。		
指導方法	プリントを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点(評価)返却、④授業後による採点についての質疑対応		
成績評価の方法・基準	D：作品の構造や製作手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。(授業時配布：ルーブリック参照) 作品80%、授業への貢献度20%		

テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。
参考書	『文化ファッション流通講座⑥ コーディネイトテクニック アパレル編Ⅱ (商品構成)文化服装学院編』：工藤勝枝 他 学校法人文化学園 文化出版局 東京(2014)
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子、高橋佐智子、平光くり子			
Subject Code : F13C12			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業は服飾造形1を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製図理論と製作技術を学び、課題として「ブラウス」を製作する。製作工程に関するプリントを配布し講義と実習により授業を展開していく。 デザインとパターンの理解を深めた上で、衣服のシルエットやディテールとの関係について指導を行う。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、完成度の高い作品作りを目的としている。 (授業目標) ○D：製図理論に基づき、衣服のデザインとパターンの関係を理解する。 ◎E：服飾造形1で学んだ技術を活かし、より完成度の高い作品を表現する力を修得する。		
授業計画	1	採寸、作図（身頃）（実習） 課題である作品の始まりから完成までの工程、課題製作に必要な生地や道具について説明 採寸を各自で行う	
	2	作図（袖）（実習） 各自のサイズで袖パターンを作図 素材決定、見積りの仕方を説明	
	3	作図（袖）（実習） 各自のサイズで袖パターンを作図 素材決定、見積りの仕方を説明	
	4	裁断、しるし付け（実習） 生地の地直しを行ない、裁断 裁断終了後、各パターンにしるし付け	
	5	芯の裁断と接着（実習） 見返しの芯を裁断 アイロンで生地に接着	
	6	組み立て（実習） ドレスピンまたはしつけ糸を使用して身頃、袖を組み立て	
	7	試着、補正（実習） 試着を行ない身体の適合やシルエットを確認 補正のある場合はパターンを補正する	
	8	本縫い（ダーツ縫い、ロックミシン）（実習） ダーツを縫い、肩、見返しの布端をロックミシンで始末	
	9	本縫い（肩縫い）（実習） 表身頃、後身頃を中表に合わせ、肩を縫い合わせる	
	10	本縫い（見返し付け）（実習） 身頃と衿ぐり見返しを中表にし、縫い合わせる	
	11	本縫い（袖付け）（実習） 身頃と袖を合わせ、しつけをかける	
	12	本縫い（袖付け）（実習） 身頃と袖を合わせ、しつけをかけた部分をミシン縫い 縫代をロックミシンで始末	
	13	本縫い（袖下、脇縫い）（実習） 袖下、脇を続けてミシン縫い 縫代をロックミシンで始末	
	14	本縫い（袖口、裾の始末）（実習） 袖口の始末 裾を上げ、ミシンでステッチ	
	15	仕上げ（実習） プレスボール、袖まん等のプレス用具を使用して、仕上げアイロン 作品提出	
到達目標・基準	○D：ブラウスの製作手順を説明できる。 ◎E：接着芯やロックミシンを使用して手早く美しく合理的な方法でブラウスが製作できる。		
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1で修得した縫い方の基礎や作業工程を、各回で使用できるように復習しておく（20分）。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。		
指導方法	プリントを使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と基礎理論が理解できるように指導を行なう。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応		
成績評価の方法・基準	D：作品の構造や製作手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度 20%		

テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形1」を履修した学生を対象としている。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：F22C06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本授業は服飾造形1・2を履修して、修得した知識・技術を基にさらなる技術の向上を目指し、課題としてノーカラージャケットを製作する。課題はパターンの作図から始め、裏地付き、2枚袖を課題の条件として、上着として着るジャケットのパターン展開及び2枚袖を含むパターンの作図、ポケットなど細部の縫製、裏地の扱い方など服飾造形技術の応用課程を学ぶ。また、素材に応じた縫製方法や副資材の使い方等を学び、さらなる技術の向上を目指す。G1クラス対象。技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。</p> <p>（授業目標） ○D：ジャケット製作を通じて上着のパターン作図と縫製方法を身に付ける。 ◎E：作品の製作を通じて裏地の扱い方や作図、縫製方法、2枚袖の構造を理解する。</p>
授業計画	<p>1 採寸・パターン作図（実習） 採寸後、原型を使用してノーカラージャケットのパターン作図</p> <p>2 パターン作図（実習） ノーカラージャケットのパターン作図</p> <p>3 仮縫い～補正～縫い代付きパターン作図（実習） 仮縫い組み立てが終わったら、試着をしてジャケットの出来上がりを確認する。シルエットや身体への適合性など、目標通りにできているかをチェックし、補正すべき箇所は補正してパターンを完成させる</p> <p>4 裁断・表地、裏地、芯地（実習） 表地、裏地と副資材の芯地等を裁断する</p> <p>5 下準備・本縫い（実習） 芯貼りなどの下準備を済ませたら本縫いに入る 本縫いはダーツを縫い、前身頃のポケットを作る</p> <p>6 本縫い（実習） 表地…肩線を縫う 裏地…見返しと裏地を縫い合わせ、肩線を縫う</p> <p>7 本縫い（実習） 表地…前端から衿ぐりにかけて縫い、縫い代を始末し表に返して形を整え、次に脇線を縫う 裏地…脇線にきせを掛けて縫う</p> <p>8 本縫い（実習） 身頃に裏地の中とじをし、裾を始末する 裾の始末…表地は出来上がりに折り、千鳥がけで止めつける・裏地は裾から2cm控えて表地の縫い代に止めつける</p> <p>9 本縫い（実習） 裾の始末…表地は出来上がりに折り、千鳥がけで止めつける・裏地は裾から2cm控えて表地の縫い代にまつり付ける</p> <p>10 本縫い（実習） 2枚袖の切り替え線を（表地・裏地共）縫う 表地の縫い代は割り、裏地の縫い代にはきせをかけ、中とじをする</p> <p>11 本縫い（実習） 袖口の始末…表地は縫い代分を折り、千鳥がけ、裏地は袖口から2cm控えて表地の縫い代にまつり付ける</p> <p>12 本縫い（実習） 袖つけ…袖山にいせこみを入れアイロンで形を整え、合印を合わせて身頃に止めつけ、ミシンで縫う</p> <p>13 本縫い（実習） 袖の裏地の始末…裏地の縫い代を折り、身頃のアームホールにまつり付ける</p> <p>14 本縫い（実習） 袖の裏地の始末…袖の裏りの縫い代を折り、身頃のアームホールにまつり付ける</p> <p>15 本縫い（実習） 各自のデザインに応じて、前端から衿ぐりにかけて飾りのブレードを縫い付ける 前中心に釦ホールを開け、釦をつけ、仕上げにアイロンをかける</p>
到達目標・基準	<p>○D：デザインや素材に応じた縫製方法ができる。 ◎E：ジャケット製作で裏地付けと2枚袖の仕立てができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：基礎縫い、ミシンの練習。またポケット等細部の縫い方を部分縫いで練習すること（30分）。 事後学習：授業で行った課題の作業工程を復習し、次回までに授業で目標とした作業を完成させておくこと（30分）。</p>
指導方法	<p>テキストとサンプルを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後に採点についての質疑対応</p>



成績評価の方法・基準	D：作品の構造や縫製手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度。 作品 80%、授業への貢献度 20%
テキスト	プリントを配布
参考書	「文化ファッション体系 服飾造形講座④ ジャケット・ベスト 文化服装学院編 笠井フジノ他 学校法人文化服装学院 文化出版局 東京 (2018)
履修上の注意	この授業は上級者向け (G1クラス) のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術向上、修得をすることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、高橋佐智子、平光くり子			
Subject Code：F22C06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本授業は服飾造形1、2を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製図理論と製作技術を学び、課題として「ワンピース」を製作する。製作工程に関するプリントを配布し講義と実習により授業を展開していく。デザインとパターンの理解を深めた上で、衣服のシルエットやディテールとの関係について指導を行う。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、完成度の高い作品作りを目的としている。</p> <p>G2、G3、G4クラス対象。技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行なう。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：製図理論に基づき、デザインに対応するパターンの知識を修得する。</p> <p>◎E：服飾造形1、2で学んだ技術を活かし、素材のバリエーションやデザイン展開によりオリジナル作品を表現する力を修得する。</p>
授業計画	<p>1 採寸、アイテム研究（実習） 採寸を各自で行う 課題である作品の始まりから完成までの工程、課題製作に必要な生地や道具について説明 アイテム（ワンピース）の構造を研究し、デザインに関する知識を広げる</p> <p>2 作図（実習） 各自のサイズで身頃、見返し等パターンを作図</p> <p>3 作図、布地選択（実習） 各自のサイズで身頃、見返し等パターンを作図 素材決定</p> <p>4 裁断、芯の裁断と接着（実習） 生地の地直しを行ない、裁断 必要な部分にアイロンで芯を接着</p> <p>5 裁断、芯の裁断と接着、裁断（実習） 生地の地直しを行ない、裁断 必要な部分にアイロンで芯を接着</p> <p>6 組み立て、試着補正（実習） しつけ糸またはドレスピンを使用して組み立て、試着補正</p> <p>7 組み立て、試着補正（実習） しつけ糸またはドレスピンを使用して組み立て、試着補正</p> <p>8 本縫い（布端の処理）（実習） 布の表裏を確認しながら、布端をロックミシンで始末</p> <p>9 本縫い（切り替え線）（実習） 身頃の切り替え線を縫い合わせ、プレスボールを使用し縫代を割る</p> <p>10 本縫い（肩縫い、見返し）（実習） 身頃、見返しの肩を縫い、身頃と見返しの衿ぐり、袖ぐりを縫い合わせる 縫代に切込みを入れ、肩から後ろ身頃を引き出して表に返す</p> <p>11 本縫い（見返し）（実習） 見返しを控えて整え、適宜、押さえミシンをかける 身頃と見返しの脇を続けて縫い、布端を縫代に縫いとめる</p> <p>12 本縫い（ファスナー付け）（実習） 後ろ中心を縫い、コンシールファスナーを付ける 見返し端を縫いとめる</p> <p>13 本縫い（裾の始末）（実習） 裾をミシンまたは手縫いで始末</p> <p>14 本縫い（装飾）（実習） デザインに合わせて装飾をする</p> <p>15 作品発表（実習） プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う</p>
到達目標・基準	<p>○D：デザインに対応するパターンを選択し、説明できる。</p> <p>◎E：作品に適した素材を選択し、オリジナルワンピースが製作できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：服飾造形1、2で修得した縫い方や作業工程を各回で使用できるように復習しておく（20分）。</p> <p>事後学習：授業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。</p>
指導方法	<p>プリントを使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。</p> <p>フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応</p>
成績評価の方法・基準	<p>D：作品の構造や製作手順を理解しているか評価する。</p> <p>E：作品の完成度を評価する。</p> <p>作品80%、授業への貢献度20%</p>

テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	特になし
履修上の注意	「服飾造形1」「服飾造形2」を履修した学生を対象としている。本授業は習熟度別では初級者向け(G2、G3、G4)のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術を向上、修得することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：F22C07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本授業では服飾造形1・2・3を履修し、さらなる技術の向上を目指してビスチェ型ドレスを製作する。作品に使用する素材は繊細な素材であり、デザインに応じてレースなどの別布も必要となり、それぞれの縫製方法や扱い方、芯地等副資材の使用方法なども含めて、実習を通じて修得する。また、パターン作図では身体に沿ったビスチェ型ドレスの作図法を学び、服飾造形の技術の幅を広げ、応用技術を身につける。G1クラス対象。技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標) ○D：デザインを考え、素材を決定する思考力、デザインと素材に応じた縫製を身に付ける。 ◎E：デザインに応じたパターン作図、縫製技術と素材で作品の表現方法を修得する。
授業計画	<p>1 採寸・パターン作図（実習） 採寸後、身頃原型を使用してビスチェ型ドレスのパターン作図</p> <p>2 パターン作図（実習） ビスチェ型ドレスのパターン作図</p> <p>3 シーチング裁断・しるし付け（実習） 仮縫いにはシーチングを使用。シーチングで裁断し、しるし付けをする</p> <p>4 仮縫い組み立て（実習） 裁断したシーチングをドレスの出来上がりの形に縫う</p> <p>5 試着・補正及び縫い代つきパターン作図（実習） 仮縫い組み立てが終わったら、試着をしてドレスの出来上がりを確認する。シルエットや身体への適合性など、目標通りにできているかをチェックし、補正すべき箇所は補正してパターンを完成させる</p> <p>6 裁断・表地、装飾用の別布、裏地、芯地（実習） 表地、裏地、装飾用の別布がある場合は別布、芯地の裁断をする</p> <p>7 下準備・本縫い（実習） 芯貼り、伸び止めテープ貼りなどの下準備をし、本縫い（スカートの布端始末）</p> <p>8 本縫い（実習） 表・裏身頃共にパーツを縫い合わせる デザインに応じて別布がある場合は別布も縫う</p> <p>9 本縫い（実習） 身頃の上側の布端を縫い、表に返して形を整える 表・裏・別布（デザインに応じて）のスカートの脇線をそれぞれ縫う</p> <p>10 本縫い（実習） 表・裏・別布（デザインに応じて）のスカートの脇線をそれぞれ縫う</p> <p>11 本縫い（実習） 表・裏・別布（デザインに応じて飾り付けなどを含む）のスカートを仕上げる</p> <p>12 本縫い（実習） 表身頃と表スカートのウエスト部分を縫い合わせ、縫い代始末をする</p> <p>13 本縫い（実習） 脇線にファスナーを付けて身頃の裏地を始末する</p> <p>14 本縫い（実習） スカートの裾の始末をする、デザインに応じて別布がある場合は別布の裾も始末する</p> <p>15 本縫い、仕上げ（実習） デザインに応じて装飾やスカートの裾の巻きロックなどをし、アイロンをかけて仕上げる</p>
到達目標・基準	○D：デザインに適した素材や製作手順を説明できる。 ◎E：デザイン、素材に適した縫製ができる。
事前・事後学習	事前学習：基礎縫いと本縫い（薄くつれやすい布地をミシンで縫う）の練習（30分）。 事後学習：授業で行った課題の作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておくこと（30分）。
指導方法	プリントとサンプルを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
成績評価の方法・基準	D：作品の構造や縫製手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。 作品 80%、授業への貢献度 20%
テキスト	プリントを配布
参考書	「文化ファッション大系 服飾造形講座⑥ 服飾造形応用編 I（高級素材）文化服装学院編」：横山晶子 他 学校法人文化服装学院 文化出版局 東京（2003）

履修上の注意	この授業は上級者向け（G1クラス）のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術向上、修得をすることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子、平光くり子			
Subject Code：F22C07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本授業は服飾造形1、2、3を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製図理論と製作技術を学び、課題として「ノーカラーコート」を製作する。製作工程に関するプリントを配布し講義と実習により授業を展開していく。デザインに適した素材の選択、衣服の立体化、より高度な縫製方法を学ぶ。アイテムは学生のオリジナルデザインを基に製作する。</p> <p>G2、G3クラス対象。 技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：製図理論に基づき、オリジナルデザインのパターンを自ら作図できる知識を身につけ。美しい作品となるようパターン展開できる力を修得する。</p> <p>◎E：服飾造形の総仕上げとして、これまでに学んだ技術を活かし、美しく完成度の高い作品を製作し、各自のオリジナリティを表現する力を修得する。</p>
授業計画	<p>1 採寸、アイテム研究（実習） 採寸を各自で行う 課題である作品の始まりから完成までの工程、課題製作に必要な生地や道具について説明 アイテム（ノーカラーコート）の構造を研究し、デザインに関する知識を広げる</p> <p>2 デザイン案提出、作図（身頃）（実習） オリジナルパターンを元に各自オリジナルデザインを提出 各自のサイズで身頃パターンを作図</p> <p>3 作図（袖）（見返し）、布地選択（実習） 各自のサイズで袖パターンを作図 自分のデザインをカタチにするために適した布地を選択</p> <p>4 トワルチェック（実習） トワルを組み、立体でデザインを確認</p> <p>5 芯の裁断と接着、生地の裁断（実習） 生地の地直しを行ない、接着芯をアイロンでつけ、裁断 身頃・袖・見返しの裁断</p> <p>6 芯の裁断と接着、生地の裁断（実習） 生地の地直しを行ない、接着芯をアイロンでつけ、裁断 身頃・袖・見返しの裁断</p> <p>7 本縫い（端の始末）（実習） 伸び止めテープを貼る 肩、脇、見返し端、袖下をロックミシンで始末</p> <p>8 本縫い（見返し、肩縫い）（実習） 見返しと身頃を縫い合わせる 肩縫い</p> <p>9 本縫い（脇縫い）（実習） 脇を縫い、縫代を割る</p> <p>10 本縫い（袖）（実習） 袖山をぐし縫い 袖下を縫い、縫代を割る 袖口にステッチ</p> <p>11 本縫い（袖付け）（実習） 身頃と袖を合わせ、袖付けをミシン縫い 縫い代をロックミシンで始末</p> <p>12 本縫い（袖付け）（実習） 身頃と袖を合わせ、袖付けをミシン縫い 縫い代をロックミシンで始末</p> <p>13 本縫い（前端、裾の始末）（実習） 前端を始末し、裾を上げる</p> <p>14 本縫い（ボタンホール、ボタン付け）（実習） しるしをつけたところにボタンホールを開け、ボタンを付ける</p> <p>15 作品発表（実習） プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う</p>
到達目標・基準	<p>○D：オリジナルデザインのパターンを作図できる</p> <p>◎E：シルエットと縫製が美しい作品を製作できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：服飾造形1、2、3で修得した縫い方や作業工程を、各回で使用できるように復習しておく（20分）。</p> <p>事後学習：作業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。</p>
指導方法	<p>プリントを使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。</p> <p>フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応</p>

成績評価の方法・基準	D：作品の構造や製作手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	特になし
履修上の注意	本授業は服飾造形1、2、3を履修し、G2、G3クラスの学生を対象とする。自身の技術を見極めて履修すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
後藤寛司			
Subject Code:F13C16			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>人体とパターンにおける基本理論と、デザインに対応したパターン作図法および展開法の理論を学ぶ。また、人体の上半身包む事を基本とした身頃・袖・衿の作図法を学び、これらを基に胸ぐせダーツの移動・衿ぐり・衿・袖ぐり・袖・スカート等をアイテム別に学修をしていく。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：パターン設計の技術的展開ができる。 ○E：実習をとおして、デザインに対応したアイテム別の表現ができる。</p>		
授業計画	1	<p>アパレルパターン概論 立体裁断と平面製図の基礎知識 用具説明と専門用語 原型 基礎線の名称</p>	
	2	<p>スカートセオリーとスカートバリエーション (1) スカート原型 平面製図 実寸</p>	
	3	<p>スカートバリエーション (2) 平面製図 実寸</p>	
	4	<p>スカートバリエーション (3) 平面製図 1/4縮尺</p>	
	5	<p>スカートバリエーション (4) 平面製図 1/4縮尺 立体裁断準備</p>	
	6	<p>スカートの立体裁断 (グループワーク：立体裁断) スカートの立体裁断</p>	
	7	<p>上身頃のセオリー (1) 上身頃原型 ゆとり入り原型製図 平面製図 実寸</p>	
	8	<p>上身頃のセオリー (2) ゆとり入り原型製図 平面製図 実寸</p>	
	9	<p>バストダーツの処理方法とダーツの種類 (1) 平面製図 実寸 1/4縮尺</p>	
	10	<p>バストダーツの種類 (2) 平面製図 1/4縮尺</p>	
	11	<p>衿のセオリー 衿の構造 衿の名称 衿ぐりと衿の関係 平面製図 実寸 1/4縮尺</p>	
	12	<p>衿のバリエーション 平面製図 1/4縮尺</p>	
	13	<p>袖のセオリー アームホールと袖山の関係 袖原型製図 平面製図 実寸 1/4縮尺</p>	
	14	<p>袖のバリエーション 平面製図 1/4縮尺</p>	
	15	<p>身頃応用パターンエクササイズ タックとギャザー 平面製図 1/4縮尺</p>	
到達目標・基準	<p>○D：基礎的なパターン展開ができる。 ○E：デザインに対応したダーツ移動ができる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：衣服のアイテム別名称について調べる。(15分) 事後学習：理解できない箇所を確認し、次回の授業に備えること。(30分)</p>		
指導方法	<p>平面の布と立体である衣服の関係について理論的に分かり易く説明し、理論と技術を指導する。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>D：パターン設計の技術的展開ができるか課題によって評価する。 E：デザイン画に対応したアイテム別の表現が的確か課題によって評価する。 課題60% 授業への貢献度40%</p>		
テキスト	<p>なし 必要に応じてプリントを配布。</p>		



参考書	
履修上の注意	作業に遅れないよう積極的に取り組むこと。 次年度「パターンメイキング2（CAD）」を履修する場合は、必ず履修すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICTの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code：F13C17			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	衣服製作における基礎知識と技術を修得している学生を対象に、アパレルCADシステム（東レACS：CREA COMPO）を用いて工業用パターン作成を効率的に行うことを目指す。アパレルCADの基本操作を理解し、パターンメイキング、デザイン展開、グレーディング等の操作方法を修得する。 (授業目標) ○C：デザインとパターンの関係を思考し、アパレルCADの多様な操作機能を理解し、応用デザインに対応できる能力を身につける。 ◎E：アパレルCADを使用して基本的なパターンメイキングの技術を修得する。		
授業計画	1	アパレルCADの基本知識・基本操作（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及びデータ提出:1～15回） 入力方法、プロッターの使用法、データの保存方法	
	2	スカートのパターン作成 タイトスカートパターンを作成	
	3	スカートのパターン展開（1） タイトスカートからセミタイトスカートへ展開	
	4	スカートのパターン展開（2） タイトスカートからフレアスカートへ展開	
	5	スカートのパターン展開（3） タイトスカートからプリーツスカートへ展開	
	6	ブラウスのパターン作成 前身頃、後ろ身頃のパターンを作成	
	7	ブラウスのパターン展開（1） ダーツの移動、分散	
	8	ブラウスのパターン展開（2） バストダーツからネックラインギャザーへ展開	
	9	袖のデザイン展開 シャツスリーブ、パフスリーブ、フレアスリーブ等のパターンを作成	
	10	衿のデザイン展開 シャツカラー、フラットカラー等のパターンを作成	
	11	ワンピースのパターン作成（1） 身頃パターンからワンピースパターンへ展開	
	12	ワンピースのパターン作成（2） ワンピースの衿、袖パターンを作成	
	13	工業用パターンについて スカート、ブラウスの工業用パターンを作成 縫い代付け等	
	14	応用課題（1） 各自のデザインによるパターン作成 縮小データを提出	
	15	応用課題（2） 修得した操作方法により応用課題に取り組む 縮小データを提出	
到達目標・基準	○C：アパレルCADの操作の中から適切な機能を選択し、パターン展開の操作ができる。 ◎E：基本的なパターンメイキングをするためアパレルCADが使用できる。		
事前・事後学習	事前学習：日常身に付けている衣服のパターンについて考えること。WebClassにアップされた資料を事前に関連しておくこと（25分）。 事後学習：授業時の指示に従い、新しく学修した操作方法を復習しておくこと（20分）。		
指導方法	アパレルCADシステムの操作方法のプリントを配布し、説明を加えながら授業を進めていく。アパレルCADの操作方法を理解し修得できるように、手元の操作を分かり易く示し指導する。 フィードバックの仕方：提出された縮小データや課題に対して教員からアドバイスを返信する。		
成績評価の方法・基準	C：アパレルCADの適切な機能を選択できるか提出物（縮小データ）で評価する。 E：基本的なパターンメイキングができるか応用課題で評価する。 応用課題50%、提出物（縮小データ）30%、授業への貢献度20%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する		

参考書	
履修上の注意	CADによるパターンメイキングの授業であるため、「服飾造形1」や「パターンメイキング1」の授業を履修していること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code：F22C09			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>衣服製作における基礎知識と技術を修得している学生を対象に、アパレルCADシステム（東レACS：CREA COMPO）を用いて工業用パターン作成を効率的に行うことを目指す。アパレルCADの基本操作を理解し、パターンメイキング、デザイン展開、グレーディング等の操作方法を修得する。</p> <p>（授業目標）</p> <p>○C：デザインとパターンの関係を思考し、アパレルCADの多様な操作機能を理解し、応用デザインに対応できる能力を身につける。</p> <p>◎E：アパレルCADを使用して基本的なパターンメイキングの技術を修得する。</p>		
授業計画	1	アパレルCADの基本知識・基本操作（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及びデータ提出:1～15回） 入力方法、プロッターの使用法、データの保存方法	
	2	スカートのパターン作成 タイトスカートパターンを作成	
	3	スカートのパターン展開（1） タイトスカートからセミタイトスカートへ展開	
	4	スカートのパターン展開（2） タイトスカートからフレアスカートへ展開	
	5	スカートのパターン展開（3） タイトスカートからプリーツスカートへ展開	
	6	ブラウスのパターン作成 前身頃、後ろ身頃のパターンを作成	
	7	ブラウスのパターン展開（1） ダーツの移動、分散	
	8	ブラウスのパターン展開（2） バストダーツからネックラインギャザーへ展開	
	9	袖のデザイン展開 シャツスリーブ、パフスリーブ、フレアスリーブ等のパターンを作成	
	10	衿のデザイン展開 シャツカラー、フラットカラー等のパターンを作成	
	11	ワンピースのパターン作成（1） 身頃パターンからワンピースパターンへ展開	
	12	ワンピースのパターン作成（2） ワンピースの衿、袖パターンを作成	
	13	工業用パターンについて スカート、ブラウスの工業用パターンを作成 縫い代付け等	
	14	応用課題（1） 各自のデザインによるパターン作成 縮小データを提出	
	15	応用課題（2） 修得した操作方法により応用課題に取り組む 縮小データを提出	
到達目標・基準	○C：アパレルCADの操作の中から適切な機能を選択し、パターン展開の操作ができる。 ◎E：基本的なパターンメイキングをするためアパレルCADが使用できる。		
事前・事後学習	事前学習：日常身に付けている衣服のパターンについて考えること。WebClassにアップされた資料を事前に関連しておくこと（25分）。 事後学習：授業時の指示に従い、新しく学修した操作方法を復習しておくこと（20分）。		
指導方法	アパレルCADシステムの操作方法のプリントを配布し、説明を加えながら授業を進めていく。アパレルCADの操作方法を理解し修得できるように、手元の操作を分かり易く示し指導する。 フィードバックの仕方：提出された縮小データや課題に対して教員からアドバイスを返信する。		
成績評価の方法・基準	C：アパレルCADの適切な機能を選択できるか提出物（縮小データ）で評価する。 E：基本的なパターンメイキングができるか応用課題で評価する。 応用課題50%、提出物（縮小データ）30%、授業への貢献度20%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する		

参考書	
履修上の注意	CADによるパターンメイキングの授業であるため、「服飾造形1」や「パターンメイキング」の授業を履修していること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F13C18			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾文化の歴史をデザインとアートの視点で解釈することからはじめて、伝説的なファッションデザイナー、ファッションエディター、ファッションフォトグラファーの作品やアート作品をもとに、多面的な視点からファッションデザインを考える。加えて、ファッションデザインの歴史の理解を通じて、理論や感性などの複眼的視点やアプローチ法を養う。後半では、ファッションを一つのスタイルと捉え、衣食住、遊、知、美、景にて構築し、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITA と事例としてのラグジュアリーブランドを比較し分析することで、右脳・左脳を使った複眼的な思考法を解説する。 (授業目標) ◎D：ラグジュアリーブランドのビジュアルを多く知ることで、美的センスを身につける。		
授業計画	1	ファッションデザインとは デザインの分類と、本学オリジナルブランドMARIE de TOITAについて	
	2	世界の文化史 中世からルネサンスまでのヨーロッパの服飾について	
	3	服飾文化史 古代からベルエポックまでの服飾について	
	4	伝説のエディター、ダイアナ・ヴリーランドに学ぶ BAZAARでのエディターとしての仕事、およびVOGUEでの編集長としての仕事について	
	5	ラグジュアリー百貨店について（バーニーズNY、バーグドルフグッドマン） セレクトショップの原点について	
	6	ファッション文化 デザイナーの歴史について	
	7	美術文化 ファッションとアートの関連	
	8	世界のフォトグラファー リチャード・アヴェドン、ブルース・ウェーバー、アーヴィング・ペン等のファッションフォトグラファーについて	
	9	エンタテインメントとファッション 舞台、映画、イベントの中のファッションについて	
	10	世界のダイニングスタイル ライフスタイル、フードとファッションの融合	
	11	ダイアナ・ヴリーランドとアナ・ウィンターの比較 ファッション業界伝説の編集長の対比	
	12	ラグジュアリーブランドのブランディング（1） ラグジュアリーブランドの歴史と変遷	
	13	ラグジュアリーブランドのブランディング（2） ラグジュアリーブランドのモノづくり 本学オリジナルブランドMARIE de TOITAのモノづくり	
	14	オリジナルファイル、レポート MARIE de TOITAのポートフォリオ作成	
	15	ファッションデザインのグローバリゼーション ライフスタイルとファッションデザイン	
到達目標・基準	◎D：書籍から興味のある印象的なビジュアルを選び、ファッションデザインの観点から説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でライフスタイルの知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：発表した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。（90分）		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。スタイルを解説する際は、ビジネス（左脳）と感性（右脳）の両視点をバランスを考え指導する。特に感性（右脳）面ではビジュアルを多く使用し、毎回テーマごとに進めていき、ポートフォリオを作成していく。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		
履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、左脳として東洋経済、週刊ダイヤモンド、AERA、ファッション大辞典を、右脳としてWalter Van Beirendonck、Goddess：the classical mode、モードデザイナーの家、和楽、PEN、マリークレールビジュ、VOGUE、BAZAAR、View、Wear、を必ず一読すること。レポート等の題材		

	を記載の書籍から取り上げる。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F13C19			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインに必要なデザイン画の基礎となる基本プローションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 (授業目標) ○C：描く対象物やディテールによって、技法による違いを判断し表現できる。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。		
授業計画	1	ガイダンス、基本プローション 基本プローション（正面、横）	
	2	アイテム図の表現（1） スカート、パンツの描き方	
	3	アイテム図の表現（2） ジャケット、シャツ、コートの描き方	
	4	着装（1） スカートのファッション画	
	5	着装（1） コピックマーカー、パステル、色鉛筆など、画材の違いによる描き方	
	6	着装（1） スカートのファッション画の着彩、仕上げ	
	7	着装（2） パンツスタイルのファッション画	
	8	着装（2） パンツスタイルのファッション画の着彩、仕上げ	
	9	着装（3） ジャケットのファッション画	
	10	着装（3） ジャケットのファッション画の着彩、仕上げ	
	11	着装（4）（ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案） メンズのファッション画	
	12	着装（4） メンズのファッション画の着彩、仕上げ	
	13	着装（5）（ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案） 2体レイアウトのファッション画	
	14	着装（5） 2体レイアウトのファッション画の着彩、仕上げ	
	15	学修成果発表（プレゼンテーション：個人） 各自自分の作品について発表、総評	
到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げることにより、アイテムのディテールを理解する。 ◎E：人体にフィットする服をディテールを理解しながら描くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける（30分）。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする（30分）。		
指導方法	板書や配布プリントによって描く対象物を表現するための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：提出した作品は、トレーシングペーパーの上から加筆等を行い、上達のためのアドバイスを行う。		
成績評価の方法・基準	C：授業で説明したプローションなどの注意点が提出課題にて意識できているかを、採点の際の基準とする。 E：授業で説明した描く対象物に応じた適切な画材の使用ができているかを、採点の際の基準とする。 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書	必要に応じてプリント配布		



履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・実習中心の授業形態である。毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げる事。</li><li>・課題提出物の期限は厳守すること。</li></ul>
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F23C20			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッションイラストレーション1」で学修した知識や技法をもとに、基礎から応用へとステップアップしながら、イブニングドレスやウェディングドレスのデザインやディテールの表現法、ドレスに似合う応用ポーズ、ブーケやベールの表現法を学ぶ。常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるように、豊かな感性と表現力を養い、魅力的な独自のデザイン画が描けることを目標に指導していく。</p> <p>(授業目標) ○C：描く対象物やディテールによって異なる表現技法を修得する。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、多様なディテールやデザインを表現する技術を身につける。</p>		
授業計画	1	秋のコーディネートファッション (ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案) 秋の着まわしコーディネートを意識したファッションイラスト	
	2	画材研究 水彩絵の具の表現法	
	3	秋のコーディネートファッション 着彩、仕上げ	
	4	メンズコートファッション (1) (ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案) コートのコーディネート、小物を含めたファッション小物の表現	
	5	メンズコートファッション (2) 着彩、仕上げ	
	6	カラードレス (1) 淡色の表現法 スケッチ、ドレスに似合うポーズの研究	
	7	カラードレス (1) 淡色の表現法 ギャザー、ドレープ、バラ、小花の表現法	
	8	カラードレス (1) 淡色の表現法 水彩絵の具による着彩表現、仕上げ	
	9	カラードレス (2) 濃色の表現法 スケッチ、ドレスに似合うポーズの研究	
	10	カラードレス (2) 濃色の表現法 フリル、リボン、ブーケの表現法	
	11	カラードレス (2) 濃色の表現法 水彩絵の具による着彩表現、仕上げ	
	12	オリジナルコーディネートによる制作 (1) (ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案) A3ボードにてドレスのオリジナルデザイン表現	
	13	オリジナルコーディネートによる制作 (2) A3ボードにてドレスのオリジナルデザイン表現	
	14	オリジナルコーディネートによる制作 (3) 水彩絵の具による着彩表現、仕上げ	
	15	学修成果発表 (プレゼンテーション：個人) 各自自分の作品について発表	
到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げることにより、技法による違いを判断できる。 ◎E：描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：服飾資材店や美術館で、レースやチュール等の素材やアート、デザインに触れる機会を多く持ち、自らの作品制作に使用できる素材を収集する (30分)。 事後学習：常に市場調査する意識を持ち、分野を問わずアートやデザインに触れて感性を磨く (30分)。		
指導方法	板書や配布プリントによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品にトレーシングペーパーの上から加筆等を行い、上達のためのアドバイスをを行う。		
成績評価の方法・基準	C：描く対象物やディテールによって、描き方を工夫できているかを評価する。 E：提出課題により技術力を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書	必要に応じプリント配布		

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中心の授業形態。毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げる事。</li> <li>・課題提出物の期限は厳守すること。</li> <li>・前期のファッションイラストレーション1を履修した学生のみ履修可能である。</li> </ul>
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F22C17			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>イメージを、スケッチやデッサンで表現する手法を学び、衣服やアクセサリー制作に活かすことを目的とする。アナログ的手法に加え、デジタルによる作品を制作し、コミュニケーションスキルのひとつとしても利用できる技術を修得する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎E：色彩の特性を知り、水彩のにじみや、明暗の表現することができる。</p> <p>◎E：Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用して自らのイメージに応じた表現をすることができる。</p>		
授業計画	1	演習内容の説明 スケッチ、デザイン、アナログの手法を用いて行う制作の重要性	
	2	人を描く 人体を描く上での基本的なプロポーション、骨格等の説明 構図についての説明	
	3	色彩、明度 自らの目的、イメージに適した色彩、明暗の応用	
	4	現象を生かした表現 ドリッピング、デマルコマニーなど、絵の具の流動性を生かした抽象的なイメージの表現	
	5	ドローイング 少ない手数による短時間での創作	
	6	日本画を描く（1） 日本独自の絵画表現を踏まえての金箔を扱った制作 下絵制作	
	7	日本画を描く（2） 日本独自の絵画表現を踏まえての金箔を扱った制作 仕上げ	
	8	Macintosh(Photoshop) Macintoshの基本的な操作方法	
	9	Macintosh(Photoshop) 自ら描写したスケッチをもとにしたPhotoshopでの制作	
	10	Macintosh(Photoshop、Illustrator併用) 自ら描写したスケッチをもとにしたPhotoshop、Illustratorでの制作	
	11	Macintosh(Photoshop、Illustrator併用) 自ら描写したスケッチをもとにしたPhotoshop、Illustratorの併用加工	
	12	自由制作（1）（実習） テーマ設定の解説、制作作業	
	13	自由制作（2）（実習） 制作作業	
	14	自由制作（3）（実習） 作品の仕上げ	
	15	学修成果発表、講評（プレゼンテーション：個人） 自由制作を中心に、演習全体を通じた作品のプレゼンテーションと講評	
到達目標・基準	◎E：イメージをアナログ的手法を用い描くことができる。 ◎E：Adobe Photoshop、Adobe Illustratorの基礎的な操作を身につけることができる。		
事前・事後学習	事前学習：作品制作に活かせる資料の収集を行う(30分)。 事後学習：授業で取り上げた参考作家について復習する(30分)。		
指導方法	パワーポイントを使って解説し、スケッチブックやMacintoshを用いて実技演習を行う。 フィードバックの仕方：作品の上からトレーシングペーパーの上から加筆などを行い、上達のためのアドバイスをを行う。		
成績評価の方法・基準	E：作品の完成度を評価する。 アナログ作品40%、デジタル作品40%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書	本学図書館の中のファッション、アート、エンタテインメントに関する図書		
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと。		

アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習
ICTの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
Subject Code : F13C21			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>本授業は、手を使いモノを作るハンドクラフトの基礎技術の修得を目的に、手縫いによるコサージュ、アートフラワーの製作を行う。布による造花の製作工程では、花の種類によって布や糸、コテなどを用い様々な手作業を学ぶ。まず、コサージュ製作を行うことで、加飾する基本技術を習得し、次にアートフラワーの製作を通して、自身の理想のイメージを形にするための加工、装飾の技術を磨く。後半部では、学びの仕上げとしてオリジナル作品を製作し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>(授業目標) ◎E：基本加飾技術を身に付け、作品制作によって表現する力を身に付ける。</p>		
授業計画	1	加工、装飾技術の説明 コサージュ及びアートフラワーの参考作品紹介、作品製作に必要な生地や道具についての説明	
	2	服飾資材を使用したコサージュ製作（1）（実習） ブレードを使用したコサージュの説明及び製作を行う	
	3	服飾資材を使用したコサージュ製作（2）（実習） ブレードを使用したコサージュの製作、仕上げ方法について説明	
	4	オーガンジー生地を使用したコサージュ製作（1）（実習） オーガンジー生地の特徴、製作工程の説明	
	5	オーガンジー生地を使用したコサージュ製作（2）（実習） オーガンジー生地コサージュを製作、仕上げ方法について説明	
	6	加工生地を使用したアートフラワー製作（1）（実習） アートフラワー用加工生地の説明及びコテの使用方を説明	
	7	加工生地を使用したアートフラワー製作（2）（実習） アートフラワー用加工生地を使用したアートフラワー製作	
	8	加工生地を使用したアートフラワー製作（3）（実習） アートフラワー用加工生地を使用したアートフラワー製作及び仕上げ方法の説明	
	9	染色用生地を使用したアートフラワー製作（1）（実習） 染色方法の説明及び製作	
	10	染色用生地を使用したアートフラワー製作（2）（実習） 染色用生地を使用したアートフラワーの製作	
	11	染色用生地を使用したアートフラワー製作（3）（実習） 染色用生地を使用したアートフラワーの製作及び仕上げ方法	
	12	自由製作（1）（実習） オリジナル作品のデザイン、製作方法説明	
	13	自由製作（2）（実習） オリジナル作品の製作	
	14	自由製作（3）（実習） オリジナル作品の製作、仕上げ	
	15	作品プレゼンテーション（個人プレゼンテーション） 製作した作品についてのプレゼンテーション	
到達目標・基準	◎E：加飾するための製作技術の方法を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：様々なハンドクラフト作品を店舗やインターネット等で常に市場調査し、デザインの引き出しを作っておく（20分）。 事後学習：学んだ技術を普段の生活にとりいれられるよう、身近なハンドクラフト作品がどのような構造によりできているのかを考える（25分）。		
指導方法	毎回、「ビジュアル」と「技術」のポイントを伝え、講義も交えて指導していく。製作工程の各段階では、実習内容と使用器具の扱い方などの説明を行う。 フィードバックの仕方：①実習②作品提出③採点（評価）返却④授業後、採点についての質疑応答。		
成績評価の方法・基準	E：作品の技術面、完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布		
参考書	なし		
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。		

アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ			
Subject Code：F23C22			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ニットは毛糸や綿糸を用いて、1本の糸を編み上げることにより形作られていくことが特徴である。手法はかぎ針編み、棒針編み、アフガン編み、レース編み等があるが、いずれも始めに基準となる結ぶ目を作り、その目の中に糸を通して目をつなぎ合わせることを繰り返すことで編地が作られる。製作に関するプリントを参照しながら、基礎編みを修得できるよう個別指導も交えて指導を行う。基礎編みの学修から編地の技能を組み合わせ、応用作品を製作することを目的とする。 (授業目標) ○D：編み図を理解することで、正しい編み方を修得する。 ◎E：基礎編みで修得した技能を組み合わせ、応用作品にて表現する方法を理解する。		
授業計画	1	かぎ針編みによる基礎技法（実習：くさり編み） かぎ針の持ち方、糸の操作方法、作り目、くさり編み	
	2	かぎ針編みによる基礎技法（実習：細（コマ）編み） 細（コマ）編みの編み技法	
	3	かぎ針編みによる基礎技法（実習：長編み技法） 長編みの編み技法	
	4	かぎ針編みによる基礎技法（実習：透かし編み技法） 透かし編み模様の編み技法	
	5	かぎ針編みによる基礎技法（実習：仕上げ方法技法） 基礎編み仕上げ方法	
	6	かぎ針編みによる基礎技法（実習：モチーフ編み技法） モチーフ編み技法（1）	
	7	かぎ針編みによる基礎技法（実習：モチーフ編み技法） モチーフ編み技法（2）、モチーフ編み技法（3）	
	8	棒針編みによる基礎技法（実習：表編み技法） 棒針の操作方法、作り目の技法、表編み技法	
	9	棒針編みによる基礎技法（実習：裏編み技法） 表編み技法、裏編み技法	
	10	棒針編みによる基礎技法（実習：ガーター編み技法） ガーター編み技法、ふせ編み技法、仕上げ、応用作品の配色を決定する	
	11	応用作品製作（1）（実習：同左） 自由作品に取組むためのデザインを決定する、作品製作についての相談	
	12	応用作品製作（2）（実習：同左） かぎ針または棒針の基礎編みを応用して編地を決定する、作品製作についての相談	
	13	応用作品製作（3）（実習：同左） 編地の整え方、糸変えの技法	
	14	応用作品製作（4）（実習：同左） 編地の仕上げ方法	
	15	応用作品製作（5）（実習：同左） 作品の仕上げアイロン、完成	
到達目標・基準	○D：数種類の基礎編みの技法を理解し、適応することができる。 ◎E：基礎編みの技能を組み合わせ、課題作品に応用することができる。		
事前・事後学習	基礎技術の理解と、技能の上達を図れるように事前事後学習をすること。 事前：必ず配布プリントに目を通し、各回で学修する編み図の把握をしておくこと（20分）。 事後：各回のテーマで学修した編み図を理解し、編地を仕上げしておくこと（25分）。		
指導方法	・製作工程に関するプリントを配布し、説明を加えながら指導をする。 ・講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と基礎技術を理解できるように指導をする。 フィードバックの仕方：課題はルーブリック評価を行い返却する。		
成績評価の方法・基準	D：授業に臨む主体性と取り組む姿勢 E：説明に対する理解力と応用作品の完成度（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし プリント配布		
参考書			
履修上の注意	理解できるまで指導は行うが、進度に遅れている場合は空き時間などを利用して遅れないように注意すること		



	と。 数点の課題提出日を厳守し、すべて提出すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
森幸子			
Subject Code：F22C23			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>日本の人形史や国内外のハンドメイドドールのデザインを手がかりに、手作りの人形作品を制作する。</p> <p>課題1は「手のひらサイズ」の作品を個人で制作する。</p> <p>課題2は「本学オリジナルブランド MARIE de TOITA」または「きもの」をテーマに、3名一組で「カスタムドール」を制作する。</p> <p>カスタムドールは、顔、瞳の色、髪の色や型などを自由に選択出来る。ここでは1/6サイズ（27cm）のドールを制作する。</p> <p>ドレス、きもの、アクセサリー、髪型などを工夫して、チームによるカスタムドールのストーリーを創り出しながら、ドールのイメージをかたちに作る。</p> <p>（授業目標）</p> <p>○A：グループワークで共に創り、完成させることにより、協調性や相手の考えを理解することを身につける。</p> <p>◎E：ドールメイクや、裁縫（ミシン・手縫い）の技術や素材の研究を通して、繊細な技術と新しい表現力を身につける。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 日本人形史に触れながら、授業の概要について説明する。</p> <p>課題1「手のひらサイズ」のテーマを発表する。</p> <p>2 手のひらサイズの作品（実習） 課題1「手のひらサイズ」のデザインと素材を考える。</p> <p>3 手のひらサイズの作品（実習）（ICT:WebClass） 課題1「手のひらサイズ」作品制作。 個別指導を行う。</p> <p>4 手のひらサイズの作品（実習） 課題1「手のひらサイズ」作品制作。 個別指導を行う。</p> <p>5 手のひらサイズの作品（実習、プレゼンテーション） 課題1「手のひらサイズ」作品とオリジナルファイルを作成させる。 作品発表と講評を行う。</p> <p>6 カスタムドール 課題2「カスタムドール」研究と制作のためのチーム決定をする。 資料収集の仕方の説明。</p> <p>7 カスタムドール（グループワーク） 課題2「カスタムドール」デザインを決定する。 素材収集の説明。</p> <p>8 カスタムドール（グループワーク）（ICT:WebClass） 課題2「カスタムドール」作品制作。必要に応じてチームリーダーを決め、役割分担をする。 素材収集の説明。</p> <p>9 カスタムドール（グループワーク） 課題2「カスタムドール」作品制作。 各チームごとに素材収集の指導を行う。</p> <p>10 カスタムドール（グループワーク） 課題2「カスタムドール」作品制作。 各チームごとに素材収集の指導を行う。</p> <p>11 カスタムドール（グループワーク） 課題2「カスタムドール」作品制作。中間発表。 各チームごとにオリジナルファイルの準備の説明をする。</p> <p>12 カスタムドール（グループワーク） 課題2「カスタムドール」作品制作。 各チームごとに作品を完成させるための指導を行う。</p> <p>13 カスタムドール（グループワーク） 課題2「カスタムドール」作品制作。 作品（カスタムドール）の撮影に必要な小物や背景の説明を行う。</p> <p>14 カスタムドール（グループワーク）（ICT:WebClass） 課題2「カスタムドール」作品制作。写真撮影。 各チームごとに撮影から印刷（プリント）までを行う。 オリジナルファイル作成の指導を行う。</p> <p>15 カスタムドール（グループワーク、プレゼンテーション） 課題2「カスタムドール」作品発表と講評。 各チームの作品（カスタムドール）とオリジナルファイルを使用して 作品発表をする。講評を行う。 完成作品とオリジナルファイルを提出する。</p>
到達目標・基準	<p>○A：グループワーク 第1課題では、自由な発想の中からオリジナルな考え方や自律性を高めることに応用できる。第2課題では、チームの考えや意見をまとめながら、共に創り完成させることを通して、判断力や協調性、計画性を体験できる。</p> <p>◎E：もの作りを通して、素材の特徴や技術の知識を学ぶことにより、オリジナルな作品を表現・提案出来るよ</p>

	うになる。また、Instagramやminneなど、社会に向けて、感性を生かしたデザインの発信ができる。
事前・事後学習	事前学習：デザインの生きた勉強は街に出て観察することです。普段から好きなデザイン、気になるデザイン、美しいデザインや色を見つけたら、手帳や携帯電話の画像に採集して、たくさんのアイデアの引き出しを持ってください。(45分) 事後学習：学んだ技法や技術の工程は復習やメモなどに残し、今後デザインを考えるプロセスの一助にすること。 (作品はポートフォリオにまとめておくこと。)(45分)
指導方法	自由な発想を活かしながら演習が進められるように個別指導を行い、創造的視点の獲得を促す。 グループワークでは、様々なコミュニケーションの中から作品が完成するまで積極的な指導を行う。 制作・研究遂行能力を高め、それらの伝達と共有能力を育成する。 また、学生の学習状況を把握するため、WebClassを活用し自主学習の取り組み状況をチェックする。 作品制作に必要な技術や手法をわかりやすく解説した画像や動画など、授業課題のイメージ伝達を行う予定である。
成績評価の方法・基準	A：第1課題は、オリジナリティーのある作品の完成度を評価する。第2課題では、他者とのつながりを尊重しながら、グループ学習の貢献度及び授業態度、グループ作品の完成度を評価する。 E：自らの技能や表現力を生かした作品の完成度を評価する。芸術・デザインの表現力及びデザインを考えるプロセスも評価の対象となる。 課題1 作品30%、課題2 作品30%、提出物20%、授業態度・貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリント資料を配布
参考書	
履修上の注意	第2課題のカスタムドールはグループで制作を行う。 提出物のデザインや構成などの指導は積極的に行いますが、提出期限を過ぎた作品は基本的には受け付け無い。 宿題や提出物の自己管理をしっかりと行うこと。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク、プレゼンテーション
I C T の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：F22C26			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>刺繍とは糸を使用して布地あるいはその他の素材に装飾を施すハンドクラフト（手芸）の1つである。本授業では手刺繍で、主にフランス刺繍の刺し方（ステッチ）を実習し、刺繍の技法を学ぶ。始めに基礎的なステッチの刺し方を実習し、その後は刺繍の図案を考え、布地にトレースして図案に適した刺し方で作品を完成させる。糸は刺繍専用の糸、針も刺繍に適した針穴の大きなものを使用して実習する。刺繍糸は様々な色に染められたもの、用途に応じた種類の刺繍糸があり、刺繍は出来上がりの色使いを楽しむことも学びのひとつである。</p> <p>（授業目標） ○D：基礎ステッチを修得し、刺繍のデザインや図案に応じた刺し方を身につける。 ◎E：基礎ステッチを正しく刺す事ができ、図案や刺繍糸の色使いによって作品の表現方法を修得する。</p>		
授業計画	1	刺繍の概要と種類（実習） 刺繍の知識とステッチの種類、バリエーションを知り、使用する布地の種類、糸の種類、デザインとしての図案の考え方やトレースの方法なども総合的に学び、刺繍への理解を深め、フランス刺繍の基礎となるステッチを実習する	
	2	基礎ステッチ（1）（実習） ランニングステッチ、バックステッチ、ストレートステッチなどを実習	
	3	基礎ステッチ（2）（実習） アウトラインステッチ、チェーンステッチなどを実習	
	4	基礎ステッチ（3）（実習） レイジーデイズステッチ、バリオンステッチなどを実習	
	5	基礎ステッチ（4）（実習） サテンステッチ、フレンチノットステッチなどを実習	
	6	基礎ステッチの応用 作品の製作（実習） 基礎ステッチ（1）～（4）で修得したステッチを応用し、トートバッグに刺繍のデザインを考え、のちに図案化する。図案をトレースし、どのステッチで刺繍のデザインを表現するかを検討して作品を製作、完成させる	
	7	基礎ステッチの応用 作品の製作（実習） 今までに学び実習したステッチを応用し、作品（トートバッグ）を製作	
	8	基礎ステッチの応用 作品の製作（実習） 今までに学び実習したステッチを応用し、作品（トートバッグ）を製作	
	9	基礎ステッチの応用 作品の製作（実習） 今までに学び実習したステッチを応用し、作品（トートバッグ）を製作	
	10	クロスステッチ（実習） クロスステッチの刺し方を学び、各自で飾りフレーム（内側の生地）に刺すクロスステッチのデザインを考え、図案化し、作品として製作、完成させる	
	11	クロスステッチ（実習） クロスステッチの技法で作品を製作	
	12	クロスステッチ（実習） クロスステッチの技法で作品を製作	
	13	ビーズワーク（実習） ビーズを使用し刺繍として表現する刺し方を学び、フランス刺繍の基礎ステッチも加え、各自のデザインを図案化し、作品としてブローチを製作する	
	14	ビーズワーク（実習） フランス刺繍のステッチとビーズワークで作品を製作	
	15	ビーズワーク（実習） フランス刺繍のステッチとビーズワークで作品を製作	
到達目標・基準	○D：習得した基礎ステッチの名称と刺し方を説明できる。 ◎E：基礎ステッチを正しく刺し、作品製作によってそれを表現できる。		
事前・事後学習	事前学習：多くの作品に触れ、刺繍を理解すること。基礎ステッチの練習をしておく（20分）。 事後学習：授業終了後には学習したステッチの刺し方を復習し、作品の完成に努めること（25分）。		
指導方法	パワーポイント、サンプルを使用し、基礎ステッチそれぞれの刺し方、図案のトレースの方法を指導する。ステッチの刺し方は小グループに分かれ、実習指導をする。基礎ステッチを修得した後、それぞれのステッチを使用して作品を製作する。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後に採点についての質疑対応		

成績評価の方法・基準	D：それぞれのスケッチの差し方を正しく理解しているかを評価する。 E：作品の完成度を評価する。 作品 80%、授業への貢献度 20%
テキスト	プリントを配布
参考書	
履修上の注意	作品は授業時間内での完成を目指すか、時間内で終了しなかった場合は、各自で時間外に実習を進める事。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
芳田慎平			
Subject Code：F22C24			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	リングやネックレス、ブレスレットなど、普段使いできるアクセサリの課題制作を行うことで、金属材料からつくる彫金技法での基礎的な制作技術を体験・学修する。また制作の過程で素材や流通の知識を学ぶ。基礎的なアクセサリの制作技術を理解した上で、様々なデザインや素材に触れ、自由な発想でオリジナルのアクセサリ制作を行う。講義全体の前半部分では基礎を学び、後半部分では応用としてオリジナリティある作品のデザイン、制作を行う。  (授業目標) ◎E：金属材料によるアクセサリ制作の基礎技法を理解し、応用してオリジナルデザインの制作ができる。
授業計画	1 ガイダンス 授業概要・各課題の説明、工具の知識、評価方法の説明 2 シンプルデザインのリング制作（実習：2～14回） 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作 3 シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作 4 ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 ロストワックス技法の説明、デザイン、原型制作 5 ワックス原型制作 デザイン、原型制作 6 リング制作応用 ワイヤーを用いたオリジナルデザインリングの制作 7 チャームアクセサリの制作 ロストワックス技法により鑄造された金属パーツのアクセサリへの組み立て 8 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 デザインシート作成、素材集め など 9 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 デザインシート作成、素材集め など 10 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など 11 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など 12 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など 13 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など 14 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作、展示パッケージ、ディスプレイの制作 など 15 作品講評（プレゼンテーション）（ICT：クリッカー） クリッカーを活用し、学生評価を加味したうえで選定した優秀作品制作者によるプレゼンテーション。 展示した作品をビデオでプロジェクターの投影し、デザインのポイントや作品のコンセプトなどを説明する。
到達目標・基準	◎E：課題に沿った内容の基礎的なアクセサリ制作をすることができる。
事前・事後学習	事前学習：アクセサリ専門店や展示会などで実物に触れてみる。（30分） 雑誌やインターネットなどでアクセサリの多様なデザインを知る（30分） 事後学習：各課題に対する制作方法の手順について参考資料を見直し復習する。（30分）
指導方法	各課題の実習の際に、プロジェクターでの動画紹介や配布資料による説明を行う。 各課題終了時に完成した課題作品を提出してもらい評価をする。 フィードバックの仕方：課題制作の詳細については担当講師が制作実演、またサポート、デザインなどのアドバイスを行う。 オリジナル作品課題について、講師より作品への評価、アドバイスをコメント記載し、返却する。

成績評価の方法・基準	E：それぞれの提出課題と、オリジナリティを求めて授業へ取り組む姿勢を評価する。 課題提出80%、授業姿勢20%
テキスト	なし プリント資料を配布
参考書	各ファッション雑誌、SNSなど
履修上の注意	細やかで地味な作業もある集中力のいる実習であることを理解したうえで受講すること。 積極的な好奇心と自由な発想でもって制作に取り組むこと。 薬品や火器、その他怪我をする可能性のある工具による作業があるので、十分に注意して作業に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
ICTの活用	クリッカー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平林芳子			
Subject Code : F13C26			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	染色の基本技法であるロウケツ染め、型染め、絞り染めの表現方法、素材との関係、工程について学ぶ。基本の染め方によるサンプルを制作する。サンプルを試作した後に、各技法に適したデザインを考え染色作品を完成させる。染色の基本技法を学ぶことで、ファッションやインテリアにおけるテキスタイルデザインの特徴について理解する。 (授業目標) ◎D：既存の染色作品に関心を持って知識を深め、技法や工程を理解した上で作品に活かすことができる。 ◎E：技法や素材、工程について理解した上で、その特徴を活かしたオリジナルのデザインによる染色作品を制作することができる。		
授業計画	1	ロウケツ染め (1) (実習：1～15回) 素材、技法、表現についての説明 ・ サンプル試作	
	2	ロウケツ染め (2) サンプル試作・デザインを考える	
	3	ロウケツ染め (3) ロウ置き (防染) ・ 反応染料による彩色	
	4	ロウケツ染め (4) 反応染料による彩色・脱ロウ処理・仕上げ	
	5	ロウケツ染め (5) 脱ロウ処理・仕上げ	
	6	型染め (1) 素材、技法、表現についての説明・サンプル試作	
	7	型染め (2) デザインを考える	
	8	型染め (3) 型紙を彫る 顔料による捺染	
	9	型染め (4) 顔料による捺染・仕上げ	
	10	絞り染め (1) 素材、技法、表現についての説明・サンプル試作	
	11	絞り染め (2) デザインを考える	
	12	絞り染め (3) 布を縫う	
	13	絞り染め (4) 縫った糸を絞る	
	14	絞り染め (5) 天然染料、藍についての説明・藍による浸染	
	15	絞り染め (6) 絞った糸を解く・仕上げ・作品講評	
到達目標・基準	◎D：既存の染色作品から興味あるデザインをセレクトして模倣することができる。 ◎E：基本的な技法による染色作品を制作することができる。		
事前・事後学習	事前学習：積極的に展覧会や美術館などに行き、さまざまな作品を見て見識を深めておくこと。(60分) 事後学習：授業で学んだ表現方法をもとにアイデアを進展させておくこと。また、技法や工程などをプリントで復習しておくこと。(30分)		
指導方法	実習作品の全体像を把握できるよう、技法と表現について解説。 課題毎にサンプルを試作し、理解度を高める。 具体的なデザインの考え方や作業工程、注意事項などを説明した上で実習を進める。 フィードバックの仕方：デザインアイデアのスケッチに対して技法に適したアドバイスをする。		
成績評価の方法・基準	D：提出課題により、技法についての理解度を評価する。 E：提出課題の完成度(出来栄え、クオリティ)を評価する。 提出課題90%、授業態度・貢献度10%		
テキスト	なし プリント資料を配布する		
参考書	なし		



履修上の注意	探究心と興味を持って作品の制作に取り組むこと。 課題の作業工程を把握し、進行状況にも気を配りながら作品の完成度を高めること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択必修
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code : F14B27			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本のファッションビジネスは、1960年代に繊維産業の中の小売段階で確立したが、近年のグローバル化とデジタルテクノロジーの急速な進化により、取り巻く環境は厳しさを増している。本講義は、ファッション業界の生産と流通を学ぶことでファッションビジネスを考察できるようになることを目的に、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAの社員を想定してすすめる。大きく業界研究、職種研究、企業研究、ブランドビジネス研究の4項目に分類し概説する。さらに、日本のファッションブランドも事例として取りあげる。 (授業目標) ファッション業界の歴史と現状の理解を通じて、業界で働くために必要となる専門的知識を身につける。 ◎D：ファッション業界の仕組みを知ること、ファッション業界のブランドビジネスを理解する。		
授業計画	1	ファッション業界研究 (1) 本学オリジナルブランドMARIE de TOITAのコンセプト ファッションの生産と流通について	
	2	ファッション業界研究 (2) 日本のファッション業界の歴史 日本の繊維産業およびファッション関連業界について	
	3	ファッション業界研究 (3) 企業と組織 ブランドの種類、使命、コンセプト、哲学について	
	4	ファッション業界・職種研究 (1) デザイナーとパタンナーの仕事	
	5	ファッション業界・職種研究 (2) 生産管理 (プロダクトコントローラー) の仕事	
	6	ファッション業界・職種研究 (3) 営業とマーチャンダイザーの仕事	
	7	ファッション業界・職種研究 (4) アタッシュ・ドゥ・プレスの仕事	
	8	ファッション業界研究 (4) ファッション小売業の業態	
	9	ファッション業界・企業研究 (1) デザイナーズブランド	
	10	ファッション業界・企業研究 (2) SPAブランド	
	11	ファッション業界・企業研究 (3) セレクトショップ、ライフスタイルショップ	
	12	ファッション業界・企業研究 (4) オンラインショップ、zozoとマッシュスタイルラボ	
	13	ブランドビジネス研究 (1) ライセンスビジネス	
	14	ブランドビジネス研究 (2) 垂直統合型ビジネス ブランド拡張戦略	
	15	ブランドビジネス研究 (3) ファッション業界の最新事情およびこれからについて	
到達目標・基準	◎D：日本のファッション業界の仕組みを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やファッションサイト等で最新のファッショントレンドの知識を深めておくこと。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておく (60分)。 事後学習：実店舗やECサイトを企業と顧客、双方の視点から分析すること (120分)。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。		
成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー・定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する。		
参考書	授業内で指示する。		
履修上の注意	ファッション セールズモデル、ファッション プランニングモデル、ファッション デザインモデルを履修する		

	学生は受講すること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F14C28			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どこの店でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえなくなっている。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>(授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：日々のニュース、店舗調査などからファッション小売業の現状と課題について考察する。</p>		
授業計画	1	ファッションビジネスの知識 ファッション産業の分類、商品計画の流れについて	
	2	ファッション小売業の構造と特徴 ファッション小売業の業態、百貨店、専門店の特徴について	
	3	SPAとセレクトショップ 企画から販売方法、組織形態の違いについて	
	4	ファッション小売業のマーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの設定について	
	5	コンセプトの策定 トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、スタイリングテーマについて	
	6	営業計画の策定 営業期、品揃え計画、販売促進計画、売場レイアウトについて	
	7	売場構成、商品陳列の基本知識 VMDにおける3つの手法、空間構成の種類、商品陳列の基本技術について	
	8	販売員の業務内容と基本マナー 開店から閉店までの基本的な業務内容、接客用語、電話対応、クレーム対応と処理について	
	9	購買心理の7段階 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて	
	10	顧客管理の基本知識 顧客満足経営の重要性、固定客づくりについて	
	11	売場における計数管理 予算比、前年比、客単価、値入高と粗利益、商品回転率について	
	12	ファッション商品の知識 アイテム・デザインによる分類、ディテール、シルエット&ラインについて	
	13	素材の知識 素材の種類、その長所と短所、柄について	
	14	サイズ・品質表示 サイズの読み方、組成表示、取扱表示、原産国表示、品質マーク表示について	
	15	競合店調査の方法 商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて	
到達目標・基準	◎D：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々の新聞やニュース、店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめておくこと（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる（90分）。		
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、受講態度・貢献度20%、小テスト10%、課題10%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	「ファッション販売3」著者：財団法人日本ファッション教育振興協会 出版社：日本ファッション教育振興協会 「ファッション販売能力検定3級試験問題集」著者：財団法人日本ファッション教育振興協会 出版社：日本ファッション教育振興協会		
履修上の注意	「ファッション販売能力検定試験3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「服飾造形論」「ファッション素		

	材論」を併せて受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F14C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	マーケティングの基本理念は、消費者の利益を第一に考えた経営活動を行うことにある。その消費者のニーズに対応した商品を仕入れたり、つくらせたりする計画と管理の機能をマーチャダイジング（商品計画）とよぶ。本講義は、商品計画の業務内容である商品企画から商品の選定、仕入活動、在庫管理に至る一連の流れについて明らかにしながら、価格設定の考え方、利益の構造などについて解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 （授業目標） 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業における計数管理や在庫管理のしくみを理解し、商品計画における業務の知識を修得する。
授業計画	<p>1 マーケティングとマーチャダイジングの違い メーカーと小売業における4Pの違いについて</p> <p>2 小売業のマーケティング戦略 外部環境と内部資源の把握、標的市場と商圈の設定について</p> <p>3 マーケティング・ミックスの構築 商品構成、商取引流通の設定、販売促進策について</p> <p>4 顧客管理の基本的役割 顧客満足経営の基本知識、FSP（フリークエントショッパーズプログラム）について</p> <p>5 売場の基本知識 ゾーニングの構築から売場レイアウトの設計について</p> <p>6 マーチャダイジングの構成要素 商品計画から商品管理、5つの適正について</p> <p>7 商品計画の意義およびその構造 具体的な内容と策定方法、品揃えの幅と奥行について</p> <p>8 仕入計画の立て方 商品カテゴリー別の予算編成と留意点について</p> <p>9 仕入方法と発注方法 大量仕入と当用仕入、定量発注法と定期発注法について</p> <p>10 売価決定の要素 売価と原価と利益の関係、値入高と値入率について</p> <p>11 利益の構造 商品ロスの基本的原因、粗利益高、粗利益率について</p> <p>12 在庫管理の意義 過剰在庫の発生原因、金額および数量管理について</p> <p>13 商品回転率と交差比率 商品回転率および日数の算出方法、貢献度分析手法について</p> <p>14 POSシステム POSシステムのしくみ、販売データの活用方法について</p> <p>15 戦略的な価格政策と心理的価格政策 端数価格、段階価格、慣習価格、名声価格、均一価格、ハイ・アンド・ロープライス、エブリデーロープライスについて</p>
到達目標・基準	◎D：小売業における商品計画の流れを説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品やヒット商品、ロングセラー商品に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がけることが大切である。
成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、受講態度・貢献度20%、小テスト10%、課題10%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストI」日本商工会議所・全国商工会連合会編
参考書	「商品戦略と診断」著者：大江 宏・村松 幸広・首藤 禎史 出版社：同友館
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施す

	る予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F14C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	小売業における販売管理とは、事務管理から人事管理、店舗管理まで多岐にわたる。本講義は、販売管理の基礎知識を学修し、販売に関わる事務管理や計数管理の必要性、照明や色彩技術を活用した売場演出の方法について解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：小売業経営に必要な人事管理、店舗管理の留意点、財務諸表の見方、販売活動に関する法規の知識を修得する。		
授業計画	1	販売員の目的と役割 販売員と顧客の関係、クレームや返品への対応について	
	2	顧客の購買心理過程 顧客心理と接客販売技術について	
	3	小売業の販売業務 ワークスケジューリング、人時生産性について	
	4	商品陳列の基本知識 陳列器具と販売方法における基本陳列の種類について	
	5	売場演出の技術 店内照明の種類と役割、ディスプレイ効果を高める色彩の活用について	
	6	慶弔進物の基礎知識 包装の種類、和式進物包装について	
	7	金銭管理の基本知識 金券類の扱いと代金支払い方法の種類について	
	8	販売活動に関する法規 売買契約、割賦販売、訪問販売、通信販売に関する法規について	
	9	不当景品類の規制 総付景品、一般懸賞、共同懸賞の最高額および総額の制限について	
	10	不当表示の防止 規制の目的、商品名原材料、性能・品質、信用誤認の表示について	
	11	小売店経営における計数管理の必要性 売上・利益・原価の関係、値入高と粗利益高の違いについて	
	12	損益計算書の見方 4つの費用と5つの利益について	
	13	売買損益の計算法 売上高、売上原価、売上総利益について	
	14	商品の安全確保に関する法規 薬事法、PL法、JAS法、消費期限と賞味期限の違い、トレーサビリティについて	
	15	小売業におけるリスクマネジメント 万引き防止対策とセキュリティシステムについて	
到達目標・基準	◎D：販売員に必要な接客技術や売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。		
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験60%、小テスト20%、受講態度・貢献度20%		
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅡ」日本商工会議所・全国商工会連合会編		
参考書	「営業管理実務」著者：営業管理研究会監修 出版社：産業能率大学出版部		
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「商品企画」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する		



	予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F23A31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。企業から必要とされる人材になるには、独自の強みや成果を上げるために必要となる力を持たなければならない。本講義は、社会的・職業的自立を図るための力が理解できるようになることを目的に、主にファッション業界で働くビジネスパーソンに必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を中心に概説する。さらに、ビジネスシーンでの事例や最新ニュース等を取りあげる。 (授業目標) ◎C：現状を分析し、成果を出す方法を知る
授業計画	<p>1 企業と組織 (1) 業界と職種、役職と人事、就業力について</p> <p>2 企業と組織 (2) 新人として必要な力、ケブナー・トリゴー法と主体性について</p> <p>3 職場でのコミュニケーション (1) ファッションビジネスマナー 挨拶と言葉遣い、EQ (心の知能指数) について</p> <p>4 職場でのコミュニケーション (2) ファッションビジネスマナー メールの基本ルール</p> <p>5 職場でのコミュニケーション (3) ファッションビジネスマナー 「依頼」「断る」「謝罪」の方法</p> <p>6 職場でのコミュニケーション (4) ファッションビジネススキル 応援される力「好かれる力」</p> <p>7 職場でのコミュニケーション (5) ファッションビジネススキル 応援される力「反省力」「巻き込み力」</p> <p>8 ファッションビジネス基礎力 (1) 情報収集 情報の収集と活用、インターネットと読書</p> <p>9 ファッションビジネス基礎力 (2) 整理術 情報、思考の整理</p> <p>10 ファッションビジネス基礎力 (3) 時間の使い方 時間管理、時間の作り方と生かし方</p> <p>11 ファッションビジネス実践力 (1) 段取りと改善 仕事の方法、手順と優先順位、PDCAとPDS、SWOT分析</p> <p>12 ファッションビジネス実践力 (2) 分析 課題を発見するフレームワーク</p> <p>13 ファッションビジネス実践力 (3) 分析 アイデアを練るためのフレームワーク</p> <p>14 仕事術 (1) リーダーシップとプロフェッショナル リーダーとマネジャー、プロフェッショナルの力</p> <p>15 仕事術 (2) デジタルリテラシー デジタルテクノロジーとビジネスシーン</p>
到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる
事前・事後学習	事前学習：日経MJ、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと (60分)。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる (120分)。
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。
成績評価の方法・基準	C：リアクションペーパー、定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。
アクティブ・ラー	特になし

ニング	
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : F23C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解する。 ◎D：理論にもとづいて、企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例について考察する。
授業計画	<p>1 マーケティングとは マーケティングの歴史の変遷、現代企業におけるマーケティングの役割について</p> <p>2 顧客価値と顧客満足 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係について</p> <p>3 マーケティング環境の分析 SWOT分析とポーターの5つの競争要因について</p> <p>4 マーケティング・ミックスの重要性 STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）戦略、ペルソナ分析について</p> <p>5 マーケティング・リサーチ 定性と定量調査、アンケート調査、観察調査、行動観察、インタビュー調査について</p> <p>6 ブランド戦略 ブランド・エクイティ、ブランド要素、ブランド拡張について</p> <p>7 製品戦略 製品ライフサイクル理論とイノベーション普及理論について</p> <p>8 価格戦略 上澄み吸収価格と市場浸透価格、消費者心理を考慮した価格政策、参照価格について</p> <p>9 流通戦略 直接流通と間接流通チャネルの特徴、オムニチャネル戦略の課題について</p> <p>10 販売促進戦略 プッシュ戦略とプル戦略の違い、値引きのネガティブ効果、景品表示法について</p> <p>11 マーケティング・コミュニケーション 広告の変遷、消費者反応プロセス、コミュニケーションのノイズについて</p> <p>12 サービス・マーケティング サービスの特性（無形性、同時性、消滅性など）、優れたサービスの定義（SERVQUAL）について</p> <p>13 リレーションシップ・マーケティング パレートの法則、CRM（カスタマーリレーションシップマーケティング）について</p> <p>14 経験価値マーケティング SENSE（感覚）、FEEL（喜怒哀楽）、THINK（思考）、ACT（行動）、RELATE（交流）について</p> <p>15 ソーシャル・マーケティング 企業の社会的責任（CSR）、コズ・リレーテッド・マーケティングについて</p>
到達目標・基準	◎D：マーケティングの基礎理論および用語を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと（90分）。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと（90分）。
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がかかることが大切である。
成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験70%、受講態度・貢献度20%、課題10%
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「基礎コース マーケティング」 著者：小原 博 出版社：新世社
履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。
アクティブ・ラーニング	特になし

ICTの活用	特になし
--------	------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F23C38			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	近年のグローバル化とデジタルテクノロジーの急速な進化により多様な価値観が生まれ、結果としてファッションは急激に売れなくなり、現在、日本のファッションビジネスは大きな壁にぶつかっている。本講義は、ファッションビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAの本社および店舗で働く社員を想定してすすめる。事例としてラグジュアリーブランドやファストファッションブランドを取り上げ、消費者を惹きつけるブランドの戦略について概説する。さらに、ファッション業界でのコミュニケーションに役立つ文化・アートの知識も取り上げる。 (授業目標) ◎B：ファッション業界で必要となるコミュニケーションスキルを理解する。		
授業計画	1	MARIE de TOITAの組織 企業としてのMARIE de TOITA、組織形態、本部の職種と役割	
	2	MARIE de TOITAの経営（1） MARIE de TOITAの経営戦略、ビジョンとミッション	
	3	MARIE de TOITAの経営（2） MARIE de TOITAの経営戦略、ブランド構想	
	4	MARIE de TOITAの経営（3） MARIE de TOITAの生産	
	5	MARIE de TOITAのマーケティング（1） MARIE de TOITAのマーケティング戦略、市場の分析	
	6	MARIE de TOITAのマーケティング（2） MARIE de TOITAのマーケティング戦略、マーケティングミックスと顧客の分析	
	7	MARIE de TOITAのコミュニケーション（1） MARIE de TOITAのコミュニケーション戦略、他者に伝えるビジネスツール	
	8	MARIE de TOITAのコミュニケーション（2） MARIE de TOITAの販売戦略、店舗展開とプロモーション	
	9	MARIE de TOITAのブランドビジネス（1） ラグジュアリーブランド戦略①チャンネルとカール・ラガーフェルド	
	10	MARIE de TOITAのブランドビジネス（2） ラグジュアリーブランドの戦略②クリスチャン・ディオールとイブ・サンローラン	
	11	MARIE de TOITAのブランドビジネス（3） ラグジュアリーブランド戦略③グッチとケリング	
	12	MARIE de TOITAのブランドビジネス（4） ラグジュアリーブランド戦略④ルイ・ヴィトンとLVMH	
	13	MARIE de TOITAのブランドビジネス（5） ラグジュアリーブランド戦略⑤エルメスとラグジュアリー	
	14	MARIE de TOITAのブランドコミュニケーション（1） デジタルテクノロジーとファッションビジネス、ファッションケーススタディ①米国の企業	
	15	MARIE de TOITAのブランドコミュニケーション（2） デジタルとファッション、ファッションケーススタディ②日本の企業	
到達目標・基準	◎B：ファッション業界で役立つコミュニケーションの手法を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日本経済新聞、日経MJ、WWD、アエラそしてビジネスサイトに目をおし、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。		
指導方法	パワーポイントやビデオ・映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。		
成績評価の方法・基準	B：毎回のリアクションペーパー・定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	授業内で指示する。		
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスに関する記事をチェックすること。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。		
アクティブ・ラー	特になし		

ニング	
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専:選択
担当教員			
村上大			
Subject Code : F14C33			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デジタルツールを活用したイラスト作画のノウハウは日々進化しており、学業や日々の暮らしの中で情報発信や書類制作に使われるようになってきた。 本講座ではまずそれらの有用性や生産性を知り、学修において積極的に活用するための、初学者向けの作画トレーニングを行う。企画プレゼンテーションで使う記号・図表を作成したり、ファッションブログ・SNS等でのデジタルイラストを発信するための方法について学ぶ。 (授業目標) ◎E：さまざまなイラスト作画ができる。デジタル・ICTを活用した制作の基礎技術を修得する。
授業計画	<p>1 デジタルツールを活用した制作方法（実習、Webclass：1-15回） 制作初心者の制作事例紹介、PC基本操作、インターネットでの資料収集の方法/著作権について</p> <p>2 キャラクターのイラスト作画（1）PowerPoint イラストの種類と分野、ベクターデータとビットマップデータの違いについて</p> <p>3 キャラクターのイラスト作画（2）PowerPoint 服装、所作、表情などバリエーション案の企画・提案の方法、作品のオリジナリティについて</p> <p>4 キャラクターのイラスト作画（3）（プレゼンテーション：作品発表・講評） キャラクターを活用したプレゼンテーション用画像の制作</p> <p>5 キャラクターのイラスト作画（4）PowerPoint、Adobe Illustrator Web記事コンテンツ用の画像の作成、レイヤー構造について</p> <p>6 製品・売場インテリアのイラスト作画（1）Adobe Photoshop ビットマップデータの作画について</p> <p>7 製品・売場インテリアのイラスト作画（2）Adobe Photoshop 手書きのイラスト（原画）の制作、PCへスキャニング、加工・編集</p> <p>8 製品・売場インテリアのイラスト作画（3）Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 立体的なイラストを描く方法、透視図法の基礎について</p> <p>9 製品・売場インテリアのイラスト作画（4）（プレゼンテーション：作品発表・講評） 家具、インテリア、建物の描画事例紹介と制作</p> <p>10 ファッションイラストのデジタル作画（1）Adobe Photoshop・Adobe Illustrator デジタルの人体模型を使用したポーズ・スケッチ、ファッションデザインの原画作成</p> <p>11 ファッションイラストのデジタル作画（2）Adobe Photoshop・Adobe Illustrator テキスタイルの制作、ファッション画の彩色、質感設定</p> <p>12 ファッションイラストのデジタル作画（3）Adobe Photoshop・Adobe Illustrator 宝飾品・アクセサリーのイラスト制作 CGデータの配置、描画</p> <p>13 ファッションイラストのデジタル作画（4）（プレゼンテーション：作品発表・講評） 商品プロモーションのためのポスター・サイネージ作成 文字組・配色・レイアウトの原則</p> <p>14 ポートフォリオ制作（1）PowerPoint ポートフォリオサイトの制作、作品の説明の仕方について</p> <p>15 ポートフォリオ制作（2）（講評） 作品ポートフォリオPDF、ポートフォリオサイトの制作</p>
到達目標・基準	◎E：デジタルツールの基礎的な使い方ができ、日常的に学業で活用できる程度に慣れる。「Power Point」「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」の基本操作ができる。
事前・事後学習	事前学習：個人制作の企画・作成や資料収集は授業までに課題として取り組み、授業内ではそれらをもとに制作する。(30分) 事後学習：授業で学修した知識や技能は次回の振り返りの演習で応用できるようトレーニングをする。(15分)
指導方法	各課題の発表や成果物に対しては教員から学生の技能にあわせて個別の添削やトレーニング方法のアドバイスを行い、継続的な成長を支援する。添削事例やQ&Aをオンラインで共有をすることで継続的、自主的な学習を促す。
成績評価の方法・基準	E：課題提出物、授業態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物 70%、授業態度・貢献度（作品発表・講評への貢献度を重視）30%
テキスト	オンライン教材及びプリントを配布する。
参考書	Webサイト：伝わるデザイン <a href="http://tsutawarudesign.com/">http://tsutawarudesign.com/</a> 書籍：伝わるデザインの基本 増補改訂版（2016/8/5） 著者：高橋 佑磨，片山 なつ 出版社：技術評論社
履修上の注意	事前のデザイン経験やICTの専門知識は必要ない。スマートフォンや無料のアプリやICTサービスを主に使用する



	るため、特殊な機材環境を使用しなくても、自習や課題制作がするめられるカリキュラムとなっている。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
村上大			
Subject Code : F14C34			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザインやデジタル制作の技術は専門家の限られた仕事だけでなく、教育や日々の暮らしの中でも使われるようになってきた。本講座ではそれらを基礎から段階的に修得し、学業や仕事で継続的に活用・実践することを旨とする。 ファッションの学びについての展示・プレゼンテーションやプロモーションの手法を学び、Instagram等のSNSやYouTubeなどで作品を発信するための制作技術を修得する。 (授業目標) ◎E：デジタルの制作技術を日常的に活用し、Web、グラフィック、ビジネス書類等が円滑に作成できる。		
授業計画	1	デジタルツールを活用した制作方法 PC基本操作 (実習、Webclass：1-15回) 制作用のツール・パソコンの使い方、インターネットでの資料収集の方法/著作権について	
	2	リーフレット・ポスター制作 (1) Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 広告デザインの基礎 (配色・レイアウト・文字組)、展示ポスターの作り方について	
	3	リーフレット・ポスター制作 (2) Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 図解イラスト作画、作品のバリエーション・制作について	
	4	リーフレット・ポスター制作 (3) (プレゼンテーション：作品発表・講評) ファッション商品のプロモーションツール制作	
	5	プレゼンテーション動画制作 (1) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects 動画の動画カット編集、モーショングラフィックスの制作	
	6	プレゼンテーション動画制作(2) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects 制作物の撮影・照明、PCへの取り込み・編集	
	7	プレゼンテーション動画制作 (3) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects ストーリー、テロップの制作、ナレーション・音声の制作	
	8	展示・プレゼンテーション (プレゼンテーション：作品発表・講評) プレゼンテーション動画の制作・展示の練習	
	9	初心者向けデジタル制作教室の企画・実施 (1) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects 講座の企画 広報・集客手法について	
	10	初心者向けデジタル制作教室の企画・実施 (2) Adobe Photoshop、Adobe AfterEffects 技術指導用の動画・プロモーション素材撮影	
	11	初心者向けデジタル制作教室の企画・実施 (3) (プレゼンテーション：作品発表・講評) デジタル技術を学ぶ初心者向けの教室の実施	
	12	初心者向けデジタル制作のWebページ制作 (1) Adobe Photoshop 写真・動画撮影、Webページの作り方について	
	13	初心者向けデジタル制作のWebページ制作 (2) (プレゼンテーション：作品発表・講評) 記事コンテンツの編集、写真撮影・画像加工	
	14	ポートフォリオ制作 (1) 作品紹介の方法、Web・紙のポートフォリオ制作手法について 作品提出	
	15	ポートフォリオ制作 (2) (講評) ビジネスで活用する、ポートフォリオ・スキルシートについて	
到達目標・基準	◎E：学修の成果をICT、デジタルの技能を駆使し作品として具体化し発表・公開できる。 「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」「Adobe AfterEffects」を専門的な技術を用い使用できる。Webページが作成できる。		
事前・事後学習	事前学習：個人制作の企画・作成や資料収集は授業までに課題として取り組み、授業内ではそれらをもとに制作する。(30分) 事後学習：授業で学修した知識や技能は次回の振り返りの演習で応用できるようトレーニングをする。(15分)		
指導方法	各課題の発表や成果物に対して指導者から学生の技能にあわせて個別の添削やトレーニング方法のアドバイスをし、継続的な成長を支援する。添削事例やQ&Aをオンラインで共有をすることで継続的、自主的な学習を促す。ICTを活用した双方向型授業を行う。		
成績評価の方法・基準	E：課題提出物、受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物 70%、授業態度・貢献度 30%		
テキスト	オンライン教材及びプリントを提供する。		
参考書	Webサイト：伝わるデザイン <a href="http://tsutawarudesign.com/">http://tsutawarudesign.com/</a> 書籍：伝わるデザインの基本 増補改訂版 (2016/8/5) 著者：高橋 佑磨，片山 なつ 出版社：技術評論社		

	書籍：Webポートフォリオ・デザインブック SNS時代のクリエイティブの見せ方・伝え方（2018/2/27） 著者：小島 幸代，草野 恵子，北川 貴清 出版社：エムディエヌコーポレーション
履修上の注意	情報リテラシーのカリキュラム内容を積極的に学んでいることが望ましい。デジタル技術はあくまでも表現の手段として活用するので、専門的なPCの知識や画力・デザイン経験は必要ない。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code : F23C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTの進化とスマートフォンの普及により、表現の進化が促され、ビジネスパーソンにとってデジタルリテラシーは必須のものとなっている。本授業は、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAのデジタル部門の仕事を想定してすすめる。ファッション業界の仕事に必要なデジタル関連の情報や知識を概説し、仕事に役立つテクニックを磨くために「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」「Keynote」「iMovie」の基本操作を身につける。さらに、デジタルでの課題制作をとおして表現力や独創性を高める。 (授業目標) ◎E：Macintoshの操作方法を理解し、「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」「Keynote」「iMovie」の基本操作を身につける。		
授業計画	1	Macintoshの使い方 Macintosh (MacBook Pro) の基本操作とGoogleアプリの使い方	
	2	Adobe Photoshopの基本操作 Adobe Photoshopを使用した個人ワークとDropboxの使い方	
	3	Adobe Illustratorの基本操作 Adobe Illustratorを使用した個人ワークとEvernoteの使い方	
	4	Keynoteの基本操作（1） Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	5	Keynoteの基本操作（2） Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	6	iMovieの基本操作（1） iMovieを使用した個人ワーク	
	7	iMovieの基本操作（2） Movie、Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	8	iMovieの課題制作（1） iMovie、Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	9	iMovieの課題制作（2） Movie、Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	10	プレゼンテーション（個人課題作品のプレゼンテーション） コンテスト形式での課題作品のプレゼンテーション	
	11	グループワーク MARIE de TOITAの動画制作（1）（グループワーク） iMovie、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用したグループワーク	
	12	グループワーク MARIE de TOITAの動画制作（2）（グループワーク） iMovie、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用したグループワーク	
	13	グループワーク MARIE de TOITAの動画制作（3）（グループワーク） iMovie、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用したグループワーク	
	14	グループワーク プレゼンテーション（1）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるコンテスト形式での作品発表	
	15	グループワーク プレゼンテーション（2）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるコンテスト形式での作品発表	
到達目標・基準	◎E：Macintoshの基本的な操作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：VOGUE、Harper's BAZAAR、ELLE DECOなどのファッション誌およびインテリア誌のレイアウトを中心にデザインについての知識を深めておく（20分）。 事後学習：あらゆるメディアをビジュアルの視点から比較検討する（25分）。		
指導方法	Macintosh (MacBook Pro) を操作する演習が中心で、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、iMovieのソフトを使いながら、使用法や活用法を指導する。パワーポイント、映像を使つての講義や、課題制作を行う。後半部からは、チームで作品を制作するグループワークをとりいれプレゼンテーションを行う。		
成績評価の方法・基準	E：課題作品制作のオリジナリティとこだわりを評価する 課題作品 40%、チーム課題作品 40%、授業への貢献度 20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示。		
参考書	授業内で指示する		
履修上の注意	毎日、あらゆるメディアでデジタル関連の記事をチェックすること。		

アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループワーク</li><li>・ディスカッション</li><li>・プレゼンテーション</li></ul>
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
村上大			
Subject Code：F23C36			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	本講座ではビジネスの実務でデジタル制作のテクノロジーを活用するための技能やノウハウを学ぶ。専門的なソフトウェアや機材の使い方を実践的なトレーニングにより習得し、CGビジュアライゼーションやデジタル映像を制作する。また、SNSやYouTube、ECサイトにて発信するための実践的な制作の進め方や表現方法について学び、ビジネスにおいて強みにできる専門性を磨くことを目的とする。 (授業目標) ◎E：専門的なデジタルの制作技術を活用し、訴求力があるWeb、グラフィック、ビジネス書類等が作成できる。		
授業計画	1	デジタルツールを活用した最新の制作方法 PC基本操作の確認 (実習、Webclass：1-15回) 制作用のツール・パソコンの使い方、インターネットでの資料収集の方法/著作権について	
	2	ファッション・アート分野のCGビジュアライゼーション (1) Adobe Photoshop、Adobe Demension コンピューターグラフィックス技術を活用した衣服・アクセサリの制作	
	3	ファッション・アート分野のCGビジュアライゼーション (2) Adobe Photoshop、Adobe Demension VMD・商品ディスプレイの画像制作、CGのバリエーション制作	
	4	ファッション・アート分野のCGビジュアライゼーション (3) (プレゼンテーション：作品講評・発表) プレゼンテーション画像の制作、デザインの基礎知識 (配色・レイアウト・文字組) について	
	5	特殊効果を活かした動画編集・合成 (1) Adobe AfterEffects カット編集、タイトル・テロップ、モーショングラフィックの制作	
	6	特殊効果を活かした動画編集・合成 (2) Adobe AfterEffects 制作物の撮影、映像編集・合成 ナレーション・音声、音響効果の制作について	
	7	特殊効果を活かした動画編集・合成 (3) Adobe AfterEffects プレゼンテーション資料の作成 (配布資料・動画) プレゼンテーション準備	
	8	作品展示・プレゼンテーション (プレゼンテーション：作品発表・講評) CG、動画作品のプレゼンテーション・展示と評価	
	9	ビジネスプロモーションの企画・制作 (1) PowerPoint、Adobe Photoshop イベントプロモーションのためのWebページ制作、セミナーの企画 集客手法について	
	10	ビジネスプロモーションの企画・制作 (2) PowerPoint、Adobe Photoshop 企画プレゼンテーション・プロモーション素材撮影・制作	
	11	ビジネスプロモーションの企画・制作 (3) (プレゼンテーション：作品発表・講評) ファッションビジネスに関するセミナーの実施、評価	
	12	ファッションビジネスの販促ブログの制作 (1) Adobe Photoshop、WordPress 記事編集、写真・動画撮影、Webページの作り方について	
	13	ファッションビジネスの販促ブログの制作 (2) (プレゼンテーション：作品発表・講評) Webページの成果物のプレゼンテーション	
	14	ポートフォリオ制作 (1) 作品紹介の方法、Web・紙のポートフォリオ制作手法について	
	15	ポートフォリオ制作 (2) (講評) ビジネスで活用する、ポートフォリオ・スキルシートについて	
到達目標・基準	◎E：Web、グラフィック、ビジネス書類を制作し、成果物を発表・公開できる。 学修の成果をICT、デジタルの技能を駆使し作品として具体化できる。 「Adobe Photoshop」「PowerPoint」「Adobe AfterEffects」「Adobe Demension」「WordPress」を専門的な技術を用い使用できる。		
事前・事後学習	事前学習：個人制作の企画・作成や資料収集は授業までに課題として取り組み、授業内ではそれらをもとに制作する。(30分) 事後学習：授業で学修した知識や技能は次回の振り返りの演習で応用できるようトレーニングをする。(15分)		
指導方法	各課題の発表や成果物に対しては教員から学生の技能にあわせて個別の添削やトレーニング方法のアドバイスをを行い、継続的な成長を支援する。添削事例やQ&Aをオンラインで共有をすることで継続的、自主的な学習を促す。		
成績評価の方法・基準	E：課題提出物、授業態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物 70%、授業態度・貢献度 (作品発表・講評への貢献度を重視) 30%		
テキスト	オンライン教材及びプリントを配布する。		

参考書	Webサイト：伝わるデザイン <a href="http://tsutawarudesign.com/">http://tsutawarudesign.com/</a> 書籍：伝わるデザインの基本 増補改訂版 (2016/8/5) 著者：高橋 佑磨，片山 なつ 出版社：技術評論社
履修上の注意	情報リテラシーと各履修モデルの専門的なカリキュラム内容を積極的に学んでいることが望ましい。デジタル技術はあくまでも表現の手段として活用するので、専門的なPCの知識や、画力・デザイン経験は必要ない。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	Webclass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択必修
担当教員			
四元麻紀			
Subject Code：F15B37			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディング業界について広く学び、自己のキャリアデザインの参考にする。 ウエディングビジネスについて広く知識を得て、その価値を知る。具体的な業種の特徴、企業の種類など最新情報も取り入れ、また業界の第一線で働く業界人のゲストも迎え、ウエディング業界についての正しい理解をする。 (授業目標) ○C：実際の職業について生の声を聴き、自分の将来の職業選択の参考にできる。 ◎D：ウエディングビジネス業界について幅広い知識と、ホスピタリティについての考え方を理解する。
授業計画	<p>1 ウエディング業界に求められるホスピタリティ(ゲスト講師・エスプレシーボ・コム安東徳子) 接客業に必要なホスピタリティの理論と姿勢をウエディングの視点から学ぶ</p> <p>2 ウエディング業界とは？ プレウエディングビジネスからアフタービジネスまで業界のしくみを知る</p> <p>3 ウエディング・マーケット ウエディングビジネスが対象とする『結婚適齢層』について学ぶ</p> <p>4 ウエディングビジネスの歴史 第二次世界大戦後からを中心にその歴史を学ぶ</p> <p>5 ウエディングビジネスの種類 会場編 ハードを中心とした会場ビジネスについて深く知る</p> <p>6 現場から見るウエディング会場の現状(ゲスト講師・ディアーズブレイン 衣川雅代) ゲストハウスを事例にした、会場ビジネスの現状を学ぶ</p> <p>7 ウエディングビジネスの種類 衣裳編 ウエディング衣裳会社そのビジネスモデルについて深く知る</p> <p>8 現場から見る婚礼衣装業(ゲスト講師・榎丸三屋 頼金みゆき) 前回の講義で勉強した衣裳会社のビジネスを現場の視点でさらに深く理解する</p> <p>9 ウエディングビジネスの種類 集客業 ウエディングビジネスの要ともいえる集客ビジネスについて深く知る</p> <p>10 ウエディング業界のWEB集客の現状(ゲスト講師・みんなのウエディング 瀬尾圭太) WEB集客ビジネスを経営の視点から深く理解する</p> <p>11 ウエディングビジネスの種別 ジュエリー編 ウエディングジュエリービジネスについて深く知る</p> <p>12 ウエディングビジネスの種別 ヘアメイク編 花嫁ビューティの要、ヘアメイクサロンについて深く知る</p> <p>13 ウエディングビジネスの種別 その他の業種 フロリスト、写真、動画、音楽演出などのパートナー企業について深く知る</p> <p>14 ウエディングプランナーという仕事 ウエディングを代表する仕事であるウエディングプランナーについて深く知る</p> <p>15 ウエディングビジネスのキャリアデザイン 自分がウエディング業界に進む場合のキャリアデザインを行う</p>
到達目標・基準	○C：ウエディングの仕事と役割を理解し、業界人としての適性を説明できる。 ◎D：ウエディングビジネスの種別を説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。(90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。(90分)
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。
成績評価の方法・基準	○C：レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 ◎D：授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種別の提出物等の出来映えで評価する。 定期試験50% 授業への貢献度20% 質問シート10% お礼状10% リーディングシート10%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 プライダルのお仕事 (株)ウエディングジョブ



参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし。
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、河田淳鼓			
Subject Code：F25C38			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (授業目標) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。
授業計画	<p>1 ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ &lt;安東、河田&gt; ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢</p> <p>2 結婚式の意味と意義 &lt;河田&gt; 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ</p> <p>3 結婚式の歴史とハード &lt;河田&gt; 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ</p> <p>4 キリスト教式の結婚式 &lt;河田&gt; ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>5 神前式の結婚式 &lt;河田&gt; ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>6 人前式の結婚式 &lt;河田&gt; ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ</p> <p>7 人前式の企画手法 &lt;河田&gt; 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える</p> <p>8 コンセプト立案 グループワーク1&lt;安東、河田、ゲスト講師・貴志、赤星&gt;(グループワーク、実習)(スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る</p> <p>9 進行の決定 グループワーク2&lt;河田、ゲスト講師・貴志、赤星&gt;(グループワーク、実習)(スマートフォン：HPより拾い出し) コンセプトに基づいた進行をつくる</p> <p>10 進行の決定 グループワーク3&lt;河田、ゲスト講師・貴志講師、赤星講師&gt;(グループワーク、実習)(スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行をつくる</p> <p>11 進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク4&lt;河田、ゲスト講師・貴志、赤星&gt;(グループワーク、実習)(スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する</p> <p>12 進行の確認とリハーサル グループワーク5&lt;河田、ゲスト講師・貴志、赤星&gt;(グループワーク、実習)(スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 進行を再確認し、『場当たり』をする</p> <p>13 進行の確認とリハーサル グループワーク6&lt;河田、ゲスト講師・貴志、赤星&gt;(グループワーク、実習)(スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする</p> <p>14 進行の確認とリハーサル グループワーク7&lt;安東、河田、ゲスト講師・貴志、赤星&gt;(グループワーク、実習)(スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする</p> <p>15 模擬結婚式 オープンキャンパスにて実施予定&lt;安東、河田、ゲスト講師・貴志、赤星&gt;(グループワーク、実習、プレゼンテーション)(スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証) 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施</p>
到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイデアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った授業形式。 また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。

	第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。 フィードバックの方法：ワークシートを使用することで担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうかを確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。
成績評価の方法・基準	◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ◎E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点  A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度 E：模擬挙式の企画内容と担当業務の授業毎の振り返りシート 模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20%・模擬結婚式実施貢献度20%・振り返りシート20%ミニテスト20%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	
履修上の注意	・夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ・TOITA Fes2019において優秀チームの模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディングビジネス論」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
安東徳子、佐野みゆき			
Subject Code : F15C39			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。各学生グループが、ウエディングアクセサリーの企画・デザインを行うことを通じて、実際の商品としてできあがるまでを学習する。また、同時に各ドレスショップ企業の取組をドレスコーディネート視点から学習し、ウエディングビューティデザインのトレンドを探る。 (授業目標) 花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、フラワー、ジュエリーなど企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を身に付ける ◎E：マーケットに合致したコンセプトづくりから具体的なウエディングアクセサリーのデザイン企画提案ができる
授業計画	<p>1 ウエディングビューティに必要なホスピタリティ &lt;佐野&gt;(クリッカー・意識調査) ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢</p> <p>2 婚礼衣装の歴史 &lt;佐野&gt;(クリッカー：意識調査) 国内外の婚礼衣装の歴史に触れ、それぞれの衣装が持つストーリー、しきたりなどの知識を得る</p> <p>3 招待客の装い &lt;佐野&gt;(クリッカー：意識調査) ウエディングゲストの衣装の正しいマナー、知識を得る</p> <p>4 トータルウエディングビューティ &lt;安東、佐野&gt;(クリッカー：意識調査) 花嫁ビューティをトータルに提案する手法を学ぶ(ブライズカルテの活用)</p> <p>5 ウエディングドレスの種類と選び方 &lt;佐野&gt;(クリッカー：意識調査) ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法</p> <p>6 ウエディングのヘアメイクとネイル &lt;佐野&gt;(クリッカー：意識調査) ウエディング特有のヘアメイクの考え方とその手法と手法</p> <p>7 花嫁心理とカウンセリング &lt;佐野&gt;(クリッカー：意識調査) 花嫁心理を理解し、カウンセリングのプロセスとスタイルを学ぶ</p> <p>8 トータルウエディングビューティ実習 &lt;佐野&gt;(グループワーク) ケーススタディの条件にそってトータルウエディングビューティの提案実習(実習) WEBショップ掲載商品のマーケティング</p> <p>9 ウエディングドレスアワードの制度化 &lt;佐野&gt;(グループワーク)(クリッカー：意識調査) ウエディングドレスアワードの選考基準をつくる。WEBショップ掲載商品の企画</p> <p>10 アワードの学内選考準備 &lt;佐野&gt;(グループワーク)(クリッカー：意識調査) 選考基準にしたがって選別する。WEBショップ掲載商品の企画</p> <p>11 アワード最終選考 &lt;佐野&gt;(グループワーク、プレゼンテーション)(クリッカー：意識調査) 最優秀ドレスブランド・ショップを選考する</p> <p>12 アワード最終選考 &lt;佐野&gt;(グループワーク、プレゼンテーション)(クリッカー：意識調査) 最優秀ドレスブランド・ショップを選考し、対象企業へご案内する</p> <p>13 WEBショップ掲載商品の企画 &lt;安東、佐野&gt;(グループワーク)(クリッカー：意識調査) マーケティングの結果に従い掲載商品を企画する</p> <p>14 WEBショップ掲載商品の掲載写真とコピーの作成 &lt;佐野&gt;(グループワーク)(クリッカー・意識調査) セールスプロモーションとしての写真とコピーの作成を実習する</p> <p>15 アワードの発表とWEBショップ掲載商品のプレゼンテーション &lt;安東、佐野&gt; アワードの表彰式(受賞企業を来賓に迎える)(プレゼンテーション) WEBショップに載せる原稿や写真を授業内で発表する</p>
到達目標・基準	○D：洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティについて説明できる。 ◎E：ウエディングに相応しいビューティアクセサリーのデザインをすることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(90分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(90分)
指導方法	第1回から第6回まではパワーポイントを使った授業形式。クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第7回から第15回は実習形式。トータルビューティの提案のためのブライズカルテを使用する。

成績評価の方法・基準	D：新郎新婦の衣裳、およびウエディングコスチューム企業についての知識を持っているか？ E：ウエディング小物のデザインの精度とコンセプトとの整合性を評価する。 授業への貢献度30% プレゼンテーション30% 小物デザイン30% ミニテスト10%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングビジネス論」「ウエディングセレモニー」の履修が望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
Subject Code：F24C41			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランニングに必要な①傾聴、②立案、③提案を基本にした23段階の理論（23-Step）を学び、あらゆるカップルに対し、コンセプトualウエディングをプランニングする手法を学ぶ。 (授業目標)コンセプトメイクの手法を修得する。後半のケーススタディを通じて、ウエディングをはじめとするイベントプランニングの具体像を理解する。 ◎C：①傾聴、②立案、③提案の順序に沿ってコンセプトを導き出し、ウエディングのプランニングができる。 ○D：ウエディングのプランニングの23段階の理論（23-Step）を正しく説明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プランニングとは？（クリッカー：理解の確認） 演出の基本的概念と演出に使われる用語の意味を理解する。</li> <li>2. プランニングの23-stepメソッド（クリッカー：理解の確認） 演出のための23段階の理論（23-Step）にわたるメソッドのしくみを理解する。</li> <li>3. コンセプトメイク1（クリッカー・理解の確認） コンセプトの概念とコンセプトメイクの手法を学ぶ。</li> <li>4. コンセプトメイク2（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) 事例に沿ってコンセプトメイクについての理解を深める。</li> <li>5. ログラインとテーマ（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) ログラインとテーマの概念学び、事例分析をする。</li> <li>6. コンセプトストーリーメイク（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) コンセプトストーリーの概念を理解し、コンセプトメイクの全体像を把握する。</li> <li>7. アイテムへの落とし込み（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) コンセプトを各アイテムに落とし込む手法を学ぶ。</li> <li>8. プランニングに必要なアウトプットフォーマット（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) 演出の現場で使われるフォーマットの種類と使い方を学ぶ。</li> <li>9. レイアウト手法（クリッカー：理解の確認）(実習) レイアウトの基本とフォーマットへの落とし込み手法を学ぶ。</li> <li>10. スクリプトの書き方（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) アイテムの選定、レイアウトの確定に沿ったスクリプトの書き方を学ぶ。</li> <li>11. 音楽・照明・映像の演出手法（クリッカー：理解の確認） 音楽、照明、映像という時間軸演出の手法を演出機器の知識とともに学ぶ。</li> <li>12. ケーススタディ①（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。</li> <li>13. ケーススタディ①（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。</li> <li>14. ケーススタディ②（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習) ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。</li> <li>15. ケーススタディ②（クリッカー：理解の確認）(グループワーク、実習、プレゼンテーション) ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。</li> </ol>
到達目標・基準	◎C：提示されたコンセプトに沿ってプランニングをすることができる。 ○D：ウエディングのプランニングシート23段階の理論（23-Step）の概要が言える
事前・事後学習	事前学習：用語帳の復習のうえ、ヒアリングデータを読みこんでおく。（90分程度） 事後学習：演出の専門用語用語帳にまとめる。（90分程度）
指導方法	プランニングの基礎となる23段階の理論（23-Step）についての講義。 授業の進行とともに学生自身が作成する専門用語の用語帳を最大限活用し修得、その理解を深めるために後半ではケーススタディを導入する。
成績評価の方法・基準	C：示されたケーススタディに対して、ふさわしいコンセプトを選ぶことができるか評価する。 D：示されたケーススタディからプランニングシートに記入することができるか評価する。 授業への貢献度50% 定期試験50%
テキスト	ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会 究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』著者 安東徳子

参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングレセプション」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	クリッカー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
Subject Code： F24C43			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	授業内容 ウエディングにおいて営業や集客のためのプレゼンテーションや広報する技術は、大変重要である。企業のHP、SNS、ロコミ等メディアや情報ツールの比較検討やSWOT分析を通じて広報の重要性とテクニックを学ぶ。実務の専門家によるペーパーアイテム2回、写真2回、コラージュ2回、Webデザイン3回、映像2回、レイアウト2回の授業構成からウエディングに係るプレゼンテーションの理論と技術を修得する。 (授業目標) ○B：対象に合わせたプレゼンテーションを複数のビジュアル表現ツールを活用し、作成することができる ◎E：ビジュアル表現ツールを活用し、より伝わりやすいメディアデザインをすることができる
授業計画	<p>1 ウエディングとビジュアル・プレゼンテーション&lt;オリエンテーション&gt; ビジュアル・プレゼンテーションの必要性を理解し、活用事例で理解を深める</p> <p>2 webメディアデザイン① &lt;ゲスト講師：越智講師&gt;(クリッカー：理解の確認) 集客業務に必要なwebメディアの種類とクロスメディア手法</p> <p>3 webメディアデザイン② &lt;ゲスト講師：越智講師&gt;(クリッカー：理解の確認) HPメディアと具体的活用法</p> <p>4 webメディアデザイン③ &lt;ゲスト講師：越智講師&gt;(クリッカー：理解の確認) SNSメディアの具体的活用法</p> <p>5 写真① &lt;ゲスト講師：横山講師&gt;(クリッカー：理解の確認) 撮影の基本</p> <p>6 写真② &lt;ゲスト講師：横山講師&gt;(クリッカー：理解の確認)(実習) データの活用手法 (web, アルバム、ペーパーアイテム、パンフレット等)</p> <p>7 映像① &lt;ゲスト講師：奥野講師&gt;(グループワーク) 撮影の基本</p> <p>8 映像② &lt;ゲスト講師：奥野講師&gt;(グループワーク) データの活用手法 (web, 披露宴映像演出、PV等)</p> <p>9 コラージュの手法 &lt;ゲスト講師：高本講師&gt; コラージュで表現する世界観</p> <p>10 コラージュの活用 &lt;ゲスト講師：高本講師&gt;(グループワーク) 目的別コラージュの活用方法</p> <p>11 イメージデジタルデッサン① &lt;ゲスト講師：相川講師&gt;(クリッカー：理解の確認) 創り上げたヴィジュアルイメージを伝えるためのデジタルデッサンの手法 ロゴ、エンブレムなどの活用手法</p> <p>12 イメージデジタルデッサン② &lt;ゲスト講師：相川講師&gt;(クリッカー：理解の確認)(実習) デジタルデッサンのワークショップ</p> <p>13 ペーパーアイテム① &lt;ゲスト講師：西川講師&gt; エディングのペーパーアイテムの種類とトータリティ</p> <p>14 ペーパーアイテム② &lt;ゲスト講師：西川講師&gt;(クリッカー：理解の確認)(実習) オリジナルペーパーアイテムのデザイン</p> <p>15 まとめとデモンストレーション(クリッカー：理解の確認) 各メディアを活かしたトータルプレゼンテーションのデモを通じてヴィジュアルプレゼンテーションの全容を理解する</p>
到達目標・基準	○B：得意とする1種類のビジュアル表現ツールを使い、プレゼンテーション資料を作成することができる。 ◎E：各ビジュアル表現ツールの活用方法がわかり、使用方法も理解している
事前・事後学習	事前学習：第一回目のオリエンの内容を踏まえ、前回の実習ノートの確認をする。(30分) 事後学習：実習ノートのワークページを必ず完成させておく。(150分)
指導方法	毎回、高い専門性をもつゲスト講師を招き、知識と技術を合わせて学ぶ。 実習ノートを活用し、ビジュアルプレゼンテーションをトータルに理解できるようにする。 学習した内容を学内HPに反映させ、現実性のある学びの場とする。
成績評価の方法・基準	B：授業内のワークで課題に相応しい表現ができること E：ウエディングに相応しいビジュアル表現ツールを活用した資料の作成方法を理解しているか？ 定期試験50% 授業内のワークで作成した制作物30% 授業への貢献度20%
テキスト	ブライダルコーディネーターテキスト (スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会



参考書	
履修上の注意	ウェディングモデル希望者は、PPTの基本操作修得を履修条件とする
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
ICTの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
Subject Code : F24C44			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>これまで修得したウエディングの知識と技術を総動員し、模擬挙式、模擬披露宴を計画し、実施する。チームで行う事を通じて以下の授業目標を達成する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルの視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し、実施することができる。</p> <p>○E：ウエディングレセプションに必要なアイテムをコンセプトに基づいて制作し、台本を執筆することができる。</p>		
授業計画	1	セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする	
	2	パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ	
	3	ウエディングメニュー ウエディングメニューの概念、条件、および種類について学ぶ	
	4	ウエディングビバレッジ ウエディングビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ	
	5	レセプションの進行 レセプションの進行とスクリプト作成の復習	
	6	サービスコンセプトとオペレーション サービスコンセプトの考え方とオペレーションの種類について学ぶ	
	7	ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレイングを通じて体得する	
	8	23-STEPに基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニング論で学んだ23-STEPに基づきコンセプトメイクの実習をする	
	9	レセプション実習① (グループワーク、実習) (スマートフォン) カップルデータに基づき、コンセプトメイク	
	10	レセプション実習② (グループワーク、実習) (スマートフォン) テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み	
	11	レセプション実習③ (グループワーク、実習) (スマートフォン) ウエディングビューティプラン	
	12	レセプション実習④ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 会場レイアウトとテーブルコーディネート、ウエディングメニューの確定	
	13	レセプション実習⑤ (グループワーク、実習) (スマートフォン) 進行表とスクリプトの作成およびオペレーションプラン	
	14	レセプション実習⑥ (グループワーク、実習) (スマートフォン) オペレーションプランに基づいたシュミレーション	
	15	模擬披露宴 (グループワーク、実習) (スマートフォン) 模擬披露宴の準備、本番、片付け	
到達目標・基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任をもってやり遂げることができる。 ○E：ウエディングレセプションに必要な事項が説明できる		
事前・事後学習	事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。(30分) 事後学習：授業回ごとにワークシートを完成させる。(60分)		
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬披露宴にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。		
成績評価の方法・基準	A：主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E：コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 評価割合：模擬披露宴の完成度30%・模擬披露宴実施準備の貢献度30%・模擬披露宴の実施日の貢献度20%・実習ノートの提出20%		
テキスト	・ブライダルコーディネーターテキスト (スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21</li> <li>・世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター</li> </ul>
参考書	
履修上の注意	ウエディングセレモニー、ウエディングビューティデザイン、ウエディングプランニング、ウエディングビジュアルプレゼンテーションの履修を推奨する
アクティブ・ラーニング	グループワーク 実習
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
Subject Code : F22C12			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	浴衣の着方では、自分で着ることの練習を重ね段階に合わせ帯結びを学ぶ。着付けでは、二人一組になりお互いに着付け合うことで技術を修得する。半幅帯の創作は、グループでテーマを考え基礎を応用して作品を仕上げる。 (授業目標) ○D：浴衣に関する全般的知識を身に付ける。 ◎E：自分に合った帯を結び、浴衣を美しく正確に着ることができる。 ◎E：相手の体形、雰囲気にあった着付けができる。		
授業計画	1	きもの基礎知識 授業概要 きもの名称等を説明	
	2	浴衣の扱い 浴衣のアイロン掛け、小物の確認	
	3	浴衣の着方（1） 浴衣の着方の練習	
	4	浴衣の着方・半幅帯結び（2） 浴衣の着方と基本の帯結びの練習	
	5	浴衣の着方・半幅帯結び（3） 浴衣の着方と基本の帯結びの練習	
	6	浴衣の着方の確認 着方の実践と応用編帯結びの練習	
	7	レベルチェック 一人で浴衣を着て基本の帯結びまで、正確に着ることができているかを確認する	
	8	浴衣の着付け（1）（グループワーク：ペアで課題に取り組む） 二人一組で、浴衣を着付ける練習	
	9	浴衣の着付け・帯結び（2）（グループワーク：ペアで課題に取り組む） 二人一組で、浴衣の着付けと帯結びの練習	
	10	浴衣の着付け・帯結び（3）（グループワーク：ペアで課題に取り組む） 二人一組で、浴衣の着付けと帯結びの練習	
	11	浴衣の着付けの確認（グループワーク：ペアで課題に取り組む） 着付けの実践	
	12	レベルチェック（グループワーク：ペアでレベルチェックを受ける） 二人一組で着付けをし、正確な着付けができているかを確認する	
	13	半幅帯の創作（1）（グループワーク：グループで課題に取り組む） グループで帯結びを考える	
	14	半幅帯の創作（2）（グループワーク：グループで課題に取り組む） グループで帯結びを考え、浴衣姿、創作帯の写真を撮り、自身でも修得レベルを確認する	
	15	レベルチェック（グループワーク：グループごとに作品発表） グループごとに作品発表をする	
到達目標・基準	○D：浴衣各部の主な名称が説明できる。 ◎E：基本の帯を結び、浴衣を着ることができる。 ◎E：浴衣の着付けができる。		
事前・事後学習	事前学習：日頃からきものや浴衣に関心を持ち、雑誌等で多くの情報を得る。（30分程度） 事後学習：授業で学んだ技術を復習する。（40分程度）		
指導方法	マネキンを使用し手順の説明をする。一斉に演習に入るが、個々の技術レベルに合わせ指導していく。 レベルチェックの結果により、お昼休み等空き時間を利用し補習を行う。		
成績評価の方法・基準	D:レポート内容で評価する。 E:レベルチェック、グループ作品発表において評価をする。 レベルチェック40% グループ作品発表10% レポート30% 授業への貢献度20%		
テキスト	なし プリント配布		
参考書	授業内で紹介する。		
履修上の注意	受講するにあたり、以下の物を各自で用意すること。（貸出なし） ・自分に合ったサイズの浴衣。		

	・半幅帯 ・伊達ズ 1 本 ・ふるしき約90cm (浴衣・小物を包む) レポートは、期限内に提出すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択必修
担当教員			
平光くり子			
Subject Code : F16B44			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容業界は、化粧品のようにセルフケアをするための「美容製品業」や、体の内外から美を導くためのサービスを提供する「美容サービス業」など幅広く、各業態の競争は年々激化している。本講義は、ビューティ業界を分野別（美容部員、メイクアップアーティスト、美容師、エステティシャン、ネイリスト等）に分け、各業界の流れと専門知識、企業戦略の手法を解説する。 (授業目標) ◎D：美容業界における業種別キャリアを考察する。		
授業計画	1	ビューティビジネスとは 授業概要および化粧品企業業界地図	
	2	業界研究（1）（ゲスト講師） 美容の目的とビューティ業界の様々な職種、美と女性の一生、美容の資格	
	3	業界研究（2）（ゲスト講師） 美容業界の市場規模、売上規模とシェア、グループ会社と日本企業の最新情報	
	4	企業研究（1）（ゲスト講師） ビジネスモデル、業種と職種、化粧品会社のリテール部門の構造、化粧品の流通と企業分類	
	5	企業研究（2）（ゲスト講師） ビューティビジネスの実態とアパレル業界との違い、専門知識とリサーチ方法、薬事法の知識	
	6	美容ビジネスの歴史（ゲスト講師） 古代～中世～近代の美容の歴史およびビジネスの歴史	
	7	ラグジュアリーブランドと美容商品の関係 歴史とトレンドについて	
	8	美容のトレンドと近代史（1）（ゲスト講師） 美容トレンドの歴史、商品開発の近代史（前編）	
	9	美容のトレンドと近代史（2）（ゲスト講師） 美容トレンドの歴史、商品開発の近代史（後編）	
	10	職種研究（1）（ゲスト講師） 美容部員、メイクアップアーティスト、美容師（職務義務、メリットデメリット、資格、キャリアプラン）	
	11	職種研究（2）（ゲスト講師） エステティシャン、ネイリスト、その他（職務義務、メリットデメリット、資格、キャリアプラン）	
	12	ブランド研究（1）（ゲスト講師） ブランド分析の方法とブランディングの考察、ペルソナ研究	
	13	ブランド研究（2）（ゲスト講師） マーケティングの考察、就職のための業界リサーチ方法と事前準備	
	14	ブランド研究（3）（ゲスト講師） ブランドリサーチ、美容業界の就職活動について	
	15	美容業界で働くためには（ゲスト講師） 美容業界で求められる人材とは、キャリアプランと転職の実情	
到達目標・基準	◎D：自分の興味がある美容業種について説明ができる。		
事前・事後学習	事前学習：美容雑誌、ファッション誌を読み、最新のビューティートレンドの知識を深めておくこと（90分）。 事後学習：授業で学んだ知識を店舗や商品、インターネットや雑誌等で復習しておくこと（90分）。		
指導方法	テーマに沿ってパワーポイント、映像を使用し、講義形式で行う。 授業内容によってゲスト講師を招き、美容業界を学ぶ。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業への貢献度 20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布		
参考書	なし		
履修上の注意	ビューティーモデルを履修する学生は受講すること。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code : F16C45			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	人はなぜその人らしい装いをするのだろうか。自分を適確に表現しようとするとき、人は言語だけではなく外観を重視する。また逆に、初対面の相手がどのような人かを私たちは外観を手がかりにすることが多い。装うことは自己表現や対人行動を促し、個人の自信やアイデンティティの形成といった心身の健康に大きく貢献している。装うという着装行動の要因について服装心理学的側面から改めて考える。また、自分らしい装いには欠かせないパーソナルカラーコーディネートの基本知識を、色の3属性に基づいてきちんと身につける。 (授業目標) ◎C：自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な幅広い知識を身につける。 ○D：人はなぜ装うのかという着装行動の要因を個人的、対人的、集团的、社会的・文化的側面で理解する。		
授業計画	1	着装行動の要因 着装行動の要因 マズローの欲求5段階理論 衣服の感覚的特性 衣服と感情	
	2	自己概念と装い ライフステージと衣服 自己概念・アイデンティティと装い 身体イメージと装い 現実的自己と理想的自己	
	3	体型によるコーディネート プロポーション測定 体型・顔型の見分け方 体型補正のコーディネート	
	4	情報伝達と装い 装いと非言語コミュニケーション 装いの情報伝達機能	
	5	社会的役割・社会的規範と装い TPOをふまえたコーディネート フォーマルウェアの基礎知識 社会的規範と装い 制服、ユニフォーム	
	6	流行と装い 流行普及のプロセス ファッショントレンドのしくみ 流行採用の動機 流行の文化的・社会的要因	
	7	化粧・装いと心身の健康 化粧の心理的効用 化粧行動と意識 装いが心身に及ぼす影響 ファッションセラピー、メイクセラピー	
	8	カラーによるトータルコーディネート 色の4属性による配色 主な配色技法による配色 TPOをふまえた配色 パーソナルカラー配色	
	9	パーソナルカラーコーディネートの基本 (1) パーソナルカラー診断 パーソナルアイデンティティ イエローベースとブルーベース	
	10	パーソナルカラーコーディネートの基本 (2) 4タイプの3属性の特徴 カラーイメージワード分類 4タイプ別慣用色名	
	11	パーソナルカラーコーディネートの基本 (3) (ICT:WebClassによる小テスト) 身体(肌・髪・眼)の色素の見分け方 パーソナルアイデンティティとは チャームポイントとコンプレックス	
	12	パーソナルカラーコーディネートの基本 (4) 似合う色・似合わない色の見分け方 カラーペーパーによる診断 4タイプ別・3属性別の診断方法	
	13	パーソナルカラーコーディネートの基本 (5) (ICT:WebClassによる小テスト) 似合う色の取り入れ方	



	<p>14 4タイプ別カラーコーディネート パーソナルカラーコーディネートの基本(6) 似合う柄・質感の取り入れ方 4タイプ別コーディネート</p> <p>15 自分のなりたいイメージと似合う色(ICT:WebClassによる小テスト) なりたいイメージと似合う色のズレの原因 パーソナルアイデンティティ形成と自分らしいコーディネート</p>
到達目標・基準	◎C:自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な基本的知識を身につける。 ○D:人はなぜ装うのかという着装行動の主要因を理解できる。
事前・事後学習	事前学習:次回の講義内容を確認し、テキストの相当部分を項目ごとにまとめる(20分)。 事後学習:小テストに向けて、項目ごとに問題集に取り組む(25分)。
指導方法	テキスト、パワーポイントを使用し、視覚的にわかりやすく順序だてて論理的に学べるように指導する。 「色彩活用パーソナルカラー検定3級」受験に対応し、トータルコーディネートに必要な知識と技術を確実に養うことで、自信につながるよう指導する。 WebClassによる小テストを行う。
成績評価の方法・基準	C:小テスト・定期試験を評価する。 D:小テスト・定期試験を評価する。 定期試験50%、小テスト30%、授業態度・貢献度20%、
テキスト	「装いの心理と行動」編著:小林茂雄・藤田雅夫、著:内田直子ほか(アイ・ケイコーポレーション) 「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版(産経新聞出版) 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」(一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会) 「新配色カード199a」(日本色研事業株式会社)
参考書	「被服行動の社会心理学」神山進編集(北大路書房)
履修上の注意	「トータルコーディネート演習」は、本科目が履修済みであることが条件である。 日頃から、人はなぜその人らしい装いをするのかについて自ら深く考え、人の個性の多様性、ファッション商品・技術の多様性に興味を持ち情報収集をしておく。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICTの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code : F22C20			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	人はなぜその人らしい装いをするのだろうか。自分を適確に表現しようとするとき、人は言語だけではなく外観を重視する。また逆に、初対面の相手がどのような人かを私たちは外観を手がかりにすることが多い。装うことは自己表現や対人行動を促し、個人の自信やアイデンティティの形成といった心身の健康に大きく貢献している。装うという着装行動の要因について服装心理学的側面から改めて考える。また、自分らしい装いには欠かせないパーソナルカラーコーディネートの基本知識を、色の3属性に基づいてきちんと身につける。 (授業目標) ◎C：自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な幅広い知識を身につける。 ○D：人はなぜ装うのかという着装行動の要因を個人的、対人的、集团的、社会的・文化的側面で理解する。
授業計画	1 カラーによるトータルコーディネート 色の4属性による配色 主な配色技法による配色 TPOをふまえた配色 パーソナルカラー配色 2 パーソナルカラーコーディネートの基本(1) パーソナルカラー診断 パーソナルアイデンティティ イエローベースとブルーベース 3 パーソナルカラーコーディネートの基本(2) 4タイプの3属性の特徴 カラーイメージワード分類 4タイプ別慣用色名 4 パーソナルカラーコーディネートの基本(3) (ICT:WebClassによる小テスト) 身体(肌・髪・眼)の色素の見分け方 パーソナルアイデンティティとは チャームポイントとコンプレックス 5 パーソナルカラーコーディネートの基本(4) 似合う色・似合わない色の見分け方 カラーペーパーによる診断 4タイプ別・3属性別の診断方法 6 パーソナルカラーコーディネートの基本(5) (ICT:WebClassによる小テスト) 似合う色の取り入れ方 4タイプ別カラーコーディネート 7 パーソナルカラーコーディネートの基本(6) 似合う柄・質感の取り入れ方 4タイプ別コーディネート 8 自分のなりたいイメージと似合う色 (ICT:WebClassによる小テスト) なりたいイメージと似合う色のズレの原因 パーソナルアイデンティティ形成と自分らしいコーディネート 9 着装行動の要因 着装行動の要因 マスローの欲求5段階理論 衣服の感覚的特性 衣服と感情 10 自己概念と装い ライフステージと衣服 自己概念・アイデンティティと装い 身体イメージと装い 現実的自己と理想的自己 11 体型によるコーディネート プロポーション測定 体型・顔型の見分け方 体型補正のコーディネート 12 情報伝達と装い 装いと非言語コミュニケーション 装いの情報伝達機能 13 社会的役割・社会的規範と装い TPOをふまえたコーディネート フォーマルウェアの基礎知識 社会的規範と装い 制服、ユニフォーム 14 流行と装い 流行普及のプロセス ファッショントレンドのしくみ

	15 流行採用の動機 流行の文化的・社会的要因 化粧・装いと心身の健康 化粧の心理的効用 化粧行動と意識 装いが心身に及ぼす影響 ファッションセラピー、メイクセラピー
到達目標・基準	◎C：自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な基本的知識を身につける。 ○D：人はなぜ装うのかという着装行動の主な要因を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの相当部分を項目ごとにまとめる（20分）。 事後学習：小テストに向けて、項目ごとに問題集に取り組む（25分）。
指導方法	テキスト、パワーポイントを使用し、視覚的にわかりやすく順序だてて論理的に学べるように指導する。 「色彩活用パーソナルカラー検定3級」受験に対応し、トータルコーディネートに必要な知識と技術を確実に養うことで、自信につながるよう指導する。 WebClassによる小テストを行う。
成績評価の方法・基準	C：小テスト・定期試験を評価する。 D：小テスト・定期試験を評価する。 定期試験50%、小テスト30%、授業態度・貢献度20%、
テキスト	「装いの心理と行動」編著：小林茂雄・藤田雅夫、著：内田直子ほか（アイ・ケイコーポレーション） 「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版） 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）
参考書	「被服行動の社会心理学」神山進編集（北大路書房）
履修上の注意	「トータルコーディネート演習」は、本講義の履修者が受講できる。 日頃から、人はなぜその人らしい装いをするのかについて自ら深く考え、人の個性の多様性、ファッション商品・技術の多様性に興味を持ち情報収集をしておく。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code：F22C21			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	「トータルコーディネート論」と並行してコーディネートの理論と実践を結びつける授業である。人の個性と服飾の個性について、色・形・素材・イメージの視点からトータルバランスのとり方を探る。特に自分らしいトータルコーディネートに必要なパーソナルカラーの基礎を理解し、色彩活用パーソナルカラー検定に対応できるように授業を進める。その後パーソナルカラーを生かしたビーズブレスレットを制作し、装いによる自己表現を体験する。 (授業目標) ファッションが自分らしさの自己表現として機能することをワークを通してまなび、目的に合ったトータルコーディネート提案ができるようになる。 ◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行う時、接客力にも繋げてグループワークで診断ができる。 ◎E：パーソナルカラーを生かしたブレスレットを制作し、プレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 トータルコーディネートの条件と要素 コーディネート説明による自己紹介 色・形・素材・イメージの視点</p> <p>2 パーソナルカラーコーディネート（1）（演習：各自、配色カードでカラーマップ作成） 4タイプの3属性の特徴 カラーマップ作成</p> <p>3 パーソナルカラーコーディネート（2）（演習：各自、配色カードでカラーマップ作成） カラーイメージワード分類 4タイプ別慣用色名 カラーマップ作成</p> <p>4 パーソナルカラーコーディネート（3）（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 身体（肌・髪・眼）の色素の見分け方 チャームポイントとコンプレックス</p> <p>5 パーソナルカラーコーディネート（4）（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 似合う色・似合わない色の見分け方 カラーペーパーによる4タイプ別・3属性別の診断</p> <p>6 パーソナルカラーコーディネート（5）（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 似合う色・似合わない色の見分け方 ドレープによる4タイプ別の診断</p> <p>7 パーソナルカラーコーディネート（6）（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 似合う色・似合わない色の見分け方 ドレープによる3属性別の診断</p> <p>8 パーソナルカラーコーディネート（7）（演習：各自、ビジュアルカラージュ作成） 似合う色・柄・質感の取り入れ方 4タイプ別ビジュアルカラージュ作成</p> <p>9 パーソナルカラーコーディネート（8）（演習：各自、ビジュアルカラージュ作成） 似合う色・柄・質感の取り入れ方 4タイプ別ビジュアルカラージュ作成 小テスト</p> <p>10 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（1）（実習） 色の心理効果 基本ブレスレット制作①</p> <p>11 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（2）（実習） カラーストーン選び 基本ブレスレット制作② 配色説明パワーポイント課題</p> <p>12 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（3）（実習） カラーストーン選び 応用ブレスレット制作①</p> <p>13 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（4）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） カラーストーン選び 応用ブレスレット制作② 配色説明パワーポイント課題</p> <p>14 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（5）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） パーソナルイメージカラージュ作成 配色説明パワーポイント課題 ブレスレット提出</p> <p>15 パーソナルカラーを生かしたパワーストーンブレスレット制作（6）（プレゼンテーション） WebClassに各自が提出したパワーポイントのプレゼンテーションを行う パーソナルカラーを生かしたトータルコーディネートの振り返り</p>
到達目標・基準	◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行うことができる。 ◎E：色の特徴を生かしたビーズブレスレットを制作することができる。

事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの予習、課題の準備を行う（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。
指導方法	トータルコーディネートに必要な技術の一つとして、パーソナルカラー診断を理解し使いこなせるように指導する。 パーソナルカラーの考え方を生かしたファッションコーディネート、ビジュアルコラージュ作成やビーズブレスレット制作の実習を行い指導する。「色彩活用パーソナルカラー検定3級」受験に対応し、色の実践方法を具体的に学べるよう指導する。 パワーポイントを使用する。 WebClassで課題を配信し、提出を求める。
成績評価の方法・基準	A：グループワークでの主体性・責任感を評価する。 E：作品制作の完成度を評価する。 作品50%、小テスト30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版） 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）
参考書	
履修上の注意	「トータルコーディネート論」を同時に履修していることがこの科目を受講する条件である。
アクティブ・ラーニング	実習 グループワーク プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
本田 真理			
Subject Code : F16C47			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>スキンケア、メイクアップ、顔分析、色彩、皮膚、化粧品の知識を修得し、日常に取り入れるようにする。前半はメイクアップの各工程についての理解を深め、後半はメイクアップを総合的に捉えてメイクアップをデザインできるようにする。</p> <p>また、「JMAメイクアップアドバイザー検定試験（美容知識検定試験）」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設ける。</p> <p>（授業目標） ◎D：それぞれの人に合ったメイクアップの必要性を理解し、提案できる。</p>		
授業計画	1	皮膚の基礎知識 骨格・筋肉・脂肪・皮膚の顔のなりたち 肌トラブルのメイクアップ対応法 スキンタイプ チェック方法	
	2	スキンケア スキンケアの目的とスキンケア化粧品の種類と特徴	
	3	ベースメイク（1） ファンデーションの目的とベースメイク化粧品の種類と特徴	
	4	ベースメイク（2） 肌色分析とコントロールカラー・コンシーラーの種類と特徴	
	5	チーク・ハイライト・ローライト 顔型分析とチーク・ハイライト・ローライト化粧品の種類と特徴	
	6	アイブロー 眉のバランス分析とアイブロー化粧品の種類と特徴	
	7	アイシャドウ・アイライン・マスカラ 目のバランス分析とアイメイク化粧品の種類と特徴	
	8	リップ 唇のバランス分析と口紅の種類と特徴	
	9	錯覚とメイクアップ、皮膚の専門知識 線と形の錯覚と紫外線知識	
	10	色彩とメイクアップ 色彩の基礎知識とカラーバランス・カラーデザイン	
	11	メイクアップの歴史とトレンド トレンドの作られ方と取り入れ方	
	12	オフィスメイク 好感が持たれるゴールデンバランスメイク	
	13	イメージメイク 4つのイメージ分類とイメージポイント	
	14	パーソナルカラーメイク パーソナルカラーの基礎知識とメイクアップへの応用方法	
	15	メイクアップ分類 メイクアップデザイン分類と化粧品会社分類	
到達目標・基準	◎D：メイクアップのそれぞれの工程を理解し、人に伝えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。（90分） 事後学習：授業内で学んだことを復習しておく。（90分）		
指導方法	テキストやパワーポイントを使用して、講義形式で行う。 定期的に小テストを実施する。 メイクアップ理論の課題を提出する。		
成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%		
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト3・2級 一般社団法人JMA		
参考書			
履修上の注意	メイクアップの理論を実践的に習得するために、自主的に自分の顔で実習する。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 「メイクアップ演習1」は本講義の履修者に限り受講できる。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
本田 真理			
Subject Code : F16C48			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。客観的な視点から顔を分析し、メイクアップを日常に取り入れるようにする。前半はメイクアップのそれぞれの基本的な方法を習得し、自分の顔でビジネスメイクが表現できるようにする。後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、自分の顔でそれぞれのイメージメイクが表現できるようにする。また、「セルフメイク検定 (JMA)」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 ◎E：イメージと現状とのギャップを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。		
授業計画	1	化粧の心理効果と顔分析 (実習：1～15回) 自己実現のためのメイクとそれに必要な客観的理解のための分析ワーク	
	2	スキンケア理論とテクニック 皮膚の基礎知識からわかるスキントypesと肌トラブル 正しいスキンケアの方法を実習する	
	3	ベースメイク理論とテクニック 肌色知識とメイクによる肌トラブル対応知識 コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・パウダーを実習する	
	4	チーク・ハイライト・ローライトの効果と顔分析・修整テクニック実習 骨格の把握と立体の理解 顔分析に応じたチーク・ハイライト・ローライトを実習する	
	5	アイブロウの錯覚効果とテクニック 基本バランスと毛流の理解 ペンシルとパウダーで自然なアイブロウを実習する	
	6	アイメイクの演出効果とテクニック 目元の立体と色・形の効果の理解 基本のアイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラを実習する	
	7	リップの血色効果とテクニック 基本バランスとバリエーションによる修整の理解 パーツ分析に応じたリップを実習する	
	8	バランスメイクトータルテクニック 顔分析に応じた修整をトータルメイクで表現 好印象を持たれるビジネスメイクを実習する	
	9	イメージメイク理論と強弱理論 色・形・質感によるイメージ表現と強弱によるポイントメイクの比重を理解 イメージメイク・ワード分類ワーク	
	10	キュートメイク理論とテクニック 色彩によるイメージの理解 キュートメイクを実習する	
	11	フレッシュメイク理論とテクニック 質感によるイメージの理解 フレッシュメイクを実習する	
	12	エレガントメイク理論とテクニック 形によるイメージの理解 エレガントメイクを実習する	
	13	クールメイク理論とテクニック 立体によるイメージの理解 クールメイクを実習する	
	14	マイベストメイクの選定 目的と現状と修正から考えるマイベストメイクをデザイン デザイン画ワーク	
	15	マイベストメイクトータルテクニック デザインしたメイクを実習する	
到達目標・基準	◎E：メイクアップのそれぞれの目的を理解したうえで、イメージと現状とのギャップを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。(30分) 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。(60分)		
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に自分の顔にメイクアップ実習を行う。 定期的な技術小テストを実施する。 メイクアップデザインの課題を提出する。		



成績評価の方法・基準	E:トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	JMAセルフメイク検定公式テキスト 一般社団法人JMA
参考書	
履修上の注意	実習は自分の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
本田 真理			
Subject Code : F16C49			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半はスキンケアテクニックとベースメイクテクニックの手順をマスターすることを重点的に行う。後半はタッチアップをするためのポイントメイクとポイントメイクオフを行う。 また、「日本メイクアップ技術検定3級（JMA）」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。
授業計画	<p>1     メイクアップの事前準備（実習：1～15回） 技術者としての身だしなみとメイクアップツールの衛生管理</p> <p>2     ポイントメイククレンジングテクニック 目・唇の皮膚構造を踏まえたアイメイク・リップメイククレンジング</p> <p>3     クレンジング・化粧水・乳液テクニック 骨格・筋肉を意識したベースクレンジング・化粧水塗布・乳液塗布</p> <p>4     ベースメイクテクニック（1） 肌色知識とファンデーション・パウダーのフィンガー・スポンジ・パフ・ブラシワーク</p> <p>5     ベースメイクテクニック（2） 肌色調整理論とコントロールカラー・肌トラブル理論とコンシーラー</p> <p>6     チーク・ハイライト・ローライトテクニック 顔分析・修整理論に基づいたチーク・ハイライト・ローライト</p> <p>7     アイブロウテクニック 美人バランスとペンシル・パウダーテクニック アイブロウオフテクニック</p> <p>8     アイシャドウテクニック アイバランスと3色グラデーション アイメイクオフテクニック</p> <p>9     アイライン・マスカラテクニック ペンシル・リキッドライナーとビューラー・マスカラ マスカラオフテクニック</p> <p>10     リップテクニック リップバランスとラインバリエーション リップオフテクニック</p> <p>11     肌分析とスキンケアテクニック 15分でモデルの肌状態を把握するポイントクレンジング・ベースクレンジング・化粧水・乳液</p> <p>12     顔分析と修整ベースメイクテクニック 15分でモデルの顔分析に応じた修整ベースメイク コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダー・チーク・ハイライト・ローライト</p> <p>13     顔分析と修整ポイントメイクテクニック 20分でモデルの顔分析に応じた修整ポイントメイク アイブロウ・アイシャドウ・アイライン・マスカラ・リップ</p> <p>14     トータルメイクアップ（1） 60分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク</p> <p>15     トータルメイクアップ（2） 60分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク</p>
到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。
事前・事後学習	事前学習：技術を自己研鑽する。（30分） 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3人に実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。（60分）
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 定期的に技術小テストを実施する。 メイクアップ技術理論の課題を提出する。
成績評価の方法・基準	E：トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト3・2級 一般社団法人JMA

参考書	
履修上の注意	<p>「メイクアップ演習基礎」および「メイクアップ論」を履修済であることが必須となる。実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。実習費を徴収する。</p>
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
持田美千代			
Subject Code : F25C48			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	印象分析の理論を学び、イメージに合わせたメイクアップを実習する。4つのイメージの作り方を修得後は、イメージに合わせてメイクを変化させるテクニックを半顔メイクで実習する。 (授業目標) ◎C：TPOに合わせた、カウンセリング及びヘアメイクを修得し、プロフェッショナル意識の基となる主体性と責任感を身につける。 ○E：イメージとシチュエーションに合わせたヘアメイクの制作が出来るようになる。
授業計画	<p>1 顔のパーツ分析とナチュラルメイク実習（ペアワーク：1～14回） 顔のパーツがイメージに与える要因を分析し、イメージを学ぶと共に、モデルの顔の特徴を分析し、特徴を生かしたナチュラルメイクを相モデルで実習する。</p> <p>2 印象分析とイメージメイクテクニック実習（1） ソフトとハード、ウォームとクールで構成される4つのメイクイメージを理解し、各イメージに合わせるメイクができるようにする。ウォームソフトの「可愛い」イメージのメイクを相モデルで実習する。</p> <p>3 印象分析とイメージメイクテクニック実習（2） 4分類のイメージの一つであるクールソフトの印象を理解し、「さわやか」なイメージのメイクを相モデルで実習する。</p> <p>4 印象分析とイメージメイクテクニック実習（3） 4分類のイメージの一つである、ウォームハードの印象である、「華やかで女らしい」メイクの特徴を理解し、相モデルで実習する。</p> <p>5 印象分析とイメージメイクテクニック実習（4） 4分類のイメージの一つであるクールハードの印象を理解し、「大人っぽくマニッシュ」なイメージのメイクを相モデルで実習する。</p> <p>6 イメージを変化させるメイクテクニック実習（ソフトからハードへ） 4つのイメージを理解し、印象を変化させるテクニックを身に付けるため、ウォームソフトに仕上げた顔の半顔をウォームハードに変化させる実習を相モデルで行う。</p> <p>7 イメージを変化させるメイクテクニック実習（ウォームからクールへ） 4つのイメージを理解し、印象を変化させるテクニックの方法として、ウォームハードで仕上げた顔の半顔を、クールハードに変化させる実習を相モデルで行う。</p> <p>8 トータルメイクアップ実習（ヘアを含んだイメージメイク実習） ヘアを含めトータルでイメージを作るメイクの実習を相モデル行うことにより、トータルメイクの実践力を身につける。</p> <p>9 課題作成（個性を生かしたイメージメイク） 相手の個性や特徴・印象を分析し、メイクアッププランシートにメイクプランを設計し、それに基づき特徴を生かしたイメージメイクができるよう相モデルで実習する。</p> <p>10 ブライダルメイクの理論と実習 ブライダルメイク理論とテクニックを理解し、相手のイメージや好みに合わせてヘア・メイク・衣装も含めたトータルなブライダルメイクを相モデルで実習する。</p> <p>11 TPOメイクの理論と実習（パーティメイク・和装メイク） メイクの幅を広げるため、昼と夜の違いを意識したパーティメイク・和装メイクの理論とテクニックを理解し、TPOに合わせたメイクが実践できるよう相モデルで実習する。</p> <p>12 メイクアドバイスと接客マナー実習（メイクセラピー検定2級対策） モデルの印象を分析し、相手のなりたいイメージを聞きだし、メイクアッププランシートにメイクプランを記入し、それに合わせたメイク実習を接客の演習を含め相モデルで行う。メイクセラピー検定2級を想定したマナー実習も行う。</p> <p>13 トレンドメイク実習（雑誌からのスチールメイク実習） ファッション雑誌からトレンドメイクを選び、その内容をメイクアッププランシートに起こし、それをモデルの顔にメイクする実習を相モデルで行う。</p> <p>14 課題作成（イメージとシチュエーションに合わせたヘアメイク実習） モデルに合わせたイメージとシチュエーションを設定し、それに合わせてヘア・メイク・ファッションをトータルで作りに上げる実習を相モデルで行う。スマートフォンによる撮影。</p> <p>15 印象分析（プレゼンテーション） モデルに合わせたイメージとシチュエーションを各自設定し、それに合わせたトータルメイクを相モデルで行い、プレゼンテーションする。スマートフォンによる撮影。</p>
到達目標・基準	◎C：4つのイメージ作り合わせたカウンセリング力やメイクアップが出来る。 ○E：TPOやトレンドを意識して、それぞれの印象に合わせたヘアメイクアップが出来る。
事前・事後学習	事前学習：ファッション雑誌、女性誌などでトレンドメイクに目を通すようにする。（45分） 事後学習：授業内で実習したメイクを次回の授業までに最低3人に実践し確実に技術が身に付けるようにする。（45分） 自分自身のスキンケアをテキストにて習得した技術を確認する。（30分）

指導方法	可能な限り多くの顔に触れる事が大切なので、毎回モデルを変え、時間内にメイクアップが終了するような実践力を身に付けるようにする。メイクアップ技術に加え、接客力やメイクカウンセリング、メイクアドバイスを同時に行うことにより、接客スキルも身に付ける。授業の中だけではなく、日常の中でメイクセンスを磨くことが大切なので、自己修練できるよう指導する。 小実技テスト、レポート作成等を実施する。
成績評価の方法・基準	C：相モデルでの演習小テストを評価する。 E：レポート、実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20% 演習授業の為、実技テストを実施する。 「実技試験内容」相モデルにて洋装ブライダル花嫁のヘアメイク作成。
テキスト	日本メイクアップテキスト3級・2級 (一般社団法人JMA日本メイクアップ技術検定協会)
参考書	
履修上の注意	1) 「メイクアップ演習1」を履修済であることが必須 2) 実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提で、スキンケア・メイク品等準備してくること。 3) 顔全体が写る大きめの鏡と、実習で使うメイク品は、自己使用のものでよいので毎回テーマに合わせて持参すること。 4) 実習は毎回相モデルで行うので、欠席は相手の迷惑になるので欠席しない事。 5) 実習は相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 6) メイクアップに関連する雑誌等を持参する。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション
ICTの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
唐沢真弓			
Subject Code : F16C52			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。爪の名称や用具用材の特徴を知り、シンプルなデザインから繊細なアートまでを学ぶ。自分の爪を使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。ネイルデザインはネイルチップを使い、ジェルカラーの選び方、デザイン・色彩・パーツのバランスなどの実習を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を学び、理解する。          ◎E：課題に応じたネイルアートを作成し、いろいろな技法を修得する。          グループ制作・個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上にオリジナルのデザインを表現する。</p>		
授業計画	1	<p>ネイルアート演習 1 について (実習：1～11回、14, 15回)</p> <p>授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明</p> <p>ジェルネイルデモストレーション</p> <p>ハンドマッサージ実習</p>	
	2	<p>爪の構造・爪の形について</p> <p>ファイリング実習</p>	
	3	<p>ネイル概論</p> <p>プレパレーション (ジェルをのせるために下準備/ドライケア)</p> <p>単色カラーリング</p> <p>ジェルオフ実習</p>	
	4	<p>ネイル実習</p> <p>教材配布・教材説明</p>	
	5	<p>基礎デザイン (1)</p> <p>単色</p> <p>カラーグラデーション</p> <p>3段ラメ</p>	
	6	<p>基礎デザイン (2)</p> <p>カラーグラデーション</p> <p>縦グラデーション</p> <p>シェルネイル</p>	
	7	<p>基礎デザイン (3)</p> <p>ナナメフレンチ</p> <p>ハーフフレンチ</p> <p>タイダイ柄</p> <p>ドロップネイル</p>	
	8	<p>応用デザイン (1)</p> <p>フレンチネイル</p> <p>逆フレンチ</p> <p>ツイード柄</p> <p>レオパード柄</p>	
	9	<p>応用デザイン (2)</p> <p>大理石ネイル</p> <p>ビーコック</p>	
	10	<p>応用デザイン (3)</p> <p>イラストネイル</p>	
	11	<p>作品制作</p> <p>チェック柄ネイル</p> <p>ニットネイル</p>	
	12	<p>グループ制作 (1) (グループワーク)</p> <p>テーマ：「イベントネイル」5本セット 3種類</p> <p>※12・13回で作成。</p>	
	13	<p>グループ制作 (2) (グループワーク)</p> <p>テーマ：「イベントネイル」5本セット 3種類</p> <p>※14回目に提出。</p>	
	14	<p>個人制作 (1)</p> <p>テーマ：「ブライダルネイル」10本セット</p> <p>※14・15回で作成。</p>	
	15	<p>個人制作 (2)</p> <p>テーマ：「ブライダルネイル」10本セット</p> <p>※最終授業後、提出。</p>	
到達目標・基準	<p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を身に付け、デザインの名前、用具の名前を説明できる。</p> <p>◎E：課題に応じたネイルアートを作成できる。個人制作では、自ら考えたデザインを表現できる。</p>		

事前・事後学習	事前学習：ファッションや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。また、次週のネイルデザインの色決めをしておくこと。（30分） 事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。（30分）
指導方法	ネイル概論では爪の構造・名称を知り、レポートを提出をもって理解度を確認する。 2・3回目に自身の爪を使ってネイルケア実習を行い、2・3回目以外はネイルチップを使い、デザインのバランスを考えながら指導する。 基礎アート、応用アートを修得し、修得後はグループ作品・個人作品を提出する。制作物で授業への理解度を確認し、評価する。
成績評価の方法・基準	D：ネイルに関する用語、デザインの知識を理解し、表現できているのかを評価する。 E：課題に応じたネイルアートの完成度を評価する。 個人課題30%、グループ課題30% レポート10% 授業態度・貢献度30%
テキスト	プリントを配布
参考書	・NAIL MAX ・NAIL VENUS ・NAIL UP ・その他ファッション雑誌など
履修上の注意	2・3回目の授業では、自身の爪を使用するため、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げになるので外しておくこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができる。 実習費を徴収する。 授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。
アクティブ・ラーニング	実習、グループワーク
ICTの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
唐沢真弓			
Subject Code : F25C50			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	JNECネイリスト技能検定試験3級の受験可能なレベルの知識・技能を修得する。 手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング、フラットアート「フラワー」の相モデル実習を行なう。 (授業目標) ○D：爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどJNECネイリスト技能検定試験3級の知識を身につける。 ◎E：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートなどJNECネイリスト技能検定試験3級の技能を修得する。		
授業計画	1	ネイルアート演習2について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 ネイル検定3級受験、検定モデルについて 検定試験内容DVD鑑賞	
	2	フラットアート(実習：2～15回) 3級フラットアート展示・実習 検定の持ち物について	
	3	爪の構造と働き、皮膚科学 ネイル概論 小テスト ネイルケア	
	4	テーブルセッティング 教材配布 テーブルセッティング ネイルケア	
	5	ネイルケア(1) 手指消毒～キューティクルプッシュ	
	6	ネイルケア(2) 手指消毒～ブラシダウン	
	7	ネイルケア(3) 手指消毒～ガーゼクリーン	
	8	ネイルケア(4) カラーリング 手指消毒～リムーブ～ガーゼクリーン	
	9	ポリッシュカラーリング(1) カラーリング～リムーブ	
	10	ポリッシュカラーリング(2) カラーリング～リムーブ	
	11	ネイルケア一連の流れを知る 手指消毒～ガーゼクリーン	
	12	検定試験全般の流れを知る(1) ネイルケア～カラーリング～ネイルアート タイム入れ 80分	
	13	検定試験全般の流れを知る(2) ネイルケア～カラーリング～ネイルアート タイム入れ 80分	
	14	検定試験模擬実習(1) タイム入れ 試験同様の流れ 70分 ※モデル用意	
	15	検定試験模擬実習(2) タイム入れ 試験同様の流れ 70分 ※モデル用意	
到達目標・基準	○D：JNECネイリスト技能検定試験3級の受験可能なレベルの知識を修得する。 ◎E：JNECネイリスト技能検定試験3級の受験可能なレベルの技能を修得する。		
事前・事後学習	事前学習：3級ネイルアート「フラワー」のデザインを考える。 ネイル検定に必要な物の確認・用意しておく。(20分) 事後学習：モデルのネイルケア、カラーリング、ネイルアートを行う。 過去問題を繰り返し行い覚える。(40分)		
指導方法	JNECネイリスト技能検定試験3級試験内容を把握するため、1回目のみDVDを使用する。 授業で伝えた内容はレポートにまとめ提出し、理解度を確認する。 過去問題を使用し、小テストを行う。		



	14・15回目はモデルを用意して検定試験同様のタイム入れを行い、実習授業の理解度を理解する。
成績評価の方法・基準	D：JNECネイリスト技能検定試験3級の知識を提出課題で評価する。 E：JNECネイリスト技能検定試験3級の技能を工程、仕上りで評価する。 小テスト20% レポート10% 技術行程・仕上り 40% 授業態度・貢献度 30%
テキスト	プリントを配布
参考書	
履修上の注意	実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュア・マニキュアは禁止。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 実習費を徴収する。
アクティブ・ラーニング	実習
ICTの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
Subject Code : F16C54			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>相モデル(ペア)実習、グループ実習を通してコミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。</p> <p>○B：ペアワーク、グループワークを通しコミュニケーション能力を高めることができる。</p> <p>◎E：ヘアメイク実習を通しトータル(ヘア、メイク、洋服)バランス能力を高めることができる。</p>		
授業計画	1	<p>ガイダンス、道具の使い方(実習：1～5.7.9.11.15回)</p> <p>ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	2	<p>ヘアアレンジ基礎</p> <p>一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピンング</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー</p>	
	3	<p>ヘアアレンジ基礎</p> <p>シニヨン・すき毛の使い方</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	4	<p>ヘアアレンジ基礎</p> <p>逆毛</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	5	<p>ヘアアレンジ基礎</p> <p>三つ編み・編み込み</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	6	<p>ヘアアレンジ基礎(ペアワーク、グループワーク)</p> <p>アイロン</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p>	
	7	<p>流行ヘアアレンジ・メイク(1)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	8	<p>流行ヘアアレンジ・メイク(2)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p>	
	9	<p>カジュアルヘアとモードヘアの違い(1)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	10	<p>カジュアルヘアとモードヘアの違い(2)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	11	<p>ブライダルヘア(1)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※ウィッグ、キーパー使用</p>	
	12	<p>ブライダルヘア(2)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p>	
	13	<p>トータルで考えるイメージヘア(1)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※スマートフォン</p>	
	14	<p>トータルで考えるイメージヘア(2)(ペアワーク)</p> <p>・ヘアデモンストレーション</p> <p>※スマートフォン</p>	
	15	<p>スタイル作成</p> <p>・技術確認</p>	
到達目標・基準	<p>○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。</p> <p>◎E：ヘアアレンジの基礎(編み込み、カジュアルアレンジスタイル)ができる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分)</p> <p>事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)</p>		

指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 レポート課題 30%、課題 40%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
Subject Code：F25C52			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>相モデル(ペア)実習、グループ実習、ヘアカウンセリングデスカッション能力、ヘアメイクを通しトータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身に付ける。</p> <p>○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。</p>		
授業計画	1	ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認(実習：1～6.8.9.11.15回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー</li> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※ウィッグ、キーパー使用</li> </ul>
	2	ヘアアレンジ確認と応用(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポイントスタイルアレンジ</li> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※ウィッグ、キーパー使用</li> </ul>
	3	ヘアアレンジ確認と応用(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>すき毛を使った応用テクニック</li> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※ウィッグ、キーパー使用</li> </ul>
	4	ヘアアレンジ応用(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボリュームスタイル</li> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※ウィッグ、キーパー使用</li> </ul>
	5	ヘアアレンジ応用(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルーズスタイル</li> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※ウィッグ、キーパー使用</li> </ul>
	6	ヘアアレンジ応用(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>飾りの付け方バランス</li> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※ウィッグ、キーパー使用</li> </ul>
	7	ヘアアレンジ応用(4)(ペアワーク、グループワーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>浴衣スタイル</li> <li>・ヘアデモンストレーション</li> </ul>
	8	ヘアアレンジ応用(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>パーティースタイル</li> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※ウィッグ、キーパー使用</li> </ul>
	9	カジュアルヘアとショーヘアの違い(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアデモンストレーション</li> <li>※ウィッグ、キーパー使用</li> </ul>
	10	カジュアルヘアとショーヘアの違い(2)(ペアワーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアデモンストレーション</li> </ul>
	11	ブライダルヘア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアデモンストレーション</li> </ul>
	12	実習 トータルで提案するヘアメイク(1)(ペアワーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トータルプランニング説明</li> <li>※スマートフォン</li> </ul>
	13	トータルで提案するヘアメイク(2)(ペアワーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>※スマートフォン</li> </ul>
	14	トータルで提案するヘアメイク(3)(ペアワーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>※スマートフォン</li> </ul>
	15	スタイル作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術確認</li> </ul>
到達目標・基準	<p>○B：キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身に付けることができる。</p> <p>◎E：ヘアアレンジの応用(美容器具の扱い方、TPOアレンジスタイル)ができる。</p>		

事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分) 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 レポート課題 30%、課題 40%、授業態度・貢献度 30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
I C Tの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択必修
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F17B56			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	生活の様式や営み方、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方をライフスタイルという。今日、生活様式や行動様式は多様化し、それに伴い業界の垣根もボーダレス化している。本講義は、文化、アート、エンタテインメントの知識を深めることを目的に、ライフスタイルを「衣」「食」「住」「遊」「休」「知」「美」の7つのカテゴリーに分類し、それぞれに携わる業界に関する事例、およびファッション化、エンタテインメント化するビジネスについてを解説する。 (授業目標) ライフスタイル関連業界とそのビジネス手法を知ること、人の興味を惹きつける力を養う。 ◎C：人の感情に働きかけ高揚させるビジネスの仕組みを理解する。		
授業計画	1	ライフスタイル関連業界とビジネス ライフスタイルと文化、アート、エンタテインメント、ファッションの関連	
	2	「遊」関連業界 エンタテインメント業界とビジネス	
	3	「衣」関連業界 ファッション業界とビジネス	
	4	「衣」関連業界と「遊」業界 ファッション業界のエンタテインメント化、エンタテインメント業界のファッション化	
	5	「食」関連業界 フード業界とビジネス	
	6	「食」関連業界と「遊」業界 フード業界のエンタテインメント化、ファッション化	
	7	「住」関連業界 「住まい」に関わる業界とビジネス	
	8	「住」関連業界と「遊」業界 「暮らし」に関わる業界のエンタテインメント化、ファッション化	
	9	「知」関連業界（1） 「知的好奇心を刺激する」業界とビジネス	
	10	「知」関連業界（2） 「知的好奇心を満たす」業界とビジネス	
	11	「美」関連業界（1） 「文化」に関わる業界とビジネス	
	12	「美」関連業界（2） 「アート」に関わる業界とビジネス	
	13	「美」関連業界（3） 「美しくあること」に関わる業界とビジネス	
	14	「休」関連業界（1） 「休みの過ごし方」に関わる業界とビジネス	
	15	「休」関連業界（2） 「余暇を満たす」業界とビジネス ライフスタイル関連業界の今後の展開	
到達目標・基準	◎C：ライフスタイルに影響を及ぼす文化、アート、エンタテインメントを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ライフスタイル関連業界での最新のニュースやビジネスの知識を得ておくこと（60分）。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること（120分）。		
指導方法	パワーポイントやDVD、資料等を使用して講義形式で行う。授業内容を各学生が独自の視点でポートフォリオを作成することで、自身の世界観を確立していく。		
成績評価の方法・基準	C：定期試験を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する。		
参考書	日本経済新聞、WWD、日系MJ、週刊ダイヤモンド、東洋経済、AERA、Beaton。		
履修上の注意	参考書に指定した書籍は、本学図書館にて定期購読しており、社会の第一線で活躍する人材が参考にし、就職活動や就業の際にも役立つものであるため、必ず一読すること。なお、レポートの題材は書籍より取り上げる。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F17C57			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「変化が日常」の現在、今までの慣習やかつての成功例が役立たない時代となった。テクノロジーの進化は、新しい芸術形態や表現手段を生み出し、学びやライフスタイルにおいても多様化をもたらした。ビジネス環境が目まぐるしく変わる今日、人生100年時代を乗り切るセルフプロデュース力が必要となる。本講義は、人の感情に働きかける、エンタテインメント業界とファッション業界の事例を取り上げて解説する。</p> <p>(授業目標) ◎C：自身のライフスタイルを創造する思考力を身に付ける。</p>		
授業計画	1	ライフスタイルプロデュースとは 人生100年時代に備える戦略的セルフプロデュース	
	2	プロデューサーの役割（1）ファッション業界 プロデューサーの仕事内容とキャリアと求められる力	
	3	プロデューサーの役割（2）エンタテインメント業界 プロデューサーの仕事内容とキャリアと求められる力	
	4	ファッションライフスタイル（1） ファッション企業、ライフスタイル企業の情報発信	
	5	ファッションライフスタイル（2） コレクション（ファッションショー）の企画立案	
	6	ファッションディレクター（1） ラグジュアリーブランドのクリエイティブ・ディレクターの仕事	
	7	ファッションディレクター（2） コレクション（ファッションショー）の運営とスタイル	
	8	エンタテインメントの世界（1） エンタテインメントでのプロデューサーの役割とキャストとスタッフ	
	9	エンタテインメントの世界（2） 商業演劇としてのミュージカルのプロデュース	
	10	エンタテインメントの世界（3） 文化・芸術としてのオペラ、バレエのプロデュース	
	11	エンタテインメントの世界（4） 映画のプロデュース	
	12	ライフスタイルプロデュース（1） ビジネスパーソンの学びのプロデュース	
	13	ライフスタイルプロデュース（2） 「仕事」と「余暇」のプロデュース	
	14	ライフサイクルモデル キャリア目標と生活スタイルの確立	
	15	セルフプロデュース 学び続けるために自身をプロデュースする	
到達目標・基準	◎C：自身のライフスタイルやキャリアについての考えを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション業界とエンタテインメント業界での最新のニュースやビジネスの知識を得ておくこと（60分）。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること（120分）。		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイントを使用し、視覚媒体を多くとり入れながらの講義形式で行う。人生設計100年時代のビジネスパーソンのライフスタイルをテーマとしたポートフォリオを作成する。		
成績評価の方法・基準	C：定期試験を評価する。 定期試験 50%、ポートフォリオ 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		
履修上の注意	毎回決められたテーマの資料作りを欠かさないこと。		
アクティブ・ラーニング	特になし		





英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F17C58			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	プロデューサーの仕事は、クリエイターが作った「作品」を、「売れる」商品仕上げることであり、必要とされる要件は企業経営者と同等である。本授業は、グループワークをととして「ファッションショー」「商業演劇」「学内イベント」等を題材に企画立案・運営からコスト回収までの事例研究を行うことで、クリエイティブとビジネスのバランス感覚を養う。 (授業目標) ◎E：「クリエイティブ面」と「ビジネス面」のバランス感覚を身につける。		
授業計画	1	「ファッションショー」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによるファッションショーの企画立案	
	2	「ファッションショー」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによるファッションショーの企画立案	
	3	「ファッションショー」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによるファッションショーの運営とコスト管理研究	
	4	「ファッションショー」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるファッションショーのプレゼンテーション	
	5	「ファッションショー」プロデュース（5） グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
	6	「舞台」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによる舞台の企画立案	
	7	「舞台」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによる商業舞台の企画立案	
	8	「舞台」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによる商業舞台の運営とコスト管理研究	
	9	「舞台」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによる商業舞台のプレゼンテーション	
	10	「舞台」プロデュース（5） 各グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
	11	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによるTOITA Fes ファッションショーの企画立案	
	12	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによるTOITA Fes ファッションショーの企画立案	
	13	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによるTOITA Fes ファッションショーの運営とコスト管理研究	
	14	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるTOITA Fes ファッションショーのプレゼンテーション	
	15	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（5） 各グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
到達目標・基準	◎E：イベント企画を作成し、人前でプレゼンテーションすることができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業テーマに沿った動画や資料を本学図書館で探すこと（20分）。 事後学習：インターネット等で最新のコレクションの情報を得ること（25分）。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用した講義とワークショップ形式で授業をすすめる。個人ワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。		
成績評価の方法・基準	E：プレゼンテーションを評価する プレゼンテーション 50%、課題 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		
履修上の注意	毎回決められたテーマの資料作りを欠かさないこと。 本学図書館に於いてファッション、ビューティ、インテリア、グルメ、アート等ライフスタイル関連の参考文献に必ず目を通す事。		

アクティブ・ラーニング	・プレゼンテーション ・グループワーク
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code : F23C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>経済のグローバル化とデジタルテクノロジーの急速な進化は、個人にさまざまな選択肢を増やし、そこから生じた価値観の多様化は、同時にライフスタイルの多様化をもたらした。本講義は、美的感性を高めるために世界の文化、アート、エンタテインメントについてを学ぶことを目的に、ライフスタイルを「衣」「食」「住」「遊」「知」「美」の観点に分け、ファッション視点でスタイルある生き方や美しい暮らしについてを概説する。 (授業目標) ◎D：自身の価値を高めるために、文化・アート・エンタテインメントを考察する習慣を身につける。</p>		
授業計画	1	ライフスタイルとライフコース スタイルある暮らし、生き方とは ライフコースの多様化と時間とお金の使い方について	
	2	ライフスタイル・「美」 (1) 美術館と博物館	
	3	ライフスタイル・「美」 (2) 絵画とファッション	
	4	ライフスタイル・「美」 (3) オペラ、バレエ	
	5	ライフスタイル・「美」 (4) 日本の伝統芸能	
	6	ライフスタイル・「遊」(1) ブロードウェイとウエストエンド	
	7	ライフスタイル・「遊」(2) ハリウッド映画と映画スター	
	8	ライフスタイル・「衣」、ファッションとエンタテインメント 映画衣裳、舞台衣裳	
	9	ライフスタイル・「遊」(3) ヨーロッパ映画、アジア映画	
	10	ライフスタイル・「知」(1) 読書と図書館、小説家	
	11	ライフスタイル・「住」(1) 建築家と世界の名建築	
	12	ライフスタイル・「住」(2) 庭園、別荘、インテリア	
	13	ライフスタイル・「食」、アートと食 無形文化遺産と食文化、スターシェフについて	
	14	ライフスタイル・「美」(5) 日常と非日常 美しい暮らし	
	15	ライフスタイル・「知」(2) アートとチャリティ	
到達目標・基準	◎D：スタイルある暮らしを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、インテリア雑誌などでライフスタイル全般について自身の好みを明確にしておく。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておく(90分)。 事後学習：自身の価値を高めるため美術館に行き直接アートに触れ、映画・舞台芸術をとおして感性を養う(90分)。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、および2回のレポート提出がある。		
成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー、定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示		
参考書	授業内で指示する。		
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで文化、芸術、エンタテインメントに関する記事をチェックすること。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code： F26C57			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ビジュアルアートとは視覚を介して鑑賞される芸術のことで、一般的には絵画、彫刻、工芸、建築、写真などが含まれる。現在、ファッションとエンタテインメントの世界は一段と、ビジュアルアーツが持つ力を必要としている。本講義は、世界の文化史から始まり、意味深いアートやファッションの事例や現象を取り上げる。これからのビジュアルアーツを考えられることを目的に、ポイントを絞って視覚芸術を解説する。さらに、大変革期にあるファッションの現象や最新情報との比較対象も行う。 (授業目標) ファッションとエンタテインメントの二つの世界を様々なビジュアルアートを題材に想像し創出できる。 ◎D：独自の表現力を身に付けるため、視覚芸術を理解する。		
授業計画	1	ビジュアルアートとは 授業に関するガイダンス	
	2	世界の文化史 ビジュアルアートと文化史	
	3	ビジュアルアートのカテゴリー ビジュアルバリエーションの説明	
	4	スクリーンから観たビジュアル 名作映画からのアイデア	
	5	スクリーンから観たアート 名作映画からヒントを得る	
	6	ビジュアルアートとシンボルマーク 彫刻、工芸を含む オリジナルマーク、ロゴの解説、作り方	
	7	表現のグローバリゼーション 絵画について 西洋絵画とピオトープ	
	8	インテリアから観たビジュアルアート 工芸と建築 中世から現代までの建築とインテリア	
	9	建築とファッションとエンタテインメント 住宅から観たビジュアルアート、有名住宅からのヒント	
	10	フードから観たビジュアルアート 日本の食文化とグルメ、フード雑誌からのヒント	
	11	ビジュアルアートとライフスタイル (1) スタイル誌「View」とフォルナセッティ	
	12	ビジュアルアートとライフスタイル (2) スタイル誌「Wear」とフォルナセッティ	
	13	ビジュアルアートとグローバリゼーション (1) 個々のスタイルとフォルナセッティのMIX	
	14	ビジュアルアートとグローバリゼーション (2) 個々のスタイルとビジュアルアートのMIXの構築	
	15	ビジュアルアートの役割 今後のファッションとビジュアルアートによるイメージ伝達について	
到達目標・基準	◎D：自分独自のスタイルを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：文化・芸術における知識や最新のニュースを得ておくこと (60分)。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること (120分)。		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。文化を含めたポートフォリオが作成できるように指導する。		
成績評価の方法・基準	D：ポートフォリオ、定期試験を評価する。 定期試験 50%、ポートフォリオ 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	本学図書館にあるストーリー性の高い書籍として、「Fornasetti」「Emilio Pucci fashion story」「Tim Walker pictures」等。情報力が強い雑誌として「View」「Wear」。文化情報としては、「ビジュアル教養大辞典」「世界服飾大図鑑」。		
履修上の注意	参考書に指定した書籍は、本学図書館にて定期購読しており、社会の第一線で活躍する人材が参考にし、就職活動や就業の際にも役立つものであるため、必ず一読してアイディア、レイアウトに至る中で自身の情報力をためておくこと。なお、レポートの題材は本学図書館所蔵の上記雑誌より考案する。		

アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code： F26C58			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	エンタテインメント業界やアパレル業界での雑誌やポスターなどの印刷物等をデザイン的に美しく、かつ読みやすく作成、編集するために必要な構成手法や造詣を身につけることを目的とする。デザインの構成の基礎から始まり、世界のアート作品やファッションフォトグラファーの作品およびラグジュアリー誌のビジュアルを分析することで、美しいビジュアルを作り上げる方法について学ぶ。 (授業目標) ◎E：色や形の特性を理解し、表現の目的に応じ使い分け、オリジナリティある作品を作ることができる。		
授業計画	1	ビジュアルアート演習について 自分の理想に適したイメージを作る	
	2	レイアウトについて（1） 参考作品を用いた構図の基礎	
	3	レイアウトについて（2） 色彩の配置やマチエールの変化による表現の違いについて	
	4	コラージュについて 参考作品を用いたコラージュの表現手法について	
	5	スケッチについて 参考作品を用いた、人体パーツのスケッチについて	
	6	パターンの制作について 参考作品を用いたオリジナルのパターンの制作	
	7	オリジナルドローイング制作（1） 本学図書館にて資料を収集し、オリジナルのコンセプトを基にドローイング	
	8	オリジナルドローイング制作（2） 本学図書館にて資料を収集し、オリジナルのコンセプトを基にドローイング	
	9	作品制作（1）（ICT：スマートフォンを活用し、作品のテーマ設定） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、3点以上の作品制作 テーマ決め	
	10	作品制作（2） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、3点以上の作品制作 素材集め	
	11	作品制作（3） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、3点以上の作品制作 制作作業	
	12	作品制作（4） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、3点以上の作品制作 作品の仕上げ	
	13	プレゼンテーション（1）（プレゼンテーション） 制作した作品の発表を行う	
	14	プレゼンテーション（2）（プレゼンテーション） 制作した作品の発表を行う	
	15	作品講評、優秀作品紹介 全体の講評と優秀作品の講評を行う	
到達目標・基準	◎E：色や形でイメージを表すことができる。		
事前・事後学習	事前学習：図書館や美術館にて多くの作品を鑑賞する(30分)。 事後学習：自分の作品に応用することができる資料や情報を収集する(30分)。		
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントを使用し、画像も使い講義を進める。 講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：作品にコメントを添付し、表現の幅を広げ、技術向上のためのアドバイスをを行う。		
成績評価の方法・基準	E：提出作品を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。		
参考書	本学図書館の中のファッション、アート、エンタテインメントに関する図書		
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと。		



アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICTの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F26C56			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	アート作品、エンタテインメント作品を参考に、自分が決めたテーマに即した製作を行い、美的センスを養う。平面構成の基礎を習得し、商品やパッケージ、絵コンテや空間構成を学び、作品を製作することを目的とする。 (授業目標) ◎E：エンタテインメントの世界性を踏まえたアート製作の知識を理解し、オリジナリティある作品を作ることができる。		
授業計画	1	エンタテインメントアートとは 平面構成、絵コンテ、空間構成の重要性	
	2	平面構成基礎 点、線、面などのシンプルな形を扱い平面構成の基礎を学ぶ 平面作品における装飾と空間表現について	
	3	アイデアの発想方法について 自らのアイデアを生むための情報収集方法 アイデアの元となるドローイングの作成を行う	
	4	平面構成応用 構成の基礎を、衣服などのデザインに落とし込む	
	5	メインビジュアル、パッケージデザイン（1）（ICT：スマートフォンを活用し、作品のテーマ設定）（実習） 自分のアピールしたい商品や企画のパッケージ、またはメインビジュアルを作成する テーマ決定	
	6	メインビジュアル、パッケージデザイン（2）（実習） 自分のアピールしたい商品や企画のパッケージ、またはメインビジュアルを作成する 製作作業	
	7	メインビジュアル、パッケージデザイン（3）（実習） 自分のアピールしたい商品や企画のパッケージ、またはメインビジュアルを作成する 作品の仕上げ	
	8	映像作品のパンフレット制作（1）（実習） 映画や舞台のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットを製作する 素材収集	
	9	映像作品のパンフレット制作（2）（実習） 映画や舞台のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットを制作する レイアウト	
	10	映像作品のパンフレット制作（3）（実習） 映画や舞台のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットを製作する 仕上げ	
	11	空間構成（1）（ICT：スマートフォンを活用し、作品のテーマ設定）（実習） ショーウィンドウや舞台のレイアウトを想定し、紙などを用いて立体構成を製作する テーマ決定	
	12	空間構成（2）（実習） ショーウィンドウや舞台のレイアウトを想定し、紙などを用いて立体構成を製作する 素材集め	
	13	空間構成（3）（実習） ショーウィンドウや舞台のレイアウトを想定し、紙などを用いて立体構成を製作する 製作作業	
	14	空間構成（4）（実習） ショーウィンドウや舞台のレイアウトを想定し、紙などを用いて立体構成を製作する 作品の仕上げ	
	15	学修成果発表、講評（プレゼンテーション：個人） 最終課題を中心としたプレゼンテーションと講評	
到達目標・基準	◎E：アート製作の知識を理解し、作品に活かすことができる。		
事前・事後学習	事前学習：作品制作に活かせる資料の収集を行う（30分）。 事後学習：作品を良く見せるために適した素材を調べる（30分）。		
指導方法	実習が中心となるが、テーマに関する映像や画像などをパワーポイントを使用して説明を加えながら授業を進める。エンタテインメント性のある作品作りを出来るよう指導を行う。 フィードバックの仕方：作品は改善のポイントを添付し、表現の幅や技能の上達のためのアドバイスを行う。		

成績評価の方法・基準	E：課題を評価する。 作品70%、授業への貢献度30%
テキスト	なし
参考書	本学図書館の中のファッション、アート、エンタテインメントに関する図書
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習
I C Tの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
ニールマーツ			
Subject Code : F37C63			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	概論として演劇・映画のメイキャップや衣裳デザインの歴史や理論としての色彩を学ぶ。その後、実際にプロフェッショナルが使用する材料、ツールを用いて特殊メイクに必要とされるデザイン、彫塑、型どり等のベーシックな手法での実技を行う。後半部では、特殊メイクの実演を通して技術の修得を図る。 (授業目標) ○D：色彩理論を学ぶことで得た知識を、日々の生活に応用できる ◎E：特殊メイクの基礎知識を学修することで、多様な表現力を身に付ける		
授業計画	1	特殊メイクアップ概論 演劇映画等のメイキャップ、服飾デザインの歴史 実技 タトゥーを描く	
	2	メイクアップ概論(1) カラーについて、PAX PAINT作成 (TATOO カバー)	
	3	メイクアップ概論(2) 色彩について	
	4	メイクアップ概論(3) デザインについて	
	5	特殊メイク基礎スキル(実習：5～15回) 接着と除去の基礎知識、鼻の造形についての説明	
	6	ライフキャスト(LIFECAST) 人体の型どり 自身の顔型取りを行う	
	7	型のクリーン 石膏を削り、顔型を完成させる	
	8	SCULPTURE 塑造(1) 粘土で自身の制作したい鼻のデザインを行う	
	9	SCULPTURE 塑造(2) 粘土で自身の制作したい鼻の造形を行う	
	10	SCULPTURE 塑造(3) 鼻の造形物を原型とし石膏で型をおこす	
	11	型(MOLD)と形(CAST) 型どりの手法を理解し作成する	
	12	ラテックスの取扱使用方法とCLEAN & CAST (LATEX) 液体ラテックスを型にコーティングする	
	13	特殊メイク実演(1) ゾンビメイク実演方法の説明、及び実技. 血のりの基礎知識と使用方法	
	14	特殊メイク実演(2) 特殊メイクデモンストレーション及び造形鼻に色を塗る	
	15	実演 これまでに学んだ技術を基にペアにて特殊メイクを行う。	
到達目標・基準	○D：色彩理論を学ぶことで、自身が思い描く色に関してを説明できる ◎E：特殊メイクの基本実技を説明できる		
事前・事後学習	事前学習：映画や映像等、常に特殊メイクを意識することで、記憶し表現の引き出しを作っておくこと(90分)。 事後学習：色彩理論に関しては、その種の参考文献をよみ理解を深めること(90分)。		
指導方法	1回から4回までのメイクアップ概論については、講義を中心に理論を学ぶ。 6回から15回の特殊メイク基礎スキルについては、実習が中心となる。 本科目は、90分授業を2コマ連続で行う。		
成績評価の方法・基準	D：色彩環の完成度を評価する D：ペアで行う特殊メイクの実技のデザインを評価する E：ペアで行う特殊メイクの実技の完成度を評価する 授業時の態度・実技評価50%、技術査定50%		
テキスト	なし		
参考書	なし		

履修上の注意	作業工程に遅れないよう、積極性を持って課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：1年生F38C64		Subject Code：2年生F17C61	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（6月4日（火）課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（6月18日（火）および7月16日（火）課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかから出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後研修（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。</p> <p>なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。また、以下項目を基準に評価する。</p> <p>A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。</p>

テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ1は授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2の違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前研修を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前研修の補講は原則行わないものとする。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し
I C Tの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：1年生F38C65		Subject Code：2年生F17C62	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ2は、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（6月4日（火）課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（6月18日（火）および7月18日（火）課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修修了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。</p>
テキスト	なし



参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し
I C Tの活用	特に無し

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
久保 顯彦			
Subject Code：F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッション プランニングモデル」                  学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。                  講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。                  本ゼミナールは、ファッション業界の本部（本社）での職種の役割と仕事内容を理解する。                  （授業目標）                  ○B：グループワークにおける自分の役割を実行しながら、主体的に自分の考えをまとめることができる。                  ◎C：自分の考えを論理的にプレゼンテーションすることができる。</p>		
授業計画	1	ファッション業界について（1） 本ゼミナールの概要、ファッション業界の職種について	
	2	キャリア講座（1）「就職活動の準備」（キャリアセンター） 卒業生内定先、就職活動のスケジュールと現状について	
	3	「本部の職種研究」（1）（個人ワークおよびペアワーク） ファッション業界における本部の役割、職種について	
	4	ファッション業界の現状（外部講師） ファッション業界におけるキャリアアップと現状について	
	5	「本部の職種研究」（2）（プレゼンテーション） ペアワークによる「本部の職種研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション	
	6	2年生内定者による就職体験講話 2年生内定者による就職体験講話	
	7	キャリア講座（2）「SPI模試」 就職活動における筆記試験対策として模試を行う	
	8	「本部営業職の研究」（1）（グループワーク） 営業の仕事内容、必要な力を考える 履歴書の書き方	
	9	「本部営業職の研究」（2）（グループワーク） 営業として担当店舗の売上増加戦略を考える エントリーシートの書き方	
	10	「本部営業職の研究」（3）（グループによるプレゼンテーション） グループワークによる「本部営業職の研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション	
	11	「本部プレス職の研究」（1）（グループワーク） プレスの仕事内容、必要な力を考える 自己分析	
	12	2年生内定者懇談会 2年生内定者による個別相談会	
	13	「本部プレス職の研究」（2）（グループワーク） プレスとしてブランドイメージの向上を考える	
	14	「本部プレス職の研究」（3）（グループによるプレゼンテーション） グループワークによる「本部プレス職の研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション	
	15	ファッション業界について（2） 本部のマーチャンダイザー職と生産管理（プロダクトコントローラー）職について	
到達目標・基準	○B：グループワークにおける自分の役割を責任を持って実行できる。 ◎C：自分の考えを論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、グループ討論、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業や流通業の店舗調査を行い、売るための仕組みや戦略を学ぶ。		
成績評価の方法・基準	○B：受講態度及びグループワークでの貢献度を評価する。 ◎C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。		

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	ファッション業界及びファッション関連業界において就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。 映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養うこと。 図書館にある「日経MJ」、「WWD」、「アエラ」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッション セールスモデル」</p> <p>学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。</p> <p>本ゼミナールでは、ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。 (授業目標)</p> <p>○B：グループワークにおける自分の役割を実行しながら、主体的に自分の考えをまとめる力を修得する。 ◎C：自分の考えを論理的にプレゼンテーションするスキルを身につける。</p>		
授業計画	1	ファッション業界の基礎 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について	
	2	就職活動の準備（キャリアセンター） 卒業生内定先、就職活動のスケジュールと現状について	
	3	職種研究（ペアワーク） ファッション業界における店舗と本部の役割、職種について	
	4	ファッション業界の現状（外部講師） ファッション業界におけるキャリアアップと現状について	
	5	職種研究（ペアワーク、プレゼンテーション） ペアワークによる「職種研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
	6	2年生内定者による就職体験講話 2年生内定者の紹介、就職活動の注意点とアドバイスについて	
	7	SPI模試（キャリアセンター） 就職活動における筆記試験対策として模試を行う	
	8	ファッション販売員の研究（グループワーク） 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは	
	9	ファッション販売員の研究（グループワーク） 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは	
	10	ファッション販売員の研究（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
	11	履歴書およびエントリーシートの書き方（グループワーク） グループによる志望企業の研究、エントリーシート書き方の注意点について	
	12	2年生内定者懇談会 2年生内定者による個別相談会	
	13	店舗運営の研究（グループワーク） 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは	
	14	店舗運営の研究（グループワーク） 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは	
	15	店舗運営の研究（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
到達目標・基準	○B：グループワークにおける自分の役割を責任を持って実行できる。 ◎C：自分の考えを論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の特徴やマーケティング戦略を学ぶ。		
成績評価の方法・基準	B：授業態度およびグループワークの貢献度を評価する。 C：プレゼンテーション、課題を評価する プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	適宜プリント資料を配布する。		
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。		
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。		

	また、映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館にある「日経MJ新聞」や「WWD」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code：F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッションデザインモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 各自、作品のポートフォリオを作成する。 (授業目標) ○C：独自のクリエイションを研究し、さらに将来のビジョンを思考する力を養う。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、ポートフォリオを使用し効果的なプレゼンテーション力を身に付ける。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション (プレゼンテーション) 将来の目標について自己紹介を交えて全員がプレゼンテーションする	
	2	ステイリズム (ファッションデザイン) ステイリズムとは	
	3	ステイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) 人体の理解と表現	
	4	ステイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) (ディスカッション：自分の世界観について話し合う) ブランドを想定し、ムードボード制作	
	5	ステイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) エクササイズ (カラーージュなど) プロポーシヨンの描き方を学ぶ	
	6	ステイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) エクササイズ (鉛筆模写など) プロポーシヨンの描き方を学ぶ	
	7	キャリア講座 (1) (キャリアセンター) 就職のための筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	8	ステイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) デザインリサーチ、デザイン画 着装表現の描き方を学ぶ	
	9	ステイリズム (ファッションデザイン) (プレゼンテーション：進捗状況を発表する) デザイン画、着色 着装表現の描き方を学ぶ	
	10	ステイリズム (ファッションデザイン) (ゲスト講師) 平面図を描く	
	11	発表 (ファッションデザイン) (ゲスト講師) (プレゼンテーション：完成したポートフォリオについて発表する) 自分の作品をまとめポートフォリオを完成させ、発表する	
	12	キャリア講座 (2) (キャリアセンター) 就職活動にあたり、業界の就職状況を説明する	
	13	キャリア講座 (3) (キャリアセンター) 今後の就職活動スケジュールを説明する	
	14	2年生とディスカッション (ディスカッション：就職活動やゼミでの学びについて話し合う) 2年生から就職活動体験談やゼミでの学びの成果の発表を聞き、今後の指針を得る	
	15	学外実習 アパレル企業の製作現場を見学する	
到達目標・基準	○C：自分のキャリアを論理的に思考できる。 ◎E：独自のクリエイション技能を的確にプレゼンテーションできる。		
事前・事後学習	事前学習：次回の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する (15分)。 事後学習：ムードボード、デザイン画、平面図など各回の課題を完成させる (30分)。		
指導方法	論理思考をベースに、ディスカッション形式でキャリアデザインを進める。 学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。 フィードバックの仕方：毎回、作品やディスカッションの内容に対して教員が講評する。		
成績評価の方法・基準	C：ディスカッションの発言内容、課題の思考力を評価する。 E：作品の完成度とプレゼンテーション能力を評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%		

テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 ポートフォリオを作成するため、ポケット式ファイルを用意する。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ディスカッション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子			
Subject Code：F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ウエディングモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。専門のゲスト講師を招き、業界の専門知識やスキルを講義、演習から主体的に学修する。また身近な社会現象等も取り上げグループワークで討議を行い、プレゼンテーションで発表する力を養う。 (授業目標) ◎C：身近な社会現象に対し興味を持ち、思考力を働かせ考察する。 ○D：ウエディング業界で働くことのイメージを正しく持ち、就職するために必要な学びは何かを理解する。</p>		
授業計画	1	ウエディングゼミオリエンテーション、ウエディング業界について（グループワーク）（小泉・楠） ウエディング業界について考える	
	2	ウエディングゼミ個別指導（小泉・楠） 面談を行う（2グループ分け）	
	3	ウエディング業界の仕（使）事とは（ゲスト講師①） 業界について考える、八芳園模擬挙式のモデルを決定する	
	4	八芳園学外実習（ゲスト講師②） 八芳園の模擬挙式体験	
	5	模擬挙式の振り返り（ゲスト講師③） なぜ人は結婚式をするのか	
	6	ケーススタディ1（グループワーク）（ゲスト講師④） 考える力をつけ、自分の考えを持つためのプロセスを理解する（CWRIA）	
	7	キャリア講座1（キャリアセンター） 就職のための筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	8	ケーススタディ2（グループワーク）（ゲスト講師⑤） 実例（挙式プランニングにおける対応）を元に問題点を見つける	
	9	企業研究2（小泉・楠） ウエディング関連企業から業種を調べる（2グループ分け）	
	10	キャリア講座2（キャリアセンター） 就職活動にあたり、業界の就職状況を説明する 就職活動スケジュールを説明する	
	11	ケーススタディ3 グループワーク（ゲスト講師⑥） 実例（挙式プランニングにおける対応）を元に対応策を考える	
	12	キャリア講座3（キャリアセンター） 内定者交流会	
	13	時事問題1 グループワーク（ゲスト講師⑦） 2019～2020年に向けて日本が取り組んでいること	
	14	時事問題2 グループワーク（ゲスト講師⑧） 2019～2020年に向けて婚礼業界がどう変わっていくのか	
	15	時事問題3 グループワーク（ゲスト講師⑨） 世論と情勢について考える	
到達目標・基準	◎C：社会問題に対し、自分の考えを持ち討議できる。 ○D：ウエディング業界で働くために修得すべきことを理解できる。		
事前・事後学習	事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと。（20分） 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること。（25分）		
指導方法	通常の授業と違いゼミ形式で行うので、学生の主体性と積極性を重視する。 テーマ毎の課題提出をする。 フィードバックの仕方：添削を行いコメントを記載し返却する。		
成績評価の方法・基準	C：グループワークでの自己提案力と貢献度 D：ウエディング業界の理解度 課題60%、授業への貢献度40%		
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版 プライダルのお仕事 芸文社 プリント配布		
参考書			



履修上の注意	ウエディング関連企業に興味を持っていること。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
新井葉子、平光くり子			
Subject Code：F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 (授業目標) 主に美容業界を目指すための心構え、マナー、業界知識を身に付ける。 ◎D：美容業界のしくみや職種についての知識を身に付ける。		
授業計画	1	業界研究（新井） 本ゼミナールの概要、美容業界について	
	2	就職活動準備（1）（平光） ビューティゼミ2年生内定者による就職活動の流れについて	
	3	職種研究（1）（ゲスト講師） 美容部員の仕事内容・美容部員のキャリア、企業が求める美容部員について	
	4	職種研究（2）（キャリアセンター） 業界研究ネイリスト、エステティシャン、リフレクソロジスト	
	5	就職活動準備（2）（ゲスト講師） 就職活動の流れ、自己分析について	
	6	個人ワーク（1）企業研究（ゲスト講師） 企業研究、ブランド研究、店舗見学について	
	7	キャリア講座（1）SPI模擬試験（キャリアセンター） 就職のための筆記試験対策としてのSPI模擬試験を行う	
	8	就職活動準備（3）（ゲスト講師） 美容業界に就職するための履歴書とエントリーシートの書き方のポイントについて	
	9	日本化粧品検定3級対策講座（1）（ゲスト講師） 対策講座（肌悩みに応じた化粧品の使用方法について）	
	10	日本化粧品検定3級対策講座（2）（ゲスト講師） 対策講座（ボディケア、ヘアケアの基本知識について）	
	11	個人ワーク（2）企業研究（ゲスト講師） 憧れる企業を比較、検討し、各企業が求める人材を報告書にまとめる	
	12	キャリア講座（2）2年生内定者懇談会（キャリアセンター） 今後の就職活動スケジュールを説明する	
	13	ブランド研究（1）（グループワーク：グループごとに討論）（ゲスト講師） メイクアップブランドの特徴について討論する	
	14	ブランド研究（2）（グループワーク：グループごとに資料の作成）（ゲスト講師） メイクアップブランドの特徴について発表用の資料を作成する	
	15	ブランド研究（3）（グループワーク：グループごとにまとめを発表）（ゲスト講師） メイクアップブランドの特徴についてプレゼンテーション、評価する	
到達目標・基準	◎D：美容業界のしくみや職種について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：美容雑誌、インターネット等美容に関する最新情報を調べる（20分）。 事後学習：ゼミで学んだことを調べ、就職活動に役立てるようまとめておく（25分）。		
指導方法	美容業界で活躍したい学生を対象にした就職活動準備のためにゲスト講師を招いて行うゼミナールである。希望職種を明確にし、そのためには何が必要かを考え主体的に学ぶ。各自の興味にもとづいた就職活動準備を行えるよう指導する。		
成績評価の方法・基準	D：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題40%、授業態度・授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書	なし		
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。		
アクティブ・ラー	グループワーク、プレゼンテーション		

ニング	
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code：F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ライフスタイルモデル」 ライフスタイル関連業界に就職を望む学生に対して、テーマを絞り込み、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を行う。ライフスタイル関連業界で活躍するためには必須となる、自分の考えやアイデアをまとめる力や、自分を表現する力を養いながら、学生の就業意識を高める。履修した学生は舞台のゲネプロなどに参加する場合もある。 (授業目標) ○A：グループワークにおける自分の役割を実行し、主体的にグループの考えをまとめる力を修得する。 ◎C：論理性、感性から多面的な視点を身につける。</p>		
授業計画	1	業界研究（1） ライフスタイルに関わる業界 エンタテインメントのグローバルな役割 幅広いのりしろのある考えがもてる人物になるには	
	2	職種研究（1）（グループワーク） マーチャンダイザー、ディレクター、プロデューサーの役目とそれぞれの立ち位置の解説 プロデューサー職の仕事内容、役割をグループで議論する	
	3	職種研究（2）（グループによるプレゼンテーション） 「TOITA Fesでのプロデューサー職」をテーマに グループによるプレゼンテーションを行う	
	4	プロフェッショナルに学ぶ（1）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演① ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	5	業界研究（2） エンタテインメントの仕組み 芸能ではなく、幅広いゾーンの中で作り上げていく要素を解説（衣食住遊知美景）	
	6	プロフェッショナルに学ぶ（2）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演② ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	7	キャリア講座（1）「SPI模試」（キャリアセンター） 就職のための筆記試験対策として、SPI模擬を行う	
	8	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（1）（グループワーク） TOITA Fesの今後の課題、考えられることを分析	
	9	プロフェッショナルに学ぶ（3）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演 ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	10	プロフェッショナルに学ぶ（4）（ゲスト講師） 2.5次元キャラクターメイク実演 ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	11	プロフェッショナルに学ぶ（5）（ゲスト講師） 文化・芸術におけるマーケティング活動 エンタテインメント業界と文化芸術分野に於ける人作り、作品作り、興業的売上作り	
	12	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 就職活動にあたり、業界の就職状況を説明する	
	13	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（2）（グループワーク） TOITA Fesでのイベントプロデュース	
	14	キャリア講座（3）（キャリアセンター） 今後の就職活動スケジュールを説明する	
	15	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（3）（プレゼンテーション） 各グループによる「TOITA Fesでのイベントプロデュース」の発表	
到達目標・基準	業界研究、企業研究、職種研究をすることでエンタテインメント業界で必要とされる力を理解し、就業意識を高める。 ポートフォリオを製作することで自分の強みを発見し、自分を表現する力を高める。 ○A：グループワークにおける自分の役割を責任を持って遂行できる。 ◎C：自分の考えや計画を論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館にてメイク、ライフスタイル、ビジネス、ファッション等エンタテインメントに必要な知識を身につけ、授業で発言及び発表が出来る段階まで準備しておくこと（20分）。 事後学習：各回の授業内で生じた「問い」を本学図書館において調べ、分析し、問題解決しておくこと（25分）。		
指導方法	映像やパワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。また第一線で活躍するプロフェッショナルなゲスト講師を招き、そのスキルを学べる場も取り入れる。		

成績評価の方法・基準	A：グループワークでの貢献度を評価する。 C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題40%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する
参考書	参考文献に関してはその都度指示する
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 左脳と右脳を認識しながら、左脳として東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラ、CUT等、右脳としてBeaton、View、WeAr、VOUGUE、BAZAAR、ELLEatTABULE、ELLE DECO等を毎日図書館にて目を通すこと。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク ・プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F39A66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生が自ら志望大学合格に必要な条件をふまえた目標計画を策定し、スケジュールに沿って個別指導を行う。 (授業目標)</p> <p>◎C：編入希望の大学に合格するためのスケジュールを策定することができる。 ○D：編入学受験科目である小論文について過去のテーマをもとに論述できる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション・学習計画書の作成 編入に向けて、準備をする	
	2	進学準備カウンセリング（1） 進学に向けて話し合う	
	3	情報収集 関心を持つ分野にどのような大学があるか、また試験課題など必要な情報を収集する	
	4	大学研究 進学先の大学等を研究する	
	5	試験対策（1） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	6	試験対策（2） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	7	小論文指導（1） 論理力、思考力を鍛える	
	8	キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職のための筆記試験対策としてのSPI試験を行う	
	9	小論文指導（2） 論理力、思考力を鍛える	
	10	大学研究 進学先の大学等を研究する 進学先の大学等を研究する	
	11	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 内定者報告会	
	12	試験対策（3） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	13	試験対策（4） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	14	進学準備カウンセリング（2） 進学に向けて話し合う	
	15	対策状況確認 編入に向け試験対策の状況確認をし、今後の対策を練る	
到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることができる。 ○D：小論文の知識を取得し、順序だてて組み立てることができる。		
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ、対策を行う(30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う(30分)。		
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策、小論文指導を行う。 フィードバックの仕方：小論文などの課題については、添削指導を行う。		
成績評価の方法・基準	C：面談等から志望大学合格のためのスケジュールが組まれているか、計画を行動に移せているかなどにより判断する。 D：試験勉強への取り組みなどから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書			
履修上の注意	編入学を希望する学生は、本科目を履修登録すること。		
アクティブ・ラー	特になし		

ニング	
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
久保顯彦、井上近子			
Subject Code：F28C64			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>アパレル業界及びアパレル関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」「店舗調査」をふまえて、店長や経営者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。</p> <p>(授業目標) アパレル小売業経営に必要となる知識やスキルを理解する。</p> <p>◎A：小売業経営に対して積極的に調査を行い、ファシリテーターとしてグループ内の話し合いを通じて自分の考えをまとめる力を身につける。 ○E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて論理的にプレゼンテーションするスキルを修得する。</p>
授業計画	<p>1 店舗運営コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>2 店舗運営コスト（2）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>3 店舗運営コスト（3）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>4 ファッション業界の現状（ゲスト講師） ファッション業界におけるキャリアアップと現状について</p> <p>5 店舗出店コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>6 店舗出店コスト（2）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>7 店舗出店コスト（2）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>8 学外プロジェクト（1）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>9 学外プロジェクト（2）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>10 学外プロジェクト（3）（グループワーク） Kissポート財団との連携による学外プロジェクト</p> <p>11 学外プロジェクト（4）（グループワーク、プレゼンテーション） Kissポート財団との連携による学外プロジェクトの発表と評価</p> <p>12 学外プロジェクトの振り返りと「理想の店舗」（グループワーク、プレゼンテーション） Kissポート財団との連携による学外プロジェクトの振り返りと「理想の店舗」立案について</p> <p>13 理想の店舗（1）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の討論</p> <p>14 理想の店舗（2）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」を計画し、報告書を作成する</p> <p>15 理想の店舗（3）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「理想の店舗」を発表する</p>
到達目標・基準	◎A：小売業経営に対して興味を持ちながら話し合いを進めることができる。 ○E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	履修者を2クラスに分けて指導を行う。パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、グループ討論、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。
成績評価の方法・基準	A：主体性・チームワーク・責任感：ファシリテーター役など授業への貢献度を評価する。 E：技能・表現：討論でのプレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。



アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"><li>・ディスカッション</li><li>・グループワーク</li><li>・プレゼンテーション</li></ul>
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code : F28C65			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン関連、ものづくり関連の業界を目指す学生を対象にしたゼミである。キャリアゼミ（アパレルデザイン）で学んだステイリズムを実際にカタチで表現し、各自オリジナル作品を製作する。作品製作を通して自身の適性を見極め、キャリア形成における明確な目標を掲げ、目標をクリアする為のフローを組み立てる。 (授業目標) ○A：主体的に自身の知識・技術を向上させ、積極的に作業を進める力を身につける。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、立体研究によりオリジナリティを表現する力を修得する。		
授業計画	1	オリエンテーション（プレゼンテーション） アパレル業界における自分の「夢」「目標」とそれを実現する為のプロセスを自己紹介をまじえてプレゼンテーションする	
	2	パタンナーとディスカッション（ゲスト講師） ファッション関係者とディスカッションし、パタンナーなどの専門職についてアパレル業界構造を学ぶ	
	3	モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ	
	4	モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ	
	5	モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 造形実習	
	6	モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 造形実習	
	7	作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） カットソー作品を制作し、立体研究について学ぶ	
	8	作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） 作品の基本構造を学ぶ 前後身頃トフルにトレース 両脇と肩を縫い合わせる	
	9	作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） 着用可能に修正 パターン落とし込み	
	10	作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） デザインを入れる	
	11	作品製作（実習：カットソーによる立体研究） トフルチェックと付属の確認 縫製工程のチェック	
	12	作品製作（実習：カットソーによる立体研究） 生地（ニット）裁断、接着	
	13	作品製作（実習：カットソーによる立体研究） 肩、襟ぐり処理、袖見返し、脇、裾始末	
	14	作品製作（実習：カットソーによる立体研究） テントラインに縫い上げてからデザイン入れ	
	15	発表（プレゼンテーション）（ゲスト講師） 企業でのプレゼンテーションを想定し、製作した作品を発表する	
到達目標・基準	○A：主体的な態度で作業に取り組み、作品を完成できる。 ◎E：立体作品により、オリジナリティを表現できる。		
事前・事後学習	事前学習：次の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（20分）。 事後学習：各自のスケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う（25分）。		
指導方法	学生の主体性と積極性を重視し、思考を深める。 作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：製作中の作品に対して教員からアドバイスし、作品の完成度を高める。		
成績評価の方法・基準	A：積極的に作業を行うなど授業への貢献度を評価する。 E：作品の完成度とオリジナリティを評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%		
テキスト	なし		

参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子			
Subject Code：F28C66			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランナー、ウエディングドレススタイリスト等のブライダル関係に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連動してゼミ形式で授業を行う。専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談も行き、対応策も学修する。 (授業目標) ◎B：ウエディングの現場で求められる共感力コミュニケーション能力を修得する。 ○C：ウエディング業界への就職活動のプロセスを知り自分に適した企業を判断し考察する。
授業計画	<p>1 就職活動の個別指導（小泉・楠） 就職活動状況の面談（プランナー志望、ドレススタイリストその他：2グループにて行う）</p> <p>2 就職活動の取り組みについて（ゲスト講師①） 就職活動状況の報告</p> <p>3 就職活動報告からの振り返り（ゲスト講師②） 今後の就職活動の振り返りと見直し</p> <p>4 就職活動の事情公開（ゲスト講師③） 媒体からの情報を元に内定率や全体の学生の動きを共に共有する、アンケート調査</p> <p>5 就職活動振り返り（ゲスト講師④） 前回でのアンケートを元に悩みを皆で共有し解決する</p> <p>6 就職活動成功共有（ゲスト講師⑤）（プレゼンテーション） 内定者が成功例や工夫した点のアドバイスを発表する</p> <p>7 企業から見た面接とは（ゲスト講師⑥） 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について</p> <p>8 コミュニケーション力の考え方（ゲスト講師⑦） 言葉を使うコミュニケーションと言葉を使わないコミュニケーションとは</p> <p>9 ロールプレイング（1）（グループワーク）（ゲスト講師⑧） プランナーとしてのヒヤリング実践とロールプレイング①</p> <p>10 ロールプレイング（2）（グループワーク）（ゲスト講師⑨） プランナーとしてのヒヤリング実践とロールプレイング②</p> <p>11 ロールプレイング（3）（グループワーク）（ゲスト講師⑩） お客様対応実践とロールプレイング</p> <p>12 ウエディングプランニング（1）（グループワーク）（ゲスト講師⑪） ウエディングプランニングと企画書</p> <p>13 ウエディングプランニング（2）（グループワーク）（ゲスト講師⑫） ウエディングプランニング発表①</p> <p>14 ウエディングプランニング（3）（グループワーク）（ゲスト講師⑬） ウエディングプランニング発表②</p> <p>15 社会人としてのマナー（小泉・楠） 社会人としての心得</p>
到達目標・基準	◎B：日常の生活の中でも共感力コミュニケーションを応用できる。 ○C：興味あるウエディング企業を一覧にまとめ説明できる。
事前・事後学習	ウエディング業界の情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回のテーマについて、予習をしておくこと（20分）。 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること（25分）。
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。テーマ毎の課題提出をする。
成績評価の方法・基準	B：グループワークでの自己提案力と貢献度 C：ウエディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版 プリント配布
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。

アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子、平光くり子			
Subject Code : F28C67			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、美容部員を例に美容業界で働く心構えを学ぶ。美容業界で活躍する方をゲスト講師として迎え講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で授業を行う。 美容を仕事にする場合、相手の身体に触れるため、対人マナーをふまえて相手のめざすイメージや好みなどの気持ちと向き合うコミュニケーション力を養うことも重視する。 (授業目標) 美容業界で働くために必要なマナー、接遇、コミュニケーションを身につける。 ◎D：美容業界で働くために必要なマナーと接遇を修得する。 ○E：美容業界で働くために必要なコミュニケーションを身につける。
授業計画	<p>1 就職活動準備(1)(新井) 本ゼミナールの概要、美容業界での就職活動について</p> <p>2 就職活動準備(2)(キャリアセンター) グループディスカッション練習</p> <p>3 日本化粧品検定2級対策講座(1)(ゲスト講師) 皮膚のしくみについて</p> <p>4 日本化粧品検定2級対策講座(2)(ゲスト講師) 肌の手入れと正しい知識について</p> <p>5 理想の美容部員とは(1)(ゲスト講師) 店頭につつ上で身につけておくべきこととは</p> <p>6 理想の美容部員とは(2)(ゲスト講師) 接遇マナー基礎、第一印象の作り方について</p> <p>7 理想の美容部員とは(3)(ゲスト講師) チーム接客、売上につながる接客とは</p> <p>8 理想の美容部員とは(4)(ゲスト講師) カウンセリング、クロージングの基本について</p> <p>9 理想の美容部員とは(5)(ゲスト講師) 美容部員のサービス、コミュニケーションとは</p> <p>10 魅力的なプレゼンテーションとは(ゲスト講師) 論理的なプレゼンテーションを学び、魅力的なプレゼンテーションを考える</p> <p>11 理想の美容部員とは(6)(ゲスト講師) 個人ワークによる理想の美容部員の研究</p> <p>12 理想の美容部員の接客とは(1)(グループワーク)(ゲスト講師) 理想の美容部員の接客についての討論と研究</p> <p>13 理想の美容部員の接客とは(2)(グループワーク)(ゲスト講師) 理想の美容部員の接客について報告書の作成(グループごとに報告書の作成)</p> <p>14 理想の美容部員の接客とは(3)(グループワーク)(プレゼンテーション)(ゲスト講師) 理想の美容部員の接客について研究経過報告(グループによる発表)</p> <p>15 理想の美容部員の接客とは(4)(プレゼンテーション)(ゲスト講師) 「理想の美容部員」についてグループごとに発表する</p>
到達目標・基準	◎D：美容業界で働くために必要なマナーと接遇を理解し、説明できる。 ○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。
事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする(20分)。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い、理想の美容部員について考える(25分)。
指導方法	各自の就職活動ノートに毎週活動の進捗状況を確認できるよう指導する。 パワーポイント、DVD等を使用する。
成績評価の方法・基準	◎D：小テスト、課題を評価する。 ○E：プレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、小テスト20%、課題20%、授業態度・授業への貢献度20%
テキスト	なし
参考書	なし
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。

アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code：F28C68			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	エンタテインメント業界及びエンタテインメント関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、エンタテインメント業界の第一線で活躍するプロフェッショナルなゲスト講師も招き、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行う。ファッション、インテリア、エンタテインメントなど幅広い分野を題材に、右脳・左脳の両脳を駆使しエンタテインメント業界で生き抜き、活躍できる力を学ぶ。 (授業目標) 1年次からの活動を振り返り、自身のキャリアビジョンを立てることができる。 ◎A：主体的にエンタテインメント業界を調査し、グループワークを通して、責任感を身につける。 ○C：舞台芸術にふれ、エンタテインメント業界で必要となる力を知る。		
授業計画	1	エンタテインメント業界に必要な力（1） 感覚と経験値① 情報量のグローバルな取り入れ方	
	2	エンタテインメント業界に必要な力（2） 感覚と経験値② 思考は内なる考えの結果だけではなく感覚で得た印象に基づく理論	
	3	エンタテインメント業界で働くには（1） 就職にむけた情報量 情報量を増やす技と就職先の見分け方	
	4	プロフェッショナルに学ぶ（1）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「女優」講義テーマ「エンタテインメント業界におけるメイク業界の情報」	
	5	プロフェッショナルに学ぶ（2）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「女優」講義テーマ「ウェブデザインでの表現方法について」	
	6	エンタテインメント業界に必要な力（3） 左脳と右脳、両脳を使った複眼的視点① 左脳、右脳分析	
	7	エンタテインメント業界に必要な力（4） 左脳と右脳、両脳を使った複眼的視点② 両脳バランス説明	
	8	プロフェッショナルに学ぶ（3）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「キャラクターメイク」講義テーマ「2.5次元ミュージカル」	
	9	プロフェッショナルに学ぶ（4）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「キャラクターメイク」講義テーマ「日本のエンタテインメント業界の今」	
	10	エンタテインメント業界で働くには（2）（グループワーク） 就職にむけて① 特殊メイクとコスチューム実演	
	11	エンタテインメント業界で働くには（3）（グループワーク） 就職にむけて② エンタテインメント業界の区分け	
	12	プロフェッショナルに学ぶ（5）（ゲスト講師） 第一線で活躍中の演出家による講義 エンタテインメントスタイルとプロデュース感覚と芸術論を学ぶ	
	13	エンタテインメント業界で働くには（4）（グループワーク） 就職にむけて③ 「エンタテインメント業界で働くには」をテーマにグループワークを行う①	
	14	エンタテインメント業界で働くには（5）（グループワーク） 就職にむけて④ 「エンタテインメント業界で働くには」をテーマにグループワークを行う②	
	15	エンタテインメント業界で働くには（6）（グループによるプレゼンテーション） グループによる「エンタテインメント業界で働くには」のプレゼンテーション、評価と振り返り エンタテインメントのグローバルな産業への広がり	
到達目標・基準	◎A：エンタテインメント業界の現状に対して、協調性を持って話し合いをすすめることができる。 ○C：舞台芸術の比較、分析を討議できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館にてビジュアル系雑誌とビジネス系雑誌である日経MJ、WWDを必ず読んで授業で説明、発表出来るようにしておくこと（20分）。 事後学習：毎回到授業で学んだことを更に深める為、アート系雑誌、及び東洋経済、週間ダイヤモンド、アエラを一読すること（25分）。		
指導方法	映像を使用した講義とワークショップ形式で授業をすすめる。グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。様々な職種にもふれ、役割や仕事内容なども解説する。レポート作成やファイル作りも加えながら指導		



	していく。
成績評価の方法・基準	A：課題のオリジナリティを評価する。 C：プレゼンテーションを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する
参考書	左脳と右脳を認識しながら、左脳としては東洋経済、週刊ダイヤモンド、AERA、CUT、等。 右脳としては、View、Wear、VOGUE、BAZAAR、ELLEatTABULE、ELLEDECO、等を毎日図書館にて目を通すこと。
履修上の注意	本学図書館にある上記書籍は、社会の第一線で活躍する人材が参考にしているものであり、就職活動や就業の際にも役立つものである。なお、レポート等の題材は参考書籍より取り上げる。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク ・プレゼンテーション
ICTの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F28C69			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生が自ら志望大学合格に必要な分野を調べ、それをもとに組んだ計画に従って、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎C：編入志望大学に合格する為のスケジュールを策定し、受験科目の目標を策定することができる。</p> <p>○D：編入先の大学にて通用する知識、論理的思考力を身につける。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション・学習計画書の作成 編入に向けて、準備をする	
	2	進学準備カウンセリング 進学に向けて話し合う	
	3	情報収集 自分が関心を持つ分野と、その分野にどのような大学があるか情報を収集する	
	4	大学研究 進学先の大学等を研究する 進学先の大学等を研究する	
	5	試験対策（1） 学科など試験に必要な対策を行う	
	6	試験対策（2） 学科など試験に必要な対策を行う	
	7	試験対策（3） 学科など試験に必要な対策を行う	
	8	大学研究 志望大学のオープンキャンパスなどのスケジュールの確認	
	9	対策状況確認 現在の対策状況を確認し、改めて対策を練る	
	10	小論文対策（1） 編入希望の学部に関するキーワードでの小論文対策	
	11	小論文対策（2） 編入希望の学部に関するキーワードでの小論文対策	
	12	進学準備カウンセリング 進学に向けて話し合う	
	13	試験対策（4） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	14	試験対策（5） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	15	対策状況確認 現在の対策状況を確認し、編入に向けて後期からの対策を練る	
到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることができる。 ○D：小論文の知識を取得し、順序だてて組み立てることができる。		
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ対策を行う(30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う(30分)。		
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策、小論文指導を行う。 フィードバックの仕方：小論文などの課題に関しては、添削指導を行う。		
成績評価の方法・基準	C：面談等から志望大学合格のためのスケジュールが組まれているか、計画を行動に移せているかなどにより判断する。 D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書			
履修上の注意	自主的に志望大学の情報収集等を行うこと。		
アクティブ・ラー	特になし		

ニング	
I C Tの活用	特になし